参観案内

「第３２回全国バズ学習研究大会」に
おいでいただき、誠にありがとうございます。
今年度，泉小中学校では研究主題「個と集団を鍛えるバズ学習の究明」のもと，教科の基礎・基本の確実な定着を目指し，バズ学習の「個人はよりよき集団を形成し，集団はよりよき個人を形成する」という理念に基づいた教育活動を展開しております。本日は，各教科の公開授業を通して，お互いの見方・考え方を出し合い，よりよき方向を探っていこうとする児童・生徒の姿をご覧いただけると思います。
また，開会行事においては，泉中の顔である３年生生徒諸君による学年合唱披露，昼食時のアトラクションでは吹奏楽部のブラス演奏を行います。
どうぞ，時間のゆるす限り，このリーフレットを参考にご参観ください。

平成１２年１０月３１日〔火〕
土岐市立泉小学校
土岐市立泉中学校

泉中学校

クラス	教科	単元・題材名	授業者	教室
1－E	音楽	混声三部合唱「夢は大空を駆ける」	小木曽尚子	第1音楽室
1－B	美術	鑑賞活動・絵画を味わう	小栗祥吾	1B教室
3A男	保体	武道・剣道	奥村彰浩	体育館
2－E	技家	家庭環境の整備と住まい方	毛利知美	家庭科室

＜中学校＞ ＊公開授業以外のクラスも自由に参観ください。

受付 8：55～ | 公開授業Ⅰ 9：35～10：25 各教室 | 移動 | 公開授業Ⅱ 10：40～11：30 各教室 | 移動 | 開会行事 11：45～ 体育館

泉中へ移動

＜小学校＞

受付 8：55～ | 公開授業Ⅰ 9：35～10：20 各会場

泉中学校

クラス	教科	単元・題材名	授業者	教室
1－C	国語	「木琴」の群読をしよう	高橋篤	1C教室
3－G	社会	高齢化社会を支えるもの	林幸寿	3G教室
2－A	数学	図形の調べ方	田中靖治	2A教室
3－F	理科	運動とエネルギー	伊藤友子	第1理科室
2－D	英語	Sea Forest	玉川香	2D教室

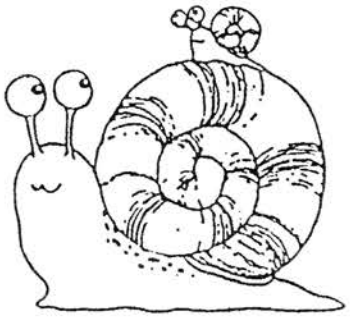
泉小学校

クラス	教科	単元・題材名	授業者	教室
1－4	生活	いっしょにあそぼう	吉田雪絵	泉小附属幼稚園
2－3	国語	お手紙	加藤直子	2－3教室
3－3	算数 TT	わり算の筆算	岩崎秀子 後藤祐輔	3－3教室
4－4	社会	低地の人々のくらし	小栗敏子	4－4教室
5－2	理科	おもりのはたらき	西戸義正	理科室
6－1	はなのき	広がれ！わたしたちの土炎歌	藤原馘	6－1教室

第3
全国バス学

◇ 学年合唱披露
泉中学校3年生

(1) 挨拶
(2) 歓迎の言葉
(3) 来賓祝辞
(4) 研究発表



第1分科会	
第2分科会	
第3分科会	
第4分科会	
第5分科会	
第6分科会	

移転かな

2回 習研究大会

教科	助言者	会場	教科	助言者	会場
国語	萩原克巳（前南山大教授） 山田利彦（明智中学校長）	1C教室	美術	岩田鎮人（春日井市教委） 東濃教育事務所	美術室
社会	磯村義幸（明智小学校長）	3G教室	保体	中野克義（中津川南小校長）	3C教室
算数数学	加藤孝史（春日井市相談員）	2A教室	技家生活 はなのき（総合）	原　淑子（上矢作小校長）	視聴覚室
理科	阿部吉一（春日井市教委） 小島幸彦（中京短大講師）	第1理科室			
音楽	竹下英二（福島大教授） 平井健次（東明小校長）	第1音楽室	英語	東濃教育事務所	2D教室

生徒

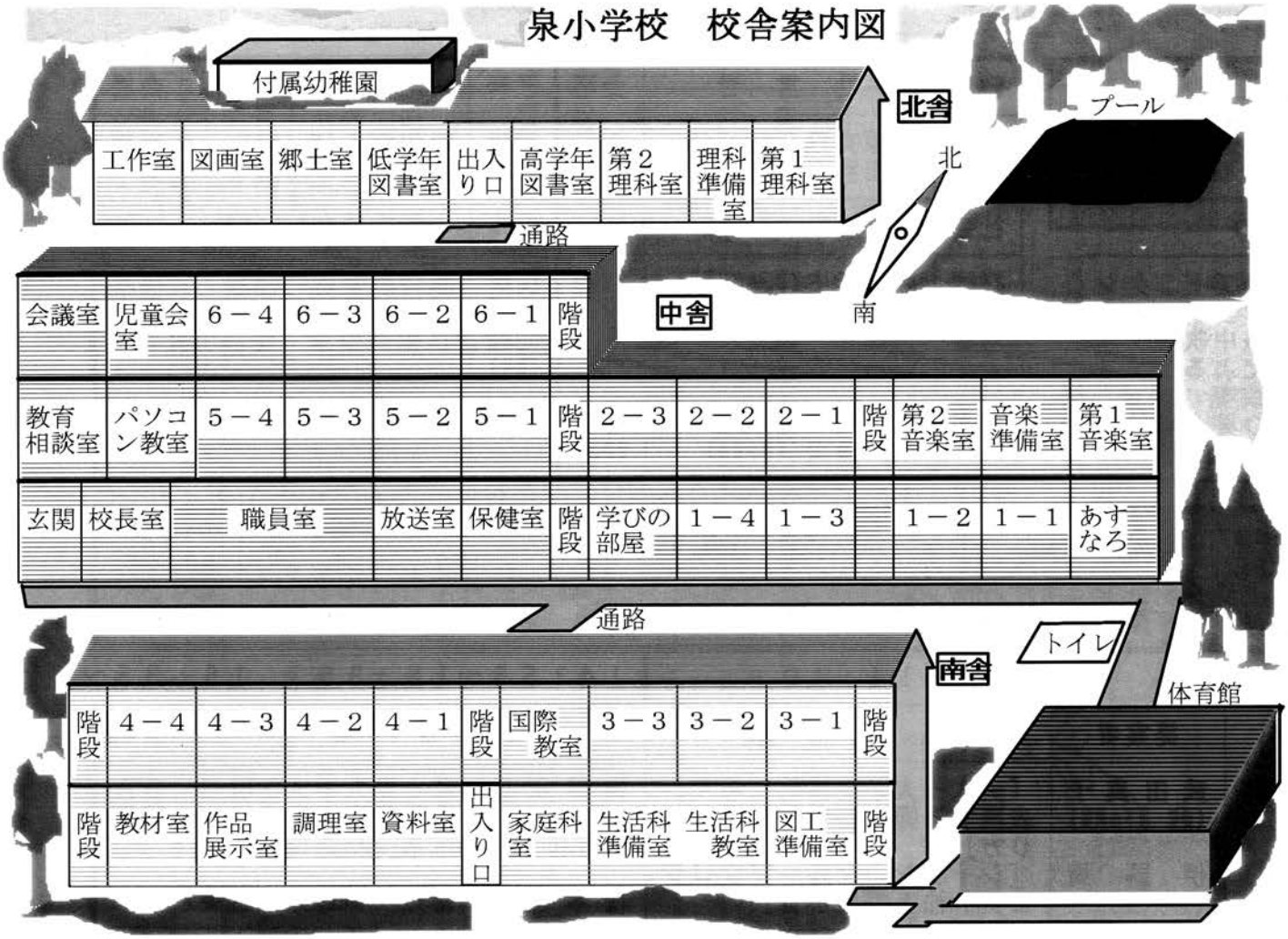
◇アトラクション
泉中吹奏楽部によるブラス演奏
◇昼食は体育館にて引換え

昼食	昼食 アトラクション 体育館	教科別授業研究会 各会場	移動	分科会 各会場	挨拶 TV放送
	12：45～	13：30～14：40		14：55～16：35	16：35～

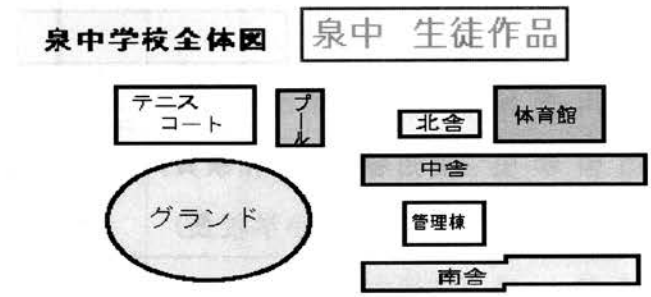
テーマ	提案者	発表主題	助言者	会場
バズ学習の基礎・基本	武田真子（愛知　坂下小教諭） 伊藤篤（神戸大学助教授）	「一人一人が主体的に考え、表現する国語科学習指導のあり方」 「シャランのグループプロジェクト法と協同学習」	梶田正巳（名古屋大学大学院発達科学研究科教授） 望月和三郎（東京　バズ役員） 松本重雄（愛知　春日井市教委）	3A教室
教科学習とバズ学習	繁田聡（愛知　味美中教諭） 筒井昌博（静岡　大富中教諭） 石川俊一郎（東京　泉南中教諭）	「理科における防災教育」 「理科授業におけるジグソー学習の導入」 「国語科における情報を生かした指導法の工夫」	荻原克巳（前南山大学教授） 田中俊也（関西大学教授） 久保田滋（芦屋大学研究所） 竹下英二（福島大学教授）	3B教室
生徒指導（カウンセリング）とバズ学習	市川千秋（三重大学教授） 井上哲郎（上越教育大学大学院）	「学級で行なうカウンセリング」 「通常学級で学習するADHDや軽度自閉症的傾向などの児童・生徒への一事例報告」	市川千秋（三重大学教授） 加藤孝史（愛知春日井市相談員） 吉井秀人（三重　豊地小学校長）	3C教室
特別活動とバズ学習	楯明夫（岐阜　坂本中教諭） 桑原香之（愛知　鷹来中教諭）	「主体的な活動を目指す生徒会づくり」 「一人一人を生かした自治的集団づくり」	関田一彦（創価大教授） 石田勢津子（名古屋外国語大学教授） 岩田鎮人（愛知　春日井市生涯学習委員） 鹿内信善（北海道教育大学教授）	3D教室
総合的な学習とバズ学習	山口実史（東京　泉南中教諭） 小原正彦（愛知藤山台小教諭） 三宅裕一（岐阜　泉中教諭）	「多様な授業の取り組み」 「地域素材を生かした総合的な学習」 「バズ学習を生かした総合的な学習」	宇田光（松阪大学教授） 石田裕久（南山大学教授） 寺井正輝（愛知　柏原小学校長） 阿部吉一（愛知　春日井市生涯学習委員）	3E教室
幼児教育・地域連携	遠山孝志（愛知　白山小教諭） 越智昭孝（広島全国バズ役員）	「開かれた学校として」 「地域の教育力とバズ学習」	伊藤康児（名城大学教授） 杉江修治（中京大学教授） 丸山正克（愛知　保育園長） 長谷川貢一（東京　阿佐ケ谷第二中学校長）	3F教室

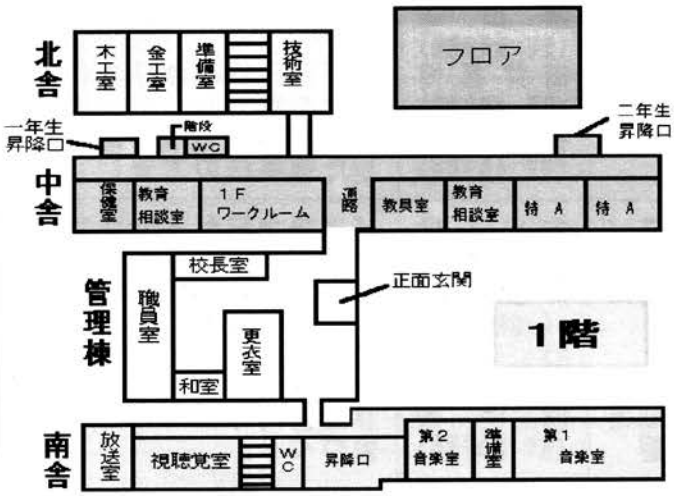
488

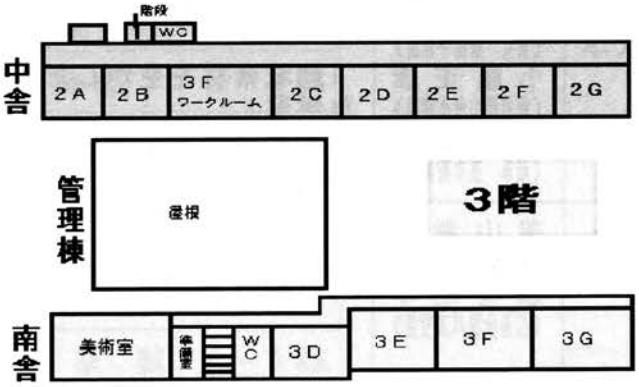
泉小学校　校舎案内図



泉中学校　校舎案内図







泉中数学科研究構想

＜学校の教育目標＞
創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案
◇事象を数理的に考察する能力を高め，進んで活用する態度を育てるために，効果的なバズの方法・場の設定の工夫をしていく。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明
◇数量，図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め数学的な表現や処理の仕方を習得させるために，バズ学習を通して生徒を変容させるための手立てを究明する。
・『発見バズ』を活用し，一人一人の発想や着眼点を生かした課題づくりをする。
・課題追究の際に『探究バズ』を活用し，自分の考えを深めたり多様な考え方があることに気づかせたりする。
・『理解バズ』を活用し，学習内容の定着を図る。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着
◇根拠を明らかにしながら，仲間とともに学ぶ力を育成するために，バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。

＜研究仮説＞
互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞
個と集団を鍛えるバズ学習の究明
―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜数学科学習で願う姿＞
◎事象の中の数理的な側面をとらえ，課題化できる姿
◎数量，図形についての基礎的・基本的な知識や技能を習得し，進んで活用する姿
◎根拠を明らかにしながら考察し，課題解決ができる姿
◎仲間と考えを交流し合い，お互いの学力とともに，仲間意識を高めていく姿

＜生徒の実態＞
○素材や学習課題に対して興味関心をもち，主体的に課題追究に取り組もうとする姿が生まれてきた。
○班の仲間と自分の考えを出し合うことができる。
△自らの数学的な見方や考え方を，全体の場で広めていく意識が低いために，全体の学び合いが深まらない。
△全体の場で，自分の考えや疑問を出し合って，高め合っていこうとする姿勢が弱い。

特別公開Ⅱ（１０：４０～１１：３０）

泉中２年Ａ組　　数学科学習指導案

場　所　２年Ａ組教室（中舎３階）
授業者　田 中　靖 治

１　単元・題材名　　「図形の調べ方」

２　指導の立場

（１）単元について

図形領域の学習において，小学校では，図形を折ったり重ねたりするような具体的操作や直観的な取り扱いを通して，図形のもつ性質を身につけてきた。また中学校第１学年では，直観的に見つけた性質を，さらにいくつかの場合について調べることで，帰納的に確認をしてきた。

これをうけて第２学年では，まず既習知識をもとにして直観的に性質を見つけたり，帰納的に確認する力を大切にしていく。そのうえで，一般性を確認するためには直観や帰納的な確認による説明では不十分であることに気づかせ，演繹的な論証が必要であることを理解させていくことになる。

本単元は，小学校から学んできた図形の性質を，直観や帰納的確認だけでなく演繹的に論証することの必要性を理解する最初の場面となる。そこで毎時間の提示素材については，直観や帰納的確認により「いつもいえそう」なことがらを見つけだせるように工夫していく。そして，それが「いつもいえる」性質であることを演繹的に論証していく。この活動を通して，数学的な見方・考え方の一つである論証の有効性について実感させていく。.

なお，生徒にとって論証は初めてであることから，その仕方については，文章で書いていたり図の中に簡単な記号（○×など）を入れて説明している生徒もおおいに認めていく。そして，できるだけ多くの生徒に説明させていくことで，全員の論証に対する理解を深めていくように配慮する。

（２）生徒の実態

図形領域の学習において，第１学年の履修時には次のような姿が見られた。

・分度器やコンパスは，ほとんどの生徒が正確に扱える。しかし，その速さについては個人差が大きい。
・角度を求めたり性質を見つけたりすることに対しては,パズル的な要素もあるため，熱中して取り組む生徒が多い。

また，学級のバズ学習の様子として，次のような姿が見られる。

・学習課題について，わからないことを聞いたり自分の考えたことを説明したりすることは，各班ともほぼできている。
・わかった生徒がわからない生徒に説明するスタイルでの進行が多く，みんなで考えを練り合うという活動に弱さが見られる。

こうした実態をふまえて，本単元では自分たちが見つけたことがらが「いつもいえる」と説明できたときの達成感を大切にしていく。そのために，論証の形式ばかりにこだわるのでなく，個々の発想や言葉を大切に位置づけていく。したがって，バズ学習においても，リーダーの進行のもとで全員が説明する機会をもつようにし，一人一人の主体的な課題追究姿勢の定着を意図していく。

（３）研究主題との関わり

単元の学習活動を仕組むにあたり，各時間でつけたい力を明らかにするために，単元指導計画には４観点（意欲・関心，思考力，表現・処理，知識・理解）についての評価規準を位置づけた。また，そうした力をつけていく手立てとして，各時間の学習内容に即したバズ学習の種類（発見，探究，理解，補強）についても位置づけた。本時は，単元全１２時間の中の第１０時間目にあたり，演繹的な論証である「証明」の仕組みを理解して，実際に進めていく手順を学ぶ場面となる。前時までに生徒は以下のような学習をしてきている。

・ある性質（結論）がいつもいえることを，与えられた条件（仮定）やすでに明らかになっている性質をもとに説明する道筋を「証明」ということ。(第８時)
・線分の長さや角の大きさが等しいことを証明するには，合同になりそうな三角形の組に目をつけて，合同条件を利用していくことが有効であること。(第９時)

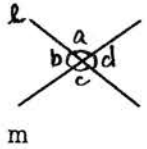
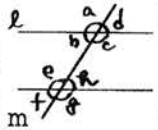
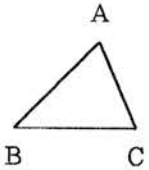
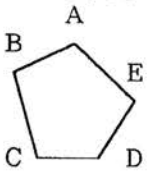
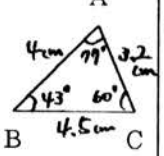
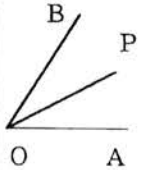
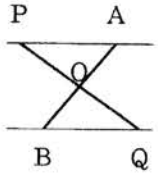
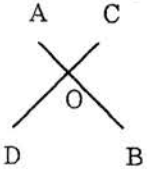
これをふまえて本時は，図の中の等しくなりそうな関係や合同になりそうな三角形の組を，個人追究やバズ学習で見つけだして証明していく活動を仕組んでいく。

本時の学習過程において，導入（つかむ）では，まず提示素材をもとにして「発見バズ」を行う。このバズによって，できるだけ多くの等しくなりそうな関係に目を向けられるようにしていく。そして，出てきた意見を整理することで，証明が必要な関係を明らかにして課題設定をする。次に展開（ふかめる）では，合同になりそうな三角形の組をもとにした証明の個人追究後に「探究バズ」を行う。このバズによって，互いの証明のポイントを学び合い，一人一人が自力で証明を完了できるまで支え合えるようにしていく。全体交流では，図を指しながら証明を進めさせ，その説明の中にあるよさを認め広めていくことで，説明に対する苦手意識を解消していく。最後に終末（まとめる）では，証明の重要性をおさえるとともに補助線の有効性を位置づけていく。また，各過程で見られた生徒のよさを評価していく。

数学の授業でバズ学習を成立させていくために，バズはみんなで学び合う場であることを確認してある。そして，「自分のわかることやわからないことを，すべて仲間に伝えること」と「相手の立場を考えて自分の意見を伝えること」をポイントとして指導してきている。これにより教え合いは定着してきた。さらに考えの練り合いを深めるために，リーダーには「わからなかった子も，どこまで考えたかという意見を言うようにうながすこと」を話し合いの進め方のポイントとして指導に加えてきている。論証の学習は生徒にとって苦手意識を持ちやすい内容となりがちである。バズ学習を通して証明の仕組みについての理解の深まりや，結論にいたるまで粘り強く取り組もうとする姿勢の高まりを目指していきたい。

3　単元の目標　図形を調べるうえで基礎となる見方・考え方や基本的な性質を明らかにすることを通して，論証の意義やその進め方について理解することができる。

4　単元指導計画

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10(本時)	11	12
ねらい	根拠を明らかにし対頂角や平行線の性質を理解できる。	平行線の性質をもとにして条件を考え，理解できる。	三角形の内角の和は180°であることが理解できる。	三角形をもとに多角形の角の和の求め方が理解できる。	問題演習で学習事項を確認できる。	合同図形の性質から三角形の合同条件を見つけられる。	合同条件から三角形の合同を判断できる。	仮定から結論にいたる証明の仕組みが理解できる。	三角形の合同条件を利用して証明を進めることができる。	三角形の合同条件を利用して証明を進めることができる。	問題演習で学習事項を確認できる。	単元テストで学習内容の定着を評価する。
素材	2直線が交わっている。  	2直線に1直線が交わっている。 n  	三角形ＡＢＣがある。  	五角形ＡＢＣＤＥがある。  	教科書 ｐ９９	次のような三角形がある。  	三角形がたくさんかいてあるプリントを配布する。	角の二等分線  	ＡＢの中点をＯとする。  	２線分がＯで交わっている  	教科書 ｐ１１１	評価問題
学習課題	対頂角が等しくなることを説明しよう。	どんなことがいえれば，ℓ//mといえるだろうか。	どんな三角形でも180°になることの説明を考えよう	いろいろな多角形の内角の和を求めよう。	学んだ性質を使って取り組もう。	どんなことがいえれば三角形は合同になるだろうか。	合同条件を使って合同な三角形を見つけよう。	∠ＡＯＰ＝∠ＢＯＰとなる理由を考えよう。	三角形の合同条件を使ってＰＯ＝ＱＯを証明しよう。	明らかな関係をもとにしてＡＤ＝ＣＢを証明しよう。	学んだ性質を使って取り組もう。	学んだ性質を使って解決しよう。
意欲	角の大きさの変化に注目をして，性質を見つけようとする。		自分なりに図形をかいて，その図をもとに角の性質を調べようとする。		ここまでに学習した性質を利用し，それぞれの問題にあてはめて考えて解決を図ろうとすることができる。	辺と角をいろいろ組み合わせてかく。	合同条件をあてはめて考えようとする。	自分の言葉で説明しようとする。	図の中にある等しくなりそうな関係を見つけて説明しようとする。		ここまでに学習した性質を利用し，それぞれの問題にあてはめて考えて解決を図ろうとすることができる。	ここまでに学習した性質を利用し，それぞれの問題にあてはめて考えて解決を図ろうとすることができる。
思考力	ａ＝ｂ，ａ＝ｃならばｂ＝ｃと考えられる	同位角や錯角に注目して調べる。	３つの角を一直線上に並べて考える。	多角形を三角形に分割して考える。		合同図形の性質をもとにして考える。	三角形の角の性質を利用して考える。	与えられた三角形の組でどの合同条件が使えるかを考える。		合同になりそうな三角形を見つける。		
表現	理由づけをして説明ができる。	対頂角の性質を使って説明ができる。	平行線の性質を使って説明できる。	三角形の性質をもとに式化ができる。		見つけた条件を説明できる。	合同になる根拠を説明できる。	証明の仕組みにしたがって書ける。	仮定と結論を明確にして，証明を表現できる。場面に応じて合同条件が利用できる。			
理解	対頂角の性質，平行線の性質がわかる	平行線になるための条件がわかる。	三角形の内角や外角の和の性質がわかる	多角形の内角や外角の和の性質がわかる		合同図形の性質や三角形の合同条件がわかる。		仮定，結論，証明の意味がわかる。	線分や角の等しさを証明するのに三角形の合同条件の利用が有効であることがわかる。			
バズ	理解バズ	理解バズ 補強バズ	探究バズ	探究バズ	補強バズ	理解バズ	探究バズ	理解バズ	探究バズ	発見バズ 探究バズ	補強バズ	

泉中数学科研究構想

＜学校の教育目標＞
創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案
◇事象を数理的に考察する能力を高め，進んで活用する態度を育てるために，効果的なバズの方法・場の設定の工夫をしていく。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明
◇数量，図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め数学的な表現や処理の仕方を習得させるために，バズ学習を通して生徒を変容させるための手立てを究明する。
・『発見バズ』を活用し，一人一人の発想や着眼点を生かした課題づくりをする。
・課題追究の際に『探究バズ』を活用し，自分の考えを深めたり多様な考え方があることに気づかせたりする。
・『理解バズ』を活用し，学習内容の定着を図る。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着
◇根拠を明らかにしながら，仲間とともに学ぶ力を育成するために，バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。

＜研究仮説＞
互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞
個と集団を鍛えるバズ学習の究明
―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜数学科学習で願う姿＞
◎事象の中の数理的な側面をとらえ，課題化できる姿
◎数量，図形についての基礎的・基本的な知識や技能を習得し，進んで活用する姿
◎根拠を明らかにしながら考察し，課題解決ができる姿
◎仲間と考えを交流し合い，お互いの学力とともに，仲間意識を高めていく姿

＜生徒の実態＞
○素材や学習課題に対して興味関心をもち，主体的に課題追究に取り組もうとする姿が生まれてきた。
○班の仲間と自分の考えを出し合うことができる。
△自らの数学的な見方や考え方を，全体の場で広めていく意識が低いために，全体の学び合いが深まらない。
△全体の場で，自分の考えや疑問を出し合って，高め合っていこうとする姿勢が弱い。

泉中社会科研究構想

＜学校の教育目標＞

創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案

◇社会的事象に対して意欲的に追究させ，社会的認識を深めさせるために，効果的なバズの方法･場の設定を工夫していく。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明

◇社会的事象に対して意欲的に追究させ，社会的認識を深めさせるために，バズ学習を通して，生徒を変容させるための手立てを究明する。

・事実をもとに生まれた学習課題の設定や，達成目標のはっきりしたバズテーマによる探究バズを中心に行う。

・バズから生まれた生徒の提案をもとに，考えを深めたり広めたりできる学習活動を工夫していく。

・各グループが，自分たちなりの主張や問題提起ができるように，各グループに応じた指導・援助を工夫していく。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着

◇社会的事象に対して意欲的に追究させ，社会的認識を深めさせるために，バズ学習の進め方を含めた基本的な授業のあり方を究明していく。

＜研究仮説＞

互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞

個と集団を鍛えるバズ学習の究明

―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜社会科学習で願う姿＞

◎社会的事象に対して意欲的に追究でき，思考と認識を深める姿

◎資料や事実を足場に，積極的に意見が出せ，相互作用で深め合える姿

＜生徒の実態＞

○社会的事象に対する興味・関心は高く，意欲的に自分の考えを発表することができる。

○リーダーの司会で全員が自分の考えを発表し，考えを広げていくことができる。

△資料や事実の意味を正確に理解しながら，思考と認識を広げていく力がやや弱い。

△仲間と自分の考えの違いをとらえ，より真理に近づけていこうという高まりにやや欠けている。

特別公開Ⅱ（１０：４０～１１：３０）

泉中３年Ｇ組　社会科学習指導案

場　所　３年Ｇ組教室（南舎３階）
授業者　林　幸寿

１　単元・題材名　「ともに生きる社会」（高齢化社会を支えるもの）

２　指導の立場

（１）単元について

国民生活の向上を図るためには，経済活動を活発にすることが重要である。そのために，企業や国や地方公共団体は，さまざまな努力を行っている。しかし，経済活動の効率を優先することによって，労働者や環境の保護，福祉の充実がおろそかになってはならない。本単元では，国民生活の保護や福祉向上を図る国や地方公共団体の働きについて理解するとともに，国民もその活動に積極的にかかわることの大切さについて理解することを目標としている。

日本の福祉において，急速な少子高齢化は大きな課題である。本単元では，社会保障の中でも，特に老人福祉に焦点をあてる。老人福祉を将来に渡って保障していくために，今年の４月より介護保険制度が実施されている。介護保険制度は，従来の老人福祉と老人医療の制度を再編成し，老人福祉財政の安定化を図るものである。これにより，サービスの選択肢が多くなる一方で，費用を負担する人口も多くなる。これは，老人福祉にとって，国民全体が関わっていくことの必要性の一端を表している。今後は，老後を考えた健康管理や貯蓄，扶養についての家族での話し合い，また，福祉サービス改善の要望など，能動的に高齢化社会に対応していく意識や態度が一層大切となる。このような態度は，女性の労働環境の問題やリサイクル問題にも関連している点が多い。国や地方自治体の政策を待っているだけでは対応が遅れてしまう世の中になってきている。ともに生きる社会とは，国と国民や企業，または，自治体と住民や家族の者同士が互いに，時代や環境の変化に対応する意識改革に努め，協力して活動し，生活を守っていくことであると考える。

本単元では，まず，社会保障制度全般，福祉財政の問題点，介護保険制度について理解する。その上で，老人介護についての具体的な事例をもとに個々の考えを深める。介護者や被介護者の願いや人権，福祉サービスの現状，費用の負担など，多角的に介護について考えることによって，高齢化社会の一員としての問題意識を高めたい。そして，女性の労働問題やリサイクルの問題でも同じような視点があることに気づき，国や地方自治体とともに自らもこれらの問題について考え，活動していこうとする意識を高めたい。

（２）生徒の実態

題材名「豊かな社会をめざして－社会権－」（単元名「人権を守る社会」）において，生徒は，生存権（憲法第25条①「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」）をすでに学習している。この学習において，国家予算にしめる社会保障費の推移のグラフから，生徒の多くが，日本の急速な高齢化を理由に，今後も社会保障費が増加することを予想した。そして，多くの生徒が社会保障によって生存権を守ることは大切であるとした。しかし，社会保障費が増加しつづけることを積極的に受け入れようとする意見は少なかった。このとき，権利の主体者として，それを自ら守っていこうとする意識をもつことの難しさを改めて感じた。

これまでも，公民の学習において，権利の主体者として能動的に考えるためのバズを何度か行ってきた。例えば，平等権の学習では，身体に障害のある人のことを３，４歳くらいの子どもにどのように説明するかを話し合った。平和主義の学習では，核兵器が多く存在する理由について，核保有国，非核保有国それぞれの意見を比較・意見交流し，自分なりの意見をつくる活動を行った。このような活動において見られる，消極的な意見の傾向を次のように分類した。

Ａ	：	問題を楽観的にだけ捉え，比較的単純な解決方法を考える。
Ｂ	：	問題を悲観的にだけ捉え，あきらめや忍耐に頼る解決方法を考える。
Ｃ	：	解決方法をなかなか見つけ出せず，考えることをあきらめる。

このような姿の一方で，バズにおいて，問題の難しさや解決への願いをありのままに語れる生徒が班に一人ずつはいる。このような生徒の意見，態度を価値付け，広めることができたときは，積極的に問題解決を図ろうとする生徒の姿が多く見られた。

また，バズの後，一つの班が意見を提案し，それをもとに話し合いをすることも何回か行ってきた。目標を「提案」にすることによって，意見の共通点や相違点を意識したバズが行われやすくなった。提案は班全員でおこなうため，協力関係も生まれやすい。しかし，全体での話し合いでは，意見が明確に対立する場合は感情的になりやすく，対立しない場合は深まりに欠ける傾向がある。これらに対応する手立てとして，複数の視点から考えることができ，かつ，複数の選択肢のどれにも一理ある資料を提示するようにしてきた。その上で，論点を絞る発問を行うようにしてきた。

（３）研究主題との関わり

本単元では，本時を中心となる授業として位置付けている。本時は，高齢化社会の中で生き生きと暮らしていくにはどんな考えや態度が必要であるか，を具体的な事例をもとに話し合う。この話し合いが多角的な視点（経済的負担，介護施設やサービス利用の長短所，被介護者に対する家族の気持ち，被介護者の気持ち，人権を守る意識）をもって行われることが，単元の目標に迫るためのポイントとなる。

本単元の導入では寝たきりのお年寄りの事例を提示し，発見バズを行う。これによって問題意識を高め，高齢化社会の問題点を考える視点（福祉財政，介護施設やサービス，介護する家族の気持ち）がもてるようにする。それぞれの学習では，次のようなバズを行う。

福祉財政では，老人福祉費の高負担化への対策について探究バズを行い，制度改正の必要性，介護者不足についての問題意識を高める。介護保険制度については，自分や家族の老後が新制度で安心かそうでないか探究バズで考え，新旧制度のちがいの理解を深める。また，このバズから課題「高齢化社会で，老後を生き生きと生活するには，どうしたらよいか。」を設定する。本時は，この課題を介護の具体的事例を通して追究する。この資料は老人介護をどのように解決するかを問いかけるものである。その方法として次の３つの選択肢を提示する。

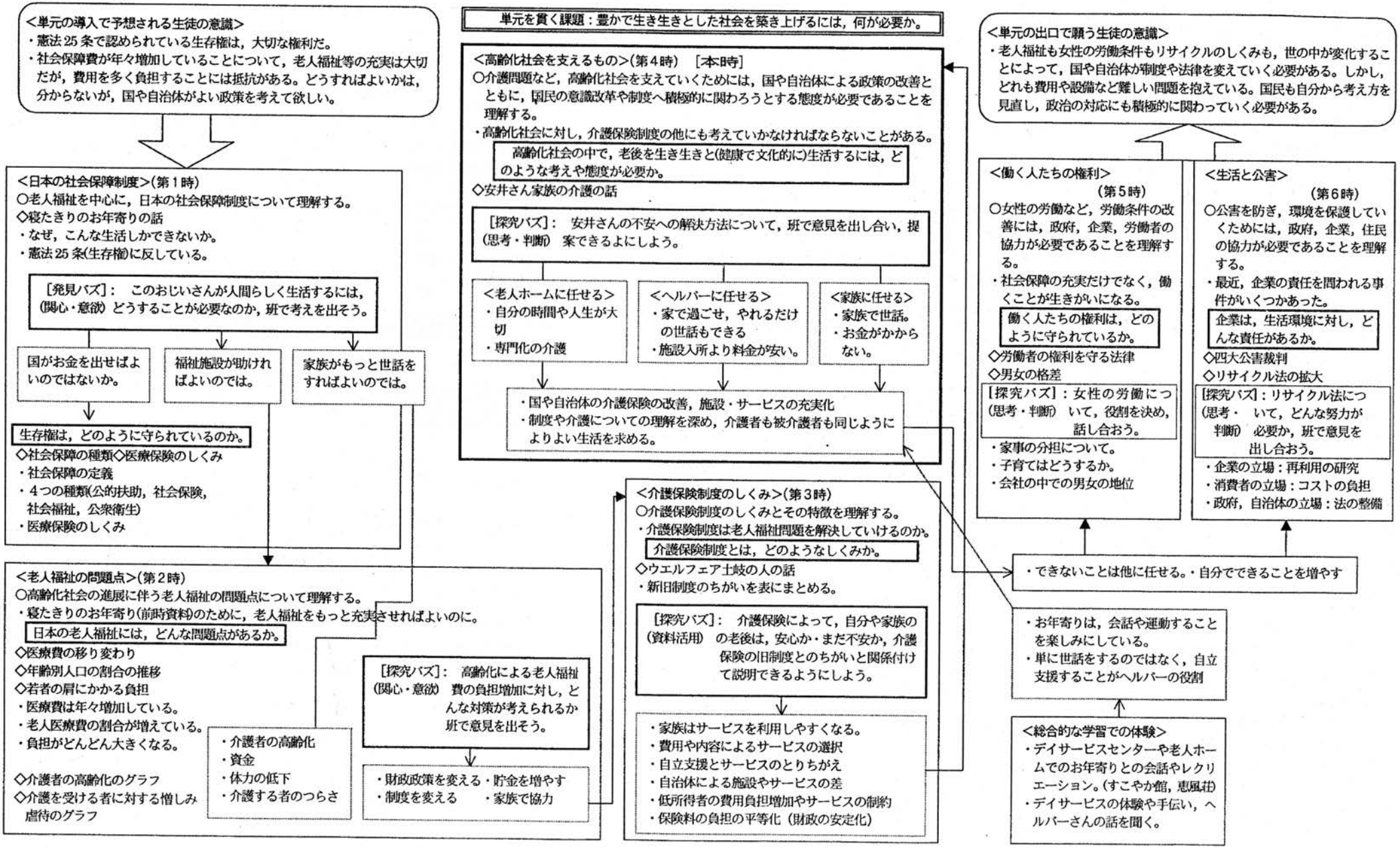
選択①：老人ホームに任せる	選択②：ヘルパーに任せる	選択③：家族に任せる

バズではどの考えにも利点と問題点があることを助言し，意見提案の必要性が感じられるようにする。学級全体での話し合いでは，どんな視点からの意見かを明らかにし，多角的な視点に立つことを促していく。バズによって広げた視点をさらに広め，それに伴って結論を出すことが難しくなり，さらに考える活動としたい。その中で，「どの立場の人もよりよく生活できるように話し合い，努力する態度が必要」といった意見をとりあげ，互いに努力する態度が大切という考えに焦点化して行く。話し合い後は，ヘルパーさんの話により，自立を支援するためにヘルパーの仕事や福祉施設があることを理解する。自ら努力することがサービスを受ける基本であり，その視点に立って必要な施設やサービス，あるいは制度改善を要求することの大切さを理解できるようにしたい。

3　単元の目標

高齢化社会の進展における老人福祉の問題を考えることを通して，国民の福祉を向上させていくためには，国や自治体による社会保障の財政や制度改善の努力とともに，国民が自ら高齢化社会に対応した意識変革や政治への積極的な関与を行っていくことが必要であることに気づき，また，このことは，労働条件の改善や環境保護においても共通するものであることを理解する。

4　単元指導計画　「ともに生きる社会」（全６時間）



5　本時の目標

介護をしている家族の事例について話し合うことを通して，高齢化社会における介護問題を解決していくためには，介護者と被介護者が互いに相手のことを考え上で必要な福祉サービスの活用や費用の負担を決めたり，福祉政策の改善に関心をもったりして，介護者・被介護者の両者が豊かに生活していけるための方法について考えることができる。

6　本時の展開

過程	学　習　活　動	教師の指導・援助
課題把握	○前時の学習をふり返り，自分や家族が安心して老後の生活を送るためには，介護保険制度があっても心配が多いことを確認する。 ・お金が無いと十分なサービスが受けられない。(高齢化進展による費用負担の増加) ・自治体によって施設，サービスの差がある。(自治体の政策による差) ・家族でうまく協力できるかわからない。(介護についての人権意識の差) **老後を生き生きと生活するには，どうしたらよいか。**	◇介護保険制度についての表(実施前，実施後のちがい) ※前時のまとめから，自分や家族の老後の心配についての意見を把握しておく。 ※制度，設備，人のそれぞれの視点からの意見が出るように，意図的指名を行う。
／課題追究	○安井さん家族の介護の話を読み，安井さんの不安に対する解決策について，班で話し合い意見の共通点や相違点をまとめる。 ○立場を選択し，その理由をノートに書く。 ＜老人ホームに任せる＞(選択①) ・安井さんの健康が大切。 ・専門家によって24時間介護してもらえる。 ＜ヘルパーに任せる＞(選択②) ・おじいさんが家で過ごせる。 ・安井さんもできるだけの世話はできる。 ＜家族に任せる＞(選択③) ・家族の手で介護するのがよい。 ・施設に任せきりにはできない。(問題点がある。) **[探究バズ]：安井さんの不安への解決方法について，班の意見を提案できるようにしよう。** ○一つの班が意見提案をし，これをもとに学級で話し合う。 選択①老人ホームに任せる 選択②ヘルパーに任せる 選択③家族に任せる ＜介護する者の権利＞ ・体力の低下 ・自分の時間，人生 ・娘への負担がない ＜サービス利用の意識＞ ・できるだけの世話はできる ・娘への負担が軽く済む ・老人ホームより料金が安い ＜家族意識＞ ・家族で世話したい ・頼みやすい ・他人は気疲れする ・お金がかからない できないことは他に任せる(制度の充実) ・福祉への関心 ・自治体への要求 ＜介護される者の権利＞ ・慣れた場所，介護で過ごしたい ・人付き合いが苦手 ・自分のことは自分でしたい 自分でできることを増やす(自己責任) ・福祉体験で出会ったお年寄りの楽しそうな姿 ・触れ合いの大切さ	◇安井さんの介護についての話と家族構成図 ＜安井さんの介護体制＞ (介護者)　安井さん(義理の娘)(60才)，娘(36才・34才) (被介護者)安井さんの義父母，義父は11年間寝たきり ※選択①～③の立場を明らかにして話し合いを進めるように指示し，バズに入る。 ※机間指導により，全員の立場(選択①～③)を把握する。 ※意見が分かれた班を提案に指名する。 ※選択①の考えに対しては，おじいさんが施設入所を嫌がっていることや，そのことを家族も理解していることについて問い返すように指示する。(実態Aへの対応) ※選択②の考えに対しては，おじいさんと安井さんの2人ともが気疲れすることや，選択③よりもどの程度メリットがあるのか問い返すようにする。(実態Cへの対応) ※選択③の考えに対しては，介護保険料を払う意味があまりないことや，娘の義父母への介護はどうするかを問い返すようにする。(実態Bへの対応) ※「どの人も本当の気持ちを出し合う」といった意見をとりあげ，結論を急ぐより，どの立場の人もよりよく過ごせるよう話し合い，努力することが大切であることに気づけるようにする。
／学習の整理	○ヘルパーさんの話を聞く。 ○自分の考えや感想をノートにまとめる。 ・それぞれのできること，できないことを考え，よりよく生活するための努力をする。 ・出せる範囲でお金を負担する。本当に必要なサービスを自治体に要求する。 ・家族のみんなが，がまんしすぎたり，すぐにあきらめたりせず，生活していく。	◇ヘルパーさんの話 ・何でもやってくれる人ではなく，自立支援が役割である。ヘルパーの役割の理解など，福祉についての意識を高めることが，高齢化社会での生活を明るいものにして行くヒントになる。

泉中英語科研究構想

＜学校の教育目標＞
創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案
◇聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を目指した，効果的なバズの方法・場設定の工夫をする。
・理解バスや補強バズを中心にして，学習内容をはっきりさせたり，覚えたり，練習したりできるよう，バズを効果的に位置付ける。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明
◇積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせていくために，バズ学習を通して生徒を変容させるための手立てを究明する。
・生徒の個性や願いが発揮できる課題や，インフォメーションギャップがあり，話してみたい聞いてみたいという意欲を喚起する課題を設定する。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着
◇バズ学習を成立させるために，バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。
・バズを支える基本的な対話表現を身につけさせるために，クラスルームイングリッシュを意図的に使っていく。
・聞き手や話し手を意識した，英語での基本的な応答について指導していく。
・フローチャートを使ってバズの基本的な進め方を指導していく。

＜研究仮説＞
互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞
個と集団を鍛えるバズ学習の究明
―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜英語科学習で願う姿＞
◎自分の考えや思いを積極的にコミュニケーションしようとする姿
◎仲間の表現のよさを取り入れ，より豊かなコミュニケーションをしようとする姿

＜生徒の実態＞
○英語を話すことに対する憧れを持ち，興味・関心を持つ生徒が多い。
○リーダーの指示に従い，和やかな雰囲気の中でバズを進めていくことができる班が多い。
△文法の誤りを気にして，積極的にコミュニケーションしようとする態度が弱い。
△自分と仲間の違いに気づき，よさを取り入れていこうとする態度が弱い。

特別公開Ⅱ（10:40～11:30）

泉中2年Ｄ組　英語科学習指導案

場　所　　２年Ｄ組教室（中舎三階）
授業者　　玉川　香

1　単元・題材名　Sunshine English Course 2　Program7　"Sea Forest"

2　指導の立場

(1) 単元について

この単元では，地球の砂漠化の現実と，中東の砂漠緑化のために力を尽くしたある日本人の実話が取り上げられている。環境問題が日々深刻さを増す現代で，砂漠化をくいとめるひとつの方法として，「海水を使って砂漠に木を植えよう」と考えた日本人がいた。それが，向後元彦氏である。彼がそれから７年もの間研究を重ね，ついにはサウジアラビアのカフジに，３万本のマングローブの木を植えるのに成功した，という事実から，環境問題の現実と彼の偉大な功績を生徒たちに実感させたい。そして，生徒たちに環境問題をより身近なものとして捉えさせ，自分の生活の中で少しでも自然を大切にしていこうとする態度を養うきっかけとしたい。

また，言語活動４領域のうちの「話す」「聞く」ことに重点をおき，自分の考えた内容を簡単な英語にして，それを分かりやすく相手に伝えたり，それに対して英語で反応したりする力をつけさせたい。話し手は，大きな声で，ゆっくりと，難しい単語や表現を使うときにはヒントカードを使いながら，相手に分かりやすく伝えることを大切にする。聞き手は，分かったことにうなずいたり，分からないことを　"Once more, please." "I can't understand."などを使って，確かめたりしながら，相手に反応することを大切にしていきたい。

(2) 生徒の実態

生徒たちはこれまでに，中学校一年生の地理で「東南アジアの熱帯雨林の伐採」から，日本が世界一の木材輸出国であり，その多くが東南アジアから運ばれてくること，さらに20世紀に入ってから東南アジアの熱帯林の3/4が破壊されている事実を学習した。しかし，環境問題についてそうした漠然とした知識は持っていても，自分たちがその問題を主体的に受け止め，環境保護のために自分にできることを考えたり，実行に移したりする姿はそれほど見られない。

Program４では，ペレやサッカーについての英文を意欲的に書きまとめ，英語の発表を楽しんでおこなっていた。バズの中では，一生懸命英語を話そうとしたり，聞こうとしたりする姿が見られた。また，"Speak up!"　"Me too!"などの与えられた英語表現を用いて，相手に反応することもできるようになってきた。しかし，聞いている相手をあまり意識せずに発表を進めたり，分からなくても内容を確認しないで済ませてしまう場面も多く見られた。

(3) 単元研究主題との関わり

本年度英語科では，学習した内容を仲間と確かめ合う補強バズと，話す・書く・読む・聞くなどの活動を繰り返し練習しながら身に付けていく理解バズを中心として研究を進めてきた。補強バズでは，学習事項についての基礎・基本の定着と，自信を持って授業に参加できるようにすることを目的としている。また，理解バズでは，多くの仲間と交流することを通して，自分の考えや思いを伝えることができた喜びや，相手の話したことが理解できた喜びを実感させることを通して，より積極的にコミュニケーションする態度を育てていきたいと考えた。

この単元では，環境保護に貢献した向後さんの取り組みを知ることを通して，生徒たちに環境問題について関心を持たせ，自分の身近な問題として捉えさせてきた。そして，本時は，課題を「自分たちの知っている環境問題について，仲間と英語で話してみよう」とした。個人で選んだ問題について，自分なりの考えを英語にして話すことで，「自分の考えを英語で話してみたい」と意欲を持って活動に取り組めるよう考えた。教科書以外の資料を提示することで考える足場を増やし，新たなインフォメーション・ギャップを生み出すための援助をしていく。また，生徒たちが，自分の願いや個性を十分に発揮できるよう，ワードバンクでさまざまな表現を提示することにした。前時では，トピック別のバズをおこない，同じトピックを選んだ仲間からの情報を得て，自分の表現をふくらませた。グループに戻って，より必然性のあるバズを実現させたい。また，さらに意欲的にバズに参加しようする気持ちを持たせるためには，自分の表現が相手に伝わった喜びを実感させることが必要である。それがバズへの意欲をさらに生み出していくと考える。そのためには日々の授業の中で，粘り強く英語を伝えようとしたり，理解しようとしたりする態度を評価してきた。

本時の補強バズでは，次の理解バズで自信を持って発表ができるよう，話し方について，声の大きさやスピードなどをお互いにアドバイスする場としたい。さらに理解バズでは，学級の中でより多くの仲間と英語を話すことで，仲間同士で学習の成果を確かめ合える場としたい。バズ学習においては，司会者（イングリッシュ・リーダー）の指示も英語で進められるように，あらかじめ単元のはじめに，バスの進め方を示したフローチャートを用いて指導を行ってきた。回数を重ねるたびに，英語でのバズがスムーズに進められるようになったり，英語で反応したり質問できる場面が増えていくよう繰り返し指導していく。この単元では特に，O.K? と Once more. が自然に使えるようになることを目標にしている。そのためには，教師自身が授業の中でクラスルーム・イングリッシュを使い，それに積極的に答えようとする生徒の姿を認めていきたい。

3 単元の目標

・不定詞（名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法）と動名詞の形態・意味・用法を理解することができる。
・向後さんの取り組みを知ることで，自分の身近な環境問題に興味を持ち，選んだトピックについてフレームを用いて，環境保護のために自分ができることを英語で話すことができる。
・バズの中で，分かりやすく（声の大きさやスピードを意識する・ヒントカードを用いるなど）英語を伝えようとしたり，英語で反応したり質問したりしながら英語を理解しようとすることができる。(O.K? Once more. を言えるようにする)

4 単元指導計画

単元をつらぬく課題　環境問題についての自分の考えを英語で伝えよう。

①②オリエンテーション
・不定詞（名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法）と動名詞の形態・意味・用法を理解することができる。
・題材の概要をつかみ，単元をつらぬく課題とセクションごとの課題を知り，学習の見通しを持つことができる。
・出口の活動を目標に，各セクションごと，バズで交流するパターンを理解することができる。

③セクション１
・新出単語と不定詞（名詞的用法）の意味が分かる。
・本文の内容から，美しい自然が破壊され，砂漠が増えつつある現状を理解することができる。
補強バズ

⑤セクション２
・新出単語と不定詞(副詞的用法)の意味が分かる。
・本文の内容から、砂漠を緑化しようとした向後さんの考えを理解することができる。
補強バズ

⑥セクション３
・新出単語と不定詞（形容詞的用法）の意味が分かる。
・本文の内容から，向後さんの砂漠緑化への夢を理解することができる。　補強バズ

⑦セクション４
・新出単語と動名詞の意味が分かる。
・本文の内容から，向後さんの取り組みの成果を理解することができる。
補強バズ

④セクション１
・自然破壊の現実を知り，自分の周りの環境問題についてバズで交流する中で，仲間の意見を正しく理解し，英語で反応し，質問することができる。
課題　「自分の身の回りの環境問題について英語で発表しよう」
バズテーマ「話す人は相手が理解しているか確かめながら，聞く人は英語で反応したり質問しながら英語を話そう」　理解バズ

⑧セクション２～４
・向後さんのおこなってきたことや，その感想をバズ（理解バズ）で交流する中で，仲間の意見を正しく理解し，英語で反応したり，質問することができる。
課題　「向後さんの取り組みを英語で発表しよう」
バズテーマ「話す人は相手が理解しているか確かめながら，聞く人は英語で反応したり質問しながら英語を話そう」　理解バズ

⑨　セクション１～４
・身の回りの環境問題を改善するために，自分ができることについてトピックごとのバスから，環境問題の情報を得ることができる。
・セクション１～４までの書きまとめを分かりやすく再構成できる。
課題　「トピックの内容をふくらませ，伝えたい内容をまとめよう」
バズテーマ「トピック別のバズで，情報を集めよう」　理解バズ

出口の活動　**本時**
・話し手は、声の大きさやスピードに気を付けながら分かりやすく英語で話し、相手が理解できたかを O.K? と確認できる。
・聞き手は、仲間の英語を聞いて、O.K. Once more. などの英語で反応し、What's ～ in Japanese? などの英語で質問できる。
課題　「自分たちの知っている環境問題について，仲間と英語で話してみよう」
バズテーマ「学級の中で自信を持って発表ができるように、互いの発表の仕方についてアドバイスし合おう」
バズテーマ「話す人は相手が理解しているか確かめながら、聞く人は英語で反応したり質問しながら英語を話そう」　補強バズと理解バズ

具体的な指導の手立て

・第１時で，バズのフローチャートを示す。
・「ごみ問題」「騒音公害」「河川の汚濁」「森林伐採」などからひとつトピックを選択させておく。
・I didn't know ～. I understand～. などの既習の表現を確認し，分かった事実の書き方を示す。
・I think ～. I hope ～. I want to ～. などの既習の表現を確認し，自分の考えや願いの書き方を示す。
・and, but, so…などのつなぎ言葉を効果的に文章に取り入れることで，文章の流れを工夫させる。
・生徒たちの活用できる表現や単語は word bank で示しておく。
・バスの中で，相手の意見に反応したり，質問する姿を価値づける。
・辞書などで調べた表現や単語は，バズで交流するとき，相手に分かりやすいよう，ヒントカードを用意させる。
・分からない時に，“O.K.?”と聞かれて，“Once more.” “What's～ in Japanese?”と言える姿を認めていく。

5 本時の目標　・話し手は，環境問題についての自分の伝えたいことを声の大きさやスピードに気を付けながら分かりやすく英語で話し，相手が理解できたかを O.K? と確認することができる。
・聞き手は，仲間の英語を理解するために，O.K.　Once more.　などの英語で反応し，What's ～　in Japanese? などの英語で質問することができる。

6 本時の展開

過程	学　習　活　動	教師の指導・援助
復習	○あいさつ ○ウォームアップ活動（バズで英語のヒントを出し合いながら，英単語を当てる。） Q1　Japanese, a great man, like forests, grow mangrove…「Mr. Kogo」 Q2　many trees, birds, beautiful, Borneo…「forest」	※全員がねばり強く参加しているかを見届ける。 ※どんなヒントで分ったかをたずねる。
課題の確認	○課題の確認 課題　自分たちの知っている環境問題について，仲間と英語で話してみよう。 ○補強バズ バズテーマ　学級の中で自信を持って英語が話せるよう、お互いの話し方についてアドバイスし合おう。	※全員挙手を呼びかける。 ※2 回のバズの方法と目的を確認する。 ◇EL（イングリッシュリーダー）はフローチャートを用いて，英語で司会を進める。 ※バズ体形の見届けをする。
課題の追究	・バズ体形になって，リーダーを中心に自分たちの考えた英語を話し合い，お互いにアドバイスをする。 （生徒の活動の姿） EL：　Let's talk about 環境問題. 班の仲間：Yes, let's.　（リーダーの呼びかけに大きな声で答える。） EL：　O.K.　First of all, Aさん，please.　（リーダーは班員を順番にあてる。） A：　O.K.　Are you ready? 班の仲間：Yes!!	※"O.K? ""Once more."が使えているかを見届け，評価する。 ◇ヒントカードの利用 ◇評価の観点（プリント） 【話す人】 ・大きな声で話す。 ・スピードを工夫する。 ・ヒントカードやピクチャーカードを使って説明する。
学び合い	A：　" Today much of our beautiful world is dying. "　O.K?　（一文話すごとに確認をする。） 班の仲間：O.K!　（内容が理解できたら，O.K. / Yes. などで答える） A：　" I want to save the river in my town. "　O.K? 班の仲間：Speak up! （分からないときは，Once more. / more slowly, please. / What's ～ in Japanese?　などで反応する。） A：　（大きな声で）" I want to save the river in my town. "　O.K? 班の仲間：O.K.　…中略… A：　" That's all.　Thank you.　(拍手) EL：　"Thank you very much.　Next, Bさん，please."　…後略	・一文ずつ"O.K?"と聞き返して，相手の反応を確かめながら話す。 ・相手が自分の英語を理解できないときも，すぐに日本語にしようとせず，ひとつひとつの単語を確認するなどして，粘り強く英語を使おうとする。 【聞く人】 ・英語で"Oh, really?" "Wow! That's nice." "I see."　などの反応する。 ・英語で"What's ～ in Japanese?"などの質問する。 ・話す人の顔を見て聞く。 ※補強バズの評価をする。 ※トピックごとにプリントを色分けしておき，違ったトピックの仲間とバズができるようにする。
まとめ	○理解バズ バズテーマ　話す人は相手が理解しているか確かめながら、聞く人は英語で反応したり、質問をしながら英語を話そう。 ・補強バズでのアドバイスを生かして，学級全体でトピックの違う仲間と，英語を話し合う。 ・交流をしたら内容や話し方についての評価をもらってくる。 ○全体発表 ・ELの一人が司会をおこない，全体の場で発表をする。 ○まとめ ・評価のプリントに反省を書いて提出する。 ○あいさつ	※理解バズのときに，男女が別れてしまわないよう男女で2人以上発表し合うよう呼びかける。 ※理解バズの評価をしてから全体発表をおこなう。 ※授業全体の評価をおこなう。 ※あいさつの後，評価のプリントを集める。

泉中国語科研究構想

＜学校の教育目標＞
創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案
◇意欲をもって言語活動に取り組むことで言語の能力を高め，豊かな言語感覚を身につけるために，効果的なバズの方法・場の設定を工夫する。
・単元や授業の中で，学習活動に適したバズの種類や方法を位置づける。
・バズ学習の後や単元の出口における生徒の意識の変化，つけたい力を中心に据えた指導計画の作成をする。

究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明
◇意欲をもって言語活動に取り組むことで言語の能力を高め，豊かな言語感覚を身につけるために，バズ学習を通して生徒を変容させるための手だてを究明する。
・学習課題に基づいて，目的や学習活動が明確になったバズテーマの設定をする。
・生徒のよさを生かした特徴ある意見を生み出すために，発問を工夫し，各グループの言語活動や言語操作の状況に応じた指導援助をする。
・各グループの意見が全体交流で絡み合い，主体的に練り上げられるために，意図的に全体交流をする。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着
◇意欲を持って言語活動に取り組むことで言語の能力を高め，豊かな言語感覚を身につけるために，バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。
・グループの中で，発言者の立場や考えを尊重しながら聞き，意見の交流のさせ方やまとめ方を身につけたリーダーの育成をする。
・発言者の立場や考えと比べたり，付け足したりしながら，自分の読みや思いを発言できる生徒の育成をする。

＜研究仮説＞
互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞
個と集団を鍛えるバズ学習の究明
―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜国語科学習で願う姿＞
◎　意欲をもって言語活動に取り組むことで，主体的に言語の能力を高め，豊かな言語感覚を身につけていく姿
◎　学習課題の探究において自分の意見を相手にわかりやすく伝えたり，互いの立場や考えを尊重して聞いたりしながら，学び合いを深め，伝え合う力を高めていく姿

＜生徒の実態＞
○　言語操作をすることにより，自分なりの読みができる方法を身につけつつある。
○　自分なりの読みを仲間に進んで広げていくことができる。
△　場に応じて適切に表現（文字，音声）する力が十分に育っていない。
△　発言者の意見と比べたり，付け足したりしながら聞き，自らの発言に結びつける力が十分に育っていない。

特別公開Ⅱ（１０：４０～１１：３０）

泉中１年Ｃ組　国語科学習指導案

場　所　　１年Ｃ組教室（中舎２階）
授業者　　高橋　篤

１　単元名　　「子供たちの戦場　～詩「木琴」の群読をしよう～」

２　指導の立場

（１）単元について

本単元は，単元学習的な発想に立ち，基礎の学習で戦争を背景としている２つの教材，物語文「大人になれなかった弟たちに……」と詩「木琴」の読み取り学習を行なう。その後，表現活動に発展させ，「群読」を行なわせようとするものである。終戦から半世紀以上過ぎた今，戦争を経験していない世代がかなりを占めている。世界の各地では未だに戦火の耐えない地域もあるが，日本は平和を取り戻し現在に至っている。しかしその裏では，たくましく生きることや生命の尊さに疎くなってきている現代人の姿がある。特に今の若い世代にみられる凶悪な犯罪をはじめとする生命をいとも軽んずる行為を目にするたび，あらためて生きるということを見つめ直さなくてはならないという思いに駆られる。

本単元の中心教材とした「木琴」は架空の人物である妹が戦火の中でも健気に木琴を奏で，歌いながら平和を祈っていた姿を描いている。その妹を通して，多くの尊い人命を奪われた戦争に対する悲しみ，辛さ，無念さ，怒り，憎しみを第１連と第５連の反復，語りかけるような文末表現，比喩表現等を用い，切実に読者に訴えている。

本単元を通じて，戦争に対する理解を深め，生命の尊さに気づかせたい。文学作品には主題がある。主題にせまるためにはその作品をよく読み，味わうことが大切である。さらに音声で表現することで主題がさらに明らかになっていくことを知り，群読の方法を身につけていきたい。

その中で本時は，群読の発表会に向けての最後の練習と仕上げの時間である。自分たちの声を聞きながら，作者の思いや主題にせまるものになっているかグループで意見を出し合い，自信を持って発表会に臨める心構えをつくりたい。

（２）生徒の実態

太平洋戦争や戦争下の暮らしについては小学校までに学習をしてきている。しかし，戦争が人々の生活や心を苦しめたことや，その状況下で懸命に生きてきた人々の姿については深く認識できていない。

詩の学習は一学期の最初に「野原はうたう」で朗読をしているが，群読を本格的に行なうのは中学校では初めてである。詩の学習をする上で必要な表現技法については１学期に学習してきており，その効果についても自分のものとして身についている生徒が多く，文章を書くときに自分で使える生徒もいる。

朗読については読もうとする意識はあるが，人の目を気にするなど自分を上手に表現できない生徒が多い。本単元では懸命に自己表現する姿を真摯に受け入れる気持ちを認めながら，声に出して表現することの楽しみを見いださせたい。

バズ学習については，リーダーを中心に発言をすることができるが，自分の立場を明らかにして発言したり，仲間の発言に関連づけたりする力が弱い。学級全体の雰囲気は穏やかであるので，リーダー，メンバーそれぞれの立場で発言を関連づける力をつけたい。

（３）研究主題との関わり

授業では各グループが詩の主題にせまるために群読を行なう。発表会にむけて，意見を出し合い，グループの群読を練り上げていく。この過程そのものが探究バズになる。群読をするグループは現在の生活班とは切り離し，１グループあたり６～７名とし，リーダーの人数等を考慮し，意図的に構成する。各授業の最後には生活班に戻り本時の学習の進度や各グループの持っている情報を確認バズで交流する場を設定する。その理由は２つある。１つ目はより多くの読み方の工夫を交流したり，それぞれのグループの進度を確かめたりすることで自分のグループの進度を理解でき，発表会に向けて生徒は互いに刺激を受けながら，より主体的に群読練習に参加できることである。

２つ目は２つのグループを上手に使いながら，前期と後期の組織の変わり目の人間関係を良好にスタートさせる学級経営上のねらいである。信頼ある人間関係が根底にあるバズ学習が成立するためには，学級内の支持的な風土の醸成との密接な連携が重要である。

群読を選択した理由としては，生徒一人一人がグループ内での役割を果たすことにより，自己の責任を果たすという達成感やグループで一つの言語活動に打ち込む充実感を味わうこと，そして信頼関係のある学習集団を育成することにある。群読を完成させるためには，グループの一人一人が自らの役割に責任を持つことが必要であり，バズの必然性がより効果的に生まれると考える。

本時では発表会に向けた総仕上げの時間という位置づけをする。発表会に向け，これまでの取り組みから生徒の意識は高まっている。群読の練習では生徒個人が目標を持ち，練習の最後にグループの仲間と評価をしながら，次時の目標を明らかにする手がかりとする。群読の発表会は次の時間であるが，個人の目標については本時である程度達成されているべきである。この達成感が自信となり，次につながるのである。

本時において，各グループの工夫点や練習の成果，個人の練習の姿を授業の最後に意図的に交流し，努力を互いに認め合いながら，次時の発表会への雰囲気を高めていきたい。

群読の練習は，本時までに積み上げてきているので，練習の方法や流れについては理解している。繰り返し練習をしながらテープに声を録音しておく。その声を聞き返しながら，探究バズで仲間の朗読の仕方や目標の達成度，朗読の工夫点について意見を交流し，磨き上げる。方法はグループによって輪番法，自由会話法，リーダー法を用いる。

本単元を通じて群読グループにはリーダーが存在する。それとは別に読み手を指揮する音楽でいう指揮者の役割の生徒をつくることを各グループに認めている。その生徒が探究バズのなかでリーダーとなってアドバイスをしていく方法のバズも本時までに位置づけ，必要に応じて生徒が使えるように指導する。

それぞれのリーダーの立場にある生徒は，意見の交流のさせ方やまとめ方，話し方，聞き方を着実に身につけ，グループのメンバーの模範となるよう授業内，外で指導を継続して行なう。グループのメンバーについてはバズの種類や方法に応じた話し方，聞き方を身につけ，仲間の意見と比べたり，比較したり，違いを見つけたりすることで自分の思いを素直にだすことができるようにする。

単元の目標
○戦時中を懸命に生きていた人物の姿から、生命の尊さについて自分の考え方を深めることができる。
○詩「木琴」の主題を考えながら群読を練習し、群読のよさを感じ取ることができる。

単元指導計画（全十時間　本時八／十）

	時	学習内容	達成目標	生徒の意識の流れ	パズルの種類　テーマ　生徒の活動	本時の指導事項
基礎の学習	1	○「木琴」の朗読を聞いて、今後の学習で知りたいことを明らかにする。	◎学習の見通しを持つとともに、興味関心を持つことができる。	「木琴」の詩は、戦争の暗いイメージがそのまま表れている。知りたいことがたくさんでてきた。解決しよう。	発見パズル「知りたいことを一つ以上発言しよう。」 今後の学習の見通しを持ち、課題を明らかにする。	・感想を持つ視点の確認 同感　反論　疑問　発見　注目 ・文学作品を読むポイント 人物像　時代背景
	2	○「大人になれなかった弟たちに・・・」の中でミルクを盗み飲みしてしまう場面から、戦争中の生活を知る。	◎当時の食糧事情について理解する。 ◎「僕」の心情を文章中の表現を手がかりに考えることができる。	弟は泣かなかったのではなく、ミルクがないので泣く元気もなかったのだ。「・・・」に作者のやりきれなさや後悔、いかりがこめられていることが分かった。	探究パズル「作者は今、ミルクをぬすみ飲みしてしまった自分にどのような思いを持っているか。仲間と自分の意見を比べよう。」 罪悪感がある中でも、当時の食糧事情では子供心に仕方がなかったという心の葛藤をとらえる。	・文学作品を読むポイント 人物像 ・「・・・」の効果、役割 ・表現技法の効果 反復法　倒置法 文末表現（過去形と現在形）
	3	○「大人になれなかった弟たちに・・・」の中で、「母」の人物像を特に会話文から考える。 ○題名から物語の主題をとらえる。	◎会話文にこめた母の思いを読みとることができる。 ◎作者の主張を考えることができる。	母は子ども達のために強く生き抜いてきた。「僕」の和へのの主張をこの文章にこめたのだな。 題名を深く追究することが作者の主張につながる。	探究パズル「なぜヒロユキという書き方や、題名の「たち」という書き方をしているのか。」 複数形や片仮名の効果を一学期の学習をもとに考え、作品の主題につなげる。	・文学作品を読むポイント 人物像　題名　主題 ・片仮名記述の効果の復習 ・会話文の効果
	4	○「木琴」を読み、構成や表現技法を理解する。	◎時間の経過に注意しながら詩の構成をつかむ。 ◎表現技法の効果を確かめる。	木琴という題名と戦争がどう関わっているのだろう。暗い戦争中の木琴の音色はわびしかな明るさだったのだろう。	探究パズル「見つけた表現技法とその効果について自分の意見を一回以上発言し、意見をまとめよう。」 一学期に習った表現技法を一つ以上見つけその効果を確かめる。	・表現技法の効果 擬人法　反復法 倒置法 文末表現（「～しまった」「～よ」） ・会話文の効果
	5	○作者と妹の関係を理解し、詩の主題を考える。	◎作者が妹というに架空の人物を通して主張したかったことをこれまでの学習をもとに考えることができる。	作者には妹がいないのになぜ、妹に語りかけるように詩を作ったのだろう。大人になれなかった弟たちに・・・」の主題を考えたときのことが使えそうだ。	探究パズル「なぜ作者は妹という架空の人物を使ったのだろうか。」 妹という人物を通して多くの犠牲者を出した戦争に対する怒りと平和への願いを訴えていることを理解する。	・作者について
中核の学習	6	○作者の思いや主題を頭に描きながら「木琴」の一回目の録音をする。 ○役割分担を決め、群読の原稿をつくる。	◎「木琴」の学習を原稿を完成することができる。 ◎個人目標を決め、発表会までの活動の見通しを持つことができる。	今いよいよ群読の練習だ。「木琴」の学習で分かったことをグループでたくさん発言するぞ。 自分の役割が決まった。目標が達成できるように進んで練習しよう。一回目の録音で聞いた声はまだまだ。	探究パズル「作者の思いを声で表現するために、工夫できることをたくさん考え、全員が発言しよう。」 一度自分たちの声を聞き、目標を持つ。 確認パズル「仲間のグループの群読の工夫点を学ぼう。」 他のグループの工夫点を知り、参考にする。	・群読のポイント 速度、間、強弱、抑揚、姿勢　リズム ・指揮役の活動について
	7	○作者の思いや主題を頭に描きながら「木琴」の群読練習をし、一回目の録音をする。 ○原稿の目標が、達成できるように、進んで練習をする。	◎録音した声を聞き、作者の主題にせまる群読にするために、繰り返し練習をする。 ◎前時より個人目標に近づく意識を持って練習に参加できる。	前の授業の反省をもとに、どんどん練習しよう。役割を果たさないと、みんなに迷惑をかけてしまう。仲間のアドバイスのおかげで自分の目標に近づくことができた。他のグループのすすみ具合はどうかな。	探究パズル「全員で評価しあいながら、自分たちのグループにしかない群読の工夫を創り出そう。」 繰り返し録音し、より上手な群読を目指す。 確認パズル「グループの工夫点を全員が言えるようにしよう」 他のグループの群読の工夫点や練習の進度を知り、次時の課題を考える。	・群読のポイント 速度、間、強弱、抑揚、姿勢、リズム ・群読原稿への記号の記入のしかたについて
	8	○群読練習を繰り返し行ない、原稿の修正をする。 ○個人の目標が、達成できるように、進んで練習をする。	◎録音した声を聞き、作者の主題にせまる群読にするために、繰り返し練習をする。 ◎前時より個人目標に近づく意識を持って練習に参加できる。	さあ今日で完成だ。でもまだ自信のない部分がある。進んで練習したので、自信を持って次の発表会を迎えられそうだ。他のグループもかなりがんばっているから聞くのが楽しみだ。	探究パズル「今日の授業でがんばった姿と、発表会でてほしいポイントを全員が発言しよう。」 確認パズル「仲間の努力や他のグループの群読に興味を持ち、発表会へ意識を高める。」	・群読のポイント 速度、間、強弱、抑揚、姿勢、リズム ・発表会での話し方 方の態度について　聞き
	9	○最後のリハーサルをし、最終確認をする。 ○学級全体で群読発表会を行なう。	◎自信を持って、自分の朗読をやりきり、グループの一員として群読の役割を果たす。 ◎聞く姿勢に気をつけながら他のグループの群読に耳を傾け、評価をする。	本番の日がやってきた。今日の一回を精一杯やりきろう。他のグループの発表を楽しみだ。聞く姿勢も大切だ。 朗読を繰り返し、思いを考えながら読むことで作者にせまったりできた。詩の主題にすることはとても大切だ。	確認パズル「発表会の流れと、群読について全員で確かめながら最後の練習をしよう。」 前時までに完成した群読にさらに自信がもてるように最終完成をし、意識を高める。次時にビデオでふり返りをするときの視点を持つ。	・聞き方 評価の視点を持って聞く。 ・作者の思い、詩の主題
まとめの学習	10	○発表会のビデオを見て、自分やグループの群読を自己評価する。 ○単元のまとめをする。 ○態度面、認知面から自分をよく振り返る。	◎自分たちの姿を評価できる。 ◎仲間の良さや自分の良さをたくさん気づくことができる。 ◎学習の伸びや感想の変化を確かめることができる。	自分たちで群読をしているときは見えなかったことが、ビデオでは見えてくるさん見つけて教えてあげよう。 戦争中の人々の生き方が分かったし、命を失った人もたくさんいる。自分たちは命を大切にしなくてはならない。	探究パズル「仲間の良さを発表しあい、努力を認めあおう。」 群読グループの仲間の良さを見つけあい満足感、充実感を味わう。 確認パズル「単元を学習した仲間の感想を聞きあおう。」 自分で学習の成果をまとめ、身についた力や学習態度をふりかえる。	・感想文の書き方 三分法 書き言葉と話し言葉 ・単元のまとめの項目 身についた力 学習態度 パズル学習の取り組み

5 **本時の目標**

○グループで群読を完成させることにより、表現することの喜びを味わうことができる。
○詩「木琴」の群読を表現の仕方に注意して練習し、完成することができる。

6 **本時の展開**

過程	○学習活動　・生徒の意識・反応	教師の指導・援助
つかむ	○前時までの群読練習の反省点と、本時の個人の課題について確認をする。 ・自分は第三連の担当だ。「あんなにいやがっていた」という言葉が作者の戦争への憎しみ、怒りを強く表している部分なので、出だしを迫力のある声にしたいと思っている。でもグループの仲間は「まだ大きな声が出るよ」と言ってくれる。今日は最後の練習なので、みんなが認めてくれる大きな声を出す。 ・第二連の「早く」の部分は、妹の願いが強く表われている部分だけど、どう音読で表現したらいいか分からない。今日はこの部分の表現の仕方をバズで質問して分かるようにしたい。 ○本時の課題を提示する。 群読を表現の仕方に注意しながら練習し、完成させよう。	※学習プリントをみながら課題を確認するよう指示する。 ※課題は態度面と認知面から具体的に書くよう継続して指導する。 ※リーダー、メンバーから何名かの生徒を意図的に指名し、本時の課題について紹介する。
ふかめる	○群読グループごとに分かれて、本時の個人課題とグループの課題を確認し、練習をする。 探究バズ（二〇分） バズテーマ「全員が一回以上発言し、グループの課題と自分の役割をはっきりさせて練習しよう。」 （グループリーダー、指揮役） バズの方法→リーダー法　輪番法　自由会話法 ▽前回の録音テープを聞き、グループの課題と自分の役割を明らかにする。 ▽群読の練習を録音する。 ▽録音テープを聞きながら、グループの課題が達成されているか個人の役割ができているか互いに評価しあう。リーダーは一人一回発言が出きるように意図的に発言順を決めるなど工夫をする。 ▽二人組などで練習したあと、全員で合わせる。 ・第三連の「あんなにいやがっていた」の部分の声の迫力はみんなが認めてくれた。「お前と木琴を焼いてしまった」は何か工夫できないか。 ・第二連の会話文の前で間をたくさんあけてみたら、聞く人がもっと注目すると教えてもらった。間のあけ方を聞いてもらってできるようにする。 ○群読グループで、本時のグループと個人の課題について評価をする。生活班の仲間に聞いてほしいポイントを明らかにする。 ・今までは迫力だけだったけど、「焼いてしまった」の「しまった」にも戦争への憎しみやいかりが表われていることをつけ加えることができた。 ・会話文の前の間の取り方を仲間に聞いてもらって、聞き手が注目してくれる間の長さを決めた。自分が努力したところなので、生活班の仲間にも聞いてほしい。	※群読グループの人数は、六～七名とし、学級全体で六グループを意図的に構成しておく。 ※ただ読むだけではなくて、一回ごとに課題をはっきりさせて練習するようリーダーに助言する。 ※全員が発言したあとに、リーダーがグループの新たな課題をつくりだせるようにバズの進め方を指導しておく。 ※グループで出た意見の良さを認め、良さがさらに深まりグループの工夫点となるよう助言する。 ※悲しく読む、暗く読むという考えに対しては、悲しさや暗さをどのような音声で表現するのかを考えるよう援助する。 ※一回ごとの進歩を認め、意欲づけをし、確認バズでの発言に自信を持たせる。
まとめる	○生活班に戻り、本時の発表会での聞いてほしいポイントについて交流する。 確認バズ（七分） バズテーマ「今日の授業でがんばった姿と発表会で聞いてほしいポイントを全員が発言し確かめよう。」 （班長） バズの方法→リーダー法　輪番法　自由会話法 ・生活班の仲間も相当がんばっているし聞くのが楽しみだ。自分も発表会で役割をやりきって認められたい。 ○本時の学習のふりかえりを行なう。 ○次時の授業での学習内容を確認する。	※バズが上手に進行しない班には切り返しの発問をすることでバズでの発言が深まるようにする。 ※バズでの話し方、聞き方については継続的に指導するが、特に発表会での聞く態度についておさえる。 ※授業の最初の課題確認で発言した生徒を意図的に指名し、練習の成果を広め、発表会への意識を高める。

泉中理科研究構想

＜学校の教育目標＞
創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案
◇自然の事物・現象に対して，生徒自らが問題を見いだし，知的好奇心や探究心を持って解決していく生徒を目指した，効果的なバズの方法・場の設定を工夫していく。
・単元導入時における発見バズを活用し，問題意識が連続する単元指導計画づくりを行う。
・探究バズ(予想バス，実験・観察バズ，考察バズ)を効果的に位置付けていく。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明
◇問題意識を持って科学的に調べる能力や態度を身に付けるために，バズ学習を通して生徒を変容させるための手立てを究明する。
・課題に対して自分の考えを持ち，その考えを交流し，深化・修正する「予想バズ」，課題解決のために行う「実験・観察バズ」，結果を課題に照らし合わせながら考える「考察バズ」という３種類の探究バズのあり方を究明していく。
・各グループに応じた深めたり，広げたりする発問や事象を提示する。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着
◇バズ学習を成立させるために，バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。
・バズが効果的・能率的に行われるようにリーダー指導する。
・バズを位置付けた１時間の授業の流れのパターン化を図る。

＜研究仮説＞
互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞
個と集団を鍛えるバズ学習の究明
―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜理科学習で願う姿＞
◎自然の事物・現象に対して，探究心を持って解決していこうとする姿
◎日常生活での経験や実験等の事実からの考えを交流し，お互いの考えを深め合う姿

＜生徒の実態＞
○自然の事物・現象に対する興味・関心は高く，意欲的に実験・観察することができる。
○バズでは，自分の考えを発表し，仲間と交流することができる。
△問題意識を持って科学的に調べていこうとする意識がやや低い。
△自分の考えと仲間の考えの違いをとらえ，考えを高めていこうとする姿勢が十分でない。

特別公開Ⅱ（１０：４０～１１：３０）

泉中３年Ｆ組　理科学習指導案

場　所　理科第１教室（北舎２階）
授業者　伊藤　　友子

１　単元・題材名　「運動とエネルギー」（力と運動）

２　指導の立場

(1)単元について

本単元において、文部省「中学校学習指導要領」において、次のように位置づけらいる。

> 物体の運動エネルギーに関する観察、実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解させるとともに、日常生活と関連づけて運動とエネルギの初歩的な見方や考え方を養う。

「力」や「エネルギー」という言葉はよく使われており、綱引きやキャッチボールなど物体に力がはたらいているようすは、日常生活のあちこちで見られる。生徒は、「身のまわりの科学」（１年生）でいろいろな力があることを知ったり、力を矢印で示したりして、力という抽象的な概念を具体的な事象と結びつけて、定性的に理解してきた。

本単元では、物体の運動やエネルギーに関する現象についての、実験・観察を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解させるとともに、日常生活と関連づけて運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方を養う。

運動やエネルギーに関する規則性を理解し、身のまわりで起こっている現象に興味を持ち、それらにはたらいている力や、運動のようすを説明できるようにさせたい。また、中学校で学習する物理分野最後の単元なので、これからの生活でも現象と規則性を結びつけて考えられるような態度を育てたい。

本時は、物体が斜面に沿った落下運動をするときの速さの変わり方を調べることを通して、大きな力が加わるほど速さの変わり方が大きいことを理解させたい。

(2)生徒の実態

生徒は実験をすることが好きであり、第一分野に入ってからは、グループごとに実験の方法や進め方を考えてから実験をすることができるようになってきた。多くの生徒が意欲的に考え、実験することができるが、実験の目的や方法が理解できないため参加できない生徒もいる。実験前後の予想や考察では、自分の意見を持つことはできるが、その根拠があいまいだったり、既習事項をうまく役立てて説明できないこともある。また、目には見えない事物について考えたり、抽象的なことをモデルに置き換えて考えたりすることに苦手意識を持った生徒も少なくない。

４月新しい学級としてスタートしたときは、挙手発言が少なくバズの話し合いでの深まりがなかった。バズ体形にはすぐになれるのだが、輪番法で一通り意見を言い合うとそれ以上の交流をすることもないままバズを終了することが多かった。しかし、前期の組織が決まると班長が司会・進行を行って意見を言い合ったり、グループの中で困っている仲間を援助したりすることができるようになってきた。

予想バズ・考察バズでは、明確な根拠を持った考え方ができない生徒も、班の中で意見交流を行うことにより、自分の考えに自信が持てるようになってきた。実験・観察バズでは、リーダーの指示で実験器具の準備や片づけ、役割分担をすることにより能率的な実験が行われるようになった。また、実験目的の確認をすることにより主体的に取り組む生徒が増えてきた。

(3)研究主題との関わり

単元の学習計画を立案するにあたり、導入時の授業で発見バズを活用し、生徒の問題意識が連続するようにした。導入では、台の上に木片を置き、台を傾けたときの運動のようすを調べさせる。木片が動かないときの条件や動き出すときの条件を見つけたり、速さの変化の違いに注目させて重力のはたらき方の違いに疑問を持たせたりした。これらの生徒の意識をもとにして単元指導計画を作成した。

理科の授業は、「①課題提示→②予想→③実験・観察→④考察→⑤まとめ」の５段階で構成される。そこで、②予想、③実験・観察、④考察の３つの場で、バズを位置づけた。

予想バズでは，個々の生活体験の違いなどから様々な考えを持った生徒の考えを交流することにより、自分の考え方や見方を広げさせる。この段階で自分の考えを持つことができなかった生徒も、仲間の意見を知り、自分の考えを持ち、意欲的に実験・観察ができるようにさせる。

実験・観察はグループで行われることが多い。そこで、実験・観察バズでは、生徒一人一人が目的意識を持って実験するために、実験の目的を確認したり、役割分担をする。この理科の学習パターンを生徒に理解させ、定着させることにより生徒たちが自分で学習していくようにした。この３つのバズの方法を理解させるために、リーダーを中心に「予想バズ」「実験・観察バズ」「考察バズ」の方法を指導した。

本時は考察バズに重点を置いた。まず、斜面の傾きを変化させた時の台車の速さについて予想させる。今までの生活経験や、導入時の実験により、斜面の角度が大きくなると台車が速くなることは予想できる。予想を確かめるために運動のようすを調べる実験を行うと、結果は予想通りになるが、なぜそうなるのか考えられない。そこでバズテーマ「なぜ傾きが大きくなると速くなるのだろう。」を設定し、力と関連づけて考えさせたい。グループによって視点の違いがあるので、グループに応じた援助を行っていく。

3　単元の目標

運動についての観察・実験を通して，調べ方の基礎を身につけ物体にはたらく力と運動の関係について理解し，身のまわりの運動について進んで調べようとする意欲と初歩的な見方や考え方を養う。

4　単元指導計画

第１時

台上の物体にはどんな力がはたらいているのだろうか。

［実験・観察］

台に物体をのせ，その角度を大きくしたときの物体の運動のようすを観察し，はたらく力を矢印で表す。

見つけたことを交流しよう。

・平面のままだと物体は動かないが，角度を大きくすると動き出す。

・矢印の向きは動く向きと同じになり，動きが速いときは大きな力がはたらいているから，長い矢印で表すと思う。

つり合う力　なぜ物体は動かないのだろう。

第２時

物体が動かないのはどのようなときだろう。

［実験・観察］

いろいろな形の紙の両端から力を加え，つり合うときの条件を調べる。

物体が動かないときの条件を考えよう。

・２力が１直線上にある。

・２力の向きは反対になる。

・２力の大きさは等しい。

☆つり合う力を図で表すとどうなるだろう。

第３・４時

動かない物体にはたらくつり合う力を図示しよう。

［実験・観察］

フィルムケースを使って浮力を調べる。

フィルムケースには，どんな力がはたらいているのだろう。

・水から押される力もあるのだな。

机の上の本や押しても動かない荷物には，どんな力がはたらいているのだろう。

・机から押される力や，押す力とは逆向きの力がはたらいている。

つり合わない力

第５時

２力がつり合っていないときはどのような力がはたらいるのだろう。

［実験・観察］

２個のおもりによる２つの力と１つのおもりによる１つの力が同じはたらきをしていることを確認する。

３つの力を矢印で表そう。

・２つの矢印の長さを足すと，１つの矢印の長さになっている。

☆力が一直線上にないときはどうなっているのだろう。

第６・７時

角度をもってはたらく力の合力はどうなっているだろうか。

［実験・観察］

角度や力の大きさを変化させ２力の合力を調べる。

３つの力を図示しどんな関係があるか調べよう。

・角度をせまくすると合力は大きくなる。

・２力を２辺とする平行四辺形の対角線が合力だ。

☆１つの力を二つに分けることもできるのかなあ。

第８時

１つの力を２つの力に分けてみよう。

［実験・観察］

斜面上の物体にはたらく力を図示する。

どんな力がはたらいているか交流し，物体がどのような動きをするか考えてみよう。

・斜面に平行な力と物体に垂直な力がはたらく。

・重力が二つの力に分けられるんだ。

☆斜面を急にすると滑り落ちる力は変化するのかなあ。

第９時

力を加えた方が動いてしまうのはなぜだろう。

［実験・観察］

スケートボードに乗って壁を押すときの運動を調べる。

どんな力がはたらいているか交流し，はたらいている力を図示しよう。

・壁を押すと壁が押し返しているような感じがする。

・押す力と押される力がはたらいているんだ。

第10時

記録タイマーの使い方を知ろう。

［実験・観察］

物体の運動のようすを記録タイマーで記録する。（使い方とグラフの読み取り方）

班全員が使い方を理解できたか確認しよう。

・記録タイマーは10分の１秒間に動いた距離を記録できる。

・グラフの長さの差は，速さの差を表している。

・タイマーを使えば，目では分からない速さの違いが，分かる。

☆もっと記録タイマーを使ってみたいなあ。

第11時（本時）

斜面を大きくすると，台車の速さはどのように変化するだろうか。

［実験・観察］

斜面を下る台車の速さを調べる。

なぜ傾きが大きくなると速くなるのだろう。

・大きな力がはたらくと速くなる。

・角度が大きいと大きな力がはたらく。

・斜面の角度で分力の大きさが変わる。

☆他にはどんな運動があるのだろう。

第12時

摩擦力の大きい面では，台車の動きはどうなるだろう。

［実験・観察］

布の上での台車の運動を調べる。

運動のようすはどうなっただろう。

・だんだん遅くなった。

・記録タイマーの間隔がだんだん狭くなっている。

・凸凹した布の方が遅くなり方が大きい。

☆布がないとどうなるのだろう。

第13時

水平面上では，台車はどのような運動をするだろうか。

［実験・観察］

平面上での台車の運動を調べる。

運動の様子はどうなっただろう。

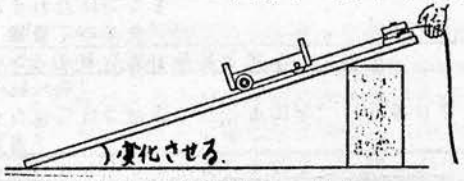
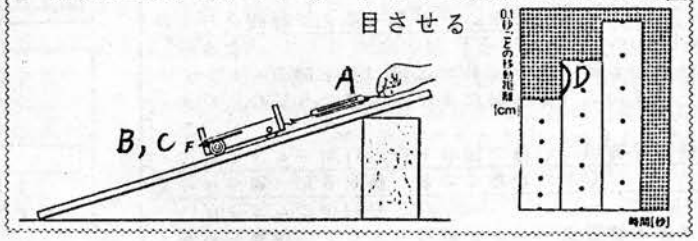
・速さが一定で，点の間隔も一定。

・運動している物体に力がはたらかなければ物体は同じ速さで運動を続ける。

5　本時の目標

斜面を下る台車の速さを調べる実験を通して，物体の速さは重力の斜面の方向の分力の大きさによって変わることが分かる。

6　本時の展開

過程	学　習　活　動	教師の指導・援助
つかむ	○前時の実験を思い起こす。 ・記録タイマーの使い方と，記録の読み取り方を復習する。 ○課題提示　斜面の傾きを大きくすると台車の速さはどのように変化するだろうか。	※記録タイマーの打点の間隔が速さの違いを表していることを確認する。
	○予想する。 ・角度が大きいほど台車の速さは速くなる。 ・角度と速さは比例する。 ・角度が大きくなると，重力の斜面方向の分力が大きくなる。	※日常生活に結び付けて予想させる。
ふかめる	○グループで実験を行う。［実験バズ］ ・斜面の角度を変化させて，速さの変わり方の違いを測定する。  傾斜の傾き １０度 ２０度 ３０度 ○速さと力の大きさの関係を見つける。 ＜バズテーマ＞ なぜ傾きが大きくなると速くなるのだろう。［考察バズ］ ・速さが大きいときは大きな力がはたらいている。 ・斜面が急だと大きな力がはたらく。 ・斜面方向の力が大きくなると，速さの変わり方が大きい。 ○考察を発表する。	※実験の目的，方法，役割分担を明確にする。［実験バズ］ ・前回の実験を振り返り，役割を分担する。 ・前時の自分の役割をお互いに説明しあう。 ※角度の測り方の説明をする。 ※各班に応じた指導をする。［考察バズ］ A　大きな力がはたらいている→測らせる B　何か力がはたらいている→どんな力か考えさせる C　重力が関係している→斜面方向の分力を考えさせる D　分力に注目できている→グラフの変化のしかたに注目させる  ・ホワイトボードを利用する。
まとめる	○まとめをする。 ・斜面の角度が大きいほど，斜面方向の分力は大きくなるので，速さの変わり方が大きい。 ・速さの変わり方が等しいのは，一定の大きさの力がはたらき続けているからである。	※速さの変わり方が大きくなるには，力がはたらき続けなければならないことを，おさえる。 ※斜面のどの位置でも同じ大きさの力がはたらいていることを確認する。

泉中美術科研究構想

＜学校の教育目標＞

創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案

◇発想・構想・制作・鑑賞の制作過程に対して意欲的に追究していける生徒の育成を目指した，効果的なバズの方法や場の設定の工夫をする。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明

◇表現活動及び鑑賞活動において，自分の考えを形成する力を身につけさせていくために，バズ学習を通して生徒が変容していくための手だてを明らかにしていく。

・発想や制作方法がふくらむ学習課題の設定や，仲間と深め合えるバズテーマの設定をする。

・全体や各グループに対して，考えを深めたり広げる発問や参考資料を提示して，制作の見通しや制作意欲を高める。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着

◇発想・構想・制作・鑑賞を深めたり，高めたりするために，バズ学習におけるリーダー指導や話し合い活動の定着を図る。

＜研究仮説＞

互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞

個と集団を鍛えるバズ学習の究明

―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜美術科学習で願う姿＞

◎美しいものに対して感動し，自らの課題を持ち意欲的に取り組める姿。

◎豊かに発想し，願う色や形を最後まで粘り強く追求できる姿。

◎自分の意図や学習課題に向けて計画を立て，見通しを持って制作する姿。

＜生徒の実態＞

○課題に対する興味・関心は高く，意欲的に取り組むことができる。。

○目標や課題を確認しあい，より質高いものを目指そうという雰囲気がある。

△自分の表現したいものへのイメージが明確になるまで時間がかかる。

△イメージを明確にするための練り上げや，粘り強く追求していくことが弱い。

特別公開Ⅰ（9：35～10：25）

泉中１年Ｂ組　美術科学習指導案

場　所　１年Ｂ組教室（中舎２階）
授業者　小栗　祥吾

１　題材名　「絵画を味わう」（鑑賞活動）

２　指導の立場

(1)題材について

現代の情報化社会において，身の回りには様々な美術に関する情報があふれている。その中で，生徒が美術作品を目にする機会はあるが，じっくりと作品を鑑賞し，それによって感動を体験したりすることはあまりない。

平成10年12月に告示された新中学校学習指導要領には，「『鑑賞』の指導については，各学年とも適切かつ十分な授業時数を配当すること。」と示されている。さらに，現行の中学校指導書美術編には「表現と鑑賞の活動は，創作活動の中で表裏一体の関係で進められる。」とある。しかし，これまでの実際の指導では，表現の学習に重点が置かれ，鑑賞の学習が取り上げられることは少なく，授業の中でのかかわりもあまり配慮されてこなかった。

鑑賞の学習を充実させていくことで，作品から受ける生徒の感動体験を増やし，作者の心情や表現意図を感じ取る力を養うことができると考える。そのことが感性を豊かにし，美的情操や表現意欲を高め，美術を愛好する態度を養う。さらに，他者への理解やコミュニケーションの育成，文化遺産を大切にする気持ちにつながっていくと考える。そこで，美術科の学習において，生徒自らが主体的に感じ取り味わうことのできる鑑賞の授業が必要であると考えた。

鑑賞の対象としては，生徒の作品と作家の作品とが考えられる。前者は生徒が親しみやすく，題材や技法が身近で分かりすい。一方，後者は人類の偉大な文化遺産であり，美のすばらしさや奥深さを理解でき，感動体験を味わえるという点から鑑賞の本質的な教材に位置すると考えられる。したがって，本単元では作家の作品に着目し，中でも絵画作品を題材に取り上げた。そして，この鑑賞活動を通して美術館や美術展での鑑賞に発展させていきたい。

(2)生徒の実態

絵を描くことは苦手だが絵を見ることは好きという生徒も少なくない。そこで，第１学年の生徒にアンケート調査を実施した。その中で，絵をかくこと，ものをつくること，鑑賞することがそれぞれ好きかどうかを調査した。結果は，「鑑賞する」ことが「とても好き」または「やや好き」と答えた生徒が全体の半数以上で，次に「ものをつくる」，最後が「絵をかく」の順だった。また，「嫌い」で一番多いのは「絵をかく」で,全体の３割であった。しかし，絵をかくことが嫌いな生徒について鑑賞が好きかを調べてみると，半数以上が好きであるという結果も得られた。

また，生徒は「どのような絵が好きか」という調査では，写実的表現と写実性の高い幻想的表現が最も高く，次に印象派的表現に人気があった。これらの表現は，具象的で分かりやすいという点が共通している。それは，中学生のこの時期が知っていることを描く知的写実性から，見ているものを描く視覚的写実性への転換期であることにも起因していると考えられる。こういったことから，具象的で分かりやすい表現を好む傾向がみられる。

しかし，表現活動には多種多様なものがある。今回は，写実表現に興味をもつ生徒にとって，抽象主義作家の作品はなかなか興味をもてないものであるが，お互いのものの見方や考え方をバズを通して交流することで，お互いのよさを認め合い，鑑賞の楽しさを味わわせることで，抽象主義作家の作品にも興味・関心を抱かせ，様々な美術作品を鑑賞する態度を育て，自分自身の表現活動につなげたい。

(3)研究主題との関わり

鑑賞とは「よく見て（鑑）ほめる（賞）」ことである。「ほめる」とは心の中に自然に感動が沸き上がってくることである。「いいな」「すごいな」「きれいだな」「何か不思議だな」などなど，自然の風景や花などにも感動はあるだろうが，美術作品の場合は人がそれをつくっているということが大切である。作者に感動がなければ作品にそれを表現することはできないので，美術の鑑賞は作品を通しての感動のやりとりである。一つの作品に感動することは，それをつくった人の気持ちと心が一つになることであり，時代や民族を越えて可能なコミュニケーションである。このことは，相手を意識した活動としてバズ学習で求めることとつながると考える。

それは，心の中の世界を拡大成長させる経験であり，決して単なる教養や知識ではすまない重要な精神活動であるから，ぜひとも生徒たちに鑑賞力の基礎・基本として身につけさせたいと思う。古いものについては，その時代や作者についての知識があったほうがよいだろうし，一見感動の沸かないものでも，これまで多くの人に大事にされてきたものなら，何かしら素晴らしさがあるはずだと思う。また，それを理解しようとする謙虚さも必要であり，大事にしたいところである。

本時では，写実主義作品と抽象主義作品の比較を行い，抽象主義作品に焦点を絞る。そして，まずはじめにその作家の作品を第一印象として捉え，一番最初に心に浮かんだことを発表させる。そこで本時の課題を知り活動に入る。続いて，作家の生い立ちに触れながら作家の意図した表現内容を知る。そして，その表現は作品のどんなところから感じ観てとることができるかを様々な方向から行い，そこで様々な見方や考え方を見出すことをバズを通して行う。他人の作品に感動できるようになるには，ある程度客観的にものを考え判断できる素地が必要であるが，バズ（探究バズ）を通してお互いのものの見方や考え方を知り，さらに作品に対する見方や考え方がさらに広がることに気づかせたい。

3　題材の目標

・生徒自らが主体的に感じ取り味わうことのできる鑑賞の学習を通して，作者の心情や表現意図を感じ取ることができる。
・美的情操や表現意欲を高め，美術を愛好する態度をい，他者への理解やコミュニケーションを大切にすることができる。

4　題材の指導計画

鑑賞に興味・関心をもたせる場（第１時）　～本時～

課題
作品から作者の気持ちや工夫を感じ取り，表現のよさや美しさを味わおう。

バズテーマ
＜探究バズ＞　作者の意図したものは，この絵のどんなところに表現されているのだろう
ペープサートに書いて発表できるようにしよう。

○絵画の緻密な表現に触れさせ，作家の作品に興味・関心をもたせる。
○作者の表現意図を感じ取らせ，表現の奥深さを味わわせる。

1　具象作品と抽象作品を取り上げる＜比較＞
　アンケート調査の結果を参考にして，生徒が苦手とする作品を取り上げることとし，第１時では抽象主義の作品を取り上げる。

2　教師の作品の解説
　作品の社会的評価だけではなく，絵画技法を大切にして考えさせる。また，作品にまつわる必要な解説を行うことは作品をより深く理解するために重要であるが，過度な解説や評価の押し付けにならないようにし，生徒が主体的に鑑賞できるようにする。

3　鑑賞資料の提示の仕方
　題材とする作品は本物であるにこしたことはないが，学校の授業においてそれは困難なので，画集をもとに拡大パネル，コンピュータ処理画像を作成し使用する。

多様な表現を理解させる場（第２時）

課題
様々な作品から作者の気持ちや工夫を感じ取り，様々な表現のよさや美しさを味わおう。

バズテーマ
＜探究バズ＞　それぞれの作品から感じたことを，題名を意識して文章にまとめて，それぞれの作品を比較して発表できるようにしよう。

○多様な感性と表現方法によって，多様な作品が生まれてくることに気付かせる。

1　多様な表現の作品を取り上げる
　自分とは異なった感じ方や表現の仕方を受け入れ，他者を理解するために様々なテーマ，作風，技法で表現されたものを扱うようにする。さらに，作家の表現意図を理解するために関連作品を準備し，材料，技法などもできるだけ具体的に説明する。

2　近隣の美術館・美術展の作品を取り上げる
　近隣の美術館の所蔵作品や郷土出身の画家の作品，または開催中の展覧会に関連した作品などを題材に取り上げることにより，作品や作家をより身近に感じ，興味・関心を抱きやすくする。そして，さらに興味をもち，深く鑑賞したい生徒は，自主的に本物を見に行けるよう，きっかけをつくる。

◇美術館・美術展での鑑賞学習＜自主活動＞
・美術館等に行くことは，鑑賞の授業後の自主的な活動として位置付けをし，本人の自主性に任せる。＜近隣の美術館・土岐市美術展・陶彫展等＞
・事後アンケートを取り，鑑賞体験の実態をとらえ，まとめる。

5　本時の目標

・想像力を働かせ，表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り，作品の見方を広げ，多様な表現のよさや美しさを味わい，鑑賞に親しむことができる。

6　本時の展開

	学　習　活　動	教師の指導・援助
課題把握	○本時の活動内容を知る。 ○掲示された作品を鑑賞し，感じた印象を発表する。 「この絵を見てどんなことを思いましたか，一番はじめに心に浮かんだことを発表してみよう。」 ・なんか絵の具が飛び散ったみたいで，気持ち悪いなぁ。ペンキをぶちまけたようだ。 ・何かに似ているなぁ　青色がたくさん使ってあって青い生き物（怪獣）に見える。 ・よく分からない。 ○本時の課題を理解する。 課題　作品から作者の気持ちや工夫を感じ取り，表現のよさや美しさを味わおう。	◇前回，鑑賞したレオナルド・ダ・ヴィンチの具象作品と比較しながら，本時では抽象作品を扱うことを理解させる。 ◇抽象作品<サム・フランシス>を見せて反応を探る。 ＊作品名についてはここでは触れず，絵から感じる気持ちを素直に出させたい。
課題追求	○作者<サム・フランシス>を知る。 ○作品の表現内容について知る。 「消失にむかう地点の青」　1958年　油彩・綿布 作者がこの作品を描くきっかけになったのは，飼っていた動物の死だと言われています。その時の落ち込んでいる自分の気持ちを真っ白なキャンバスに表現したかったようです。この絵の中にはその悲しい気持ち（涙）を描き，また，大事なものを失った何も手に付かない落ち着かない様子が描かれています。 ○作者や作品から発想を広げる。 バズテーマ <探究バズ>　作者の意図したものは，この絵のどんなところに表現されているのだろう。 ペーブサートに書いて発表ができるようにしよう。	◇サム・フランシスの一生を簡単にまとめた資料を配付し，作者について知る。（日本に興味をもっていたことや日本の文化が作者に影響を与えたことを強調する。） <着目させたいところ> ・絵の具が垂れていたり，飛び散ったりしていること ・基調となっている色があること ・空間（何も塗っていない余白）があること　など ＊バズ体形をつくり，班長に作品のコピー，発表用ペーブサート，ペンを配布する。 ◇話し合いが進んでいない班に対して，班長を中心に援助する。
まとめ	○まとめて書いたものを発表する。 ・落ち込んだ気持ちや悲しい気持ち（ブルーな気持ち）→青や寒色を基調とした絵であるところ ・作者の涙を表している　→　絵の具をたっぷりと使って，その絵の具が垂れているところ ・大事なものを失ったふわふわした気持ち　→　白い中に浮かんでいる（余白をつくっている）ところ ・失意の気持ち　→　作者のつけた題名「消失にむかう」というところ ○授業の振り返りをする。 ○教師による授業のまとめ，評価を聞く。	◇ペーブサープを黒板に貼り付けさせる。 ◇作者の願いによって生まれた表現があることに気付かせる。 ＊教師が発表をまとめて整理し，確認をさせる。 ＊余白のあるものとして雪舟の水墨画を見せ，画家が影響を受けていたことを知らせる。（日本文化とのつながり） ◇バズを通してできた気持ちを発表させる。 ◇バズへの参加姿勢や，意識の高まりを評価する。

泉中技術・家庭科研究構想

＜学校の教育目標＞

創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案
◇より豊かな生活を目指して，進んで工夫し創造する能力と実践的な態度を身につけた生徒の育成を目指し，効果的なバズの方法や場の設定を工夫する。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明
◇　自らの生活を見つめ直しより豊かな生活を実現する力を身につけさせていくためにバズ学習を通して生徒が変容していくための手立てを究明していく。

・個の生活や思考を基盤にし、生活に生きる学習課題を設定する。
・個の課題、課題解決方法、工夫、発想などを学びあう活動を中心場面に設定する。
・課題解決のきっかけや裏づけとなるような資料を活用する。
・バズ学習でのつまずきを明確にさせ、課題解決に向けて方向付けをする。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着
◇教科リーダーを中心とし、課題解決に向けてバズ学習の充実を図ると共に、個々では仲間の意見や思いを理解できるようにする。

＜研究仮説＞

互いの考えや力を発揮し合い、高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ、教師の適切な指導・援助を行えば、生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞

個と集団を鍛えるバズ学習の究明

－　基礎・基本の確実な定着を目指して　－

＜技術・家庭科学習で願う姿＞

◎豊かな生活にしたいという願いが持てる姿
◎切実な問題に対して経験や知識を生かしながら、仲間と共に自ら解決しようとする姿

＜生徒の実態＞

○自らの生活を見つめ、自分自身の問題、課題を見つけ出すことができる。
○経験や既習事項をもとに思いや意見を発表できる。
△仲間の技、工夫、発想を自分のものとつなげて考えたり作業したりすることが少ない。
△仲間と共に作業しながら、豊かな生活を目指そうとする意識が低い。

特別公開Ⅰ（9：35～10：25）

泉中２年Ｅ組　技術・家庭科学習指導案

場　所　　家庭科室(南舎２階)
授業者　　毛　利　知　美

1 単元名(ユニット名)　「室内環境の整備と住まい方」

2 指導の立場

(１)単元(ユニット)について

家庭分野では，生徒の生活の基盤となる家庭や家族の機能を理解し，衣食住などの生活に関わる基礎的な知識と技術を身につけ，生活の自立を目指して家庭生活をよりよく豊かにしようとする能力と態度を育成することを目標としている。

社会の変化に伴い，家庭生活や家族のあり方も大きく変化している。これらの変化に対応し，より良い生活を創っていくためには，人が生活するよりどころとなる家族や家庭の在り方を理解し，自立した生活を営む能力と態度を身につけることが必要である。特に中学生期は，生活の自立を目指す中で，人々に支えられて生活していることに気づき，自分も生活を支える一員としての自覚を持ち，生活をよりよくすることができるようにする。社会や家庭の一員として，家庭生活をよりよく豊かに創っていこうとする能力と態度を育成していく。

本単元では家族が住まう空間としての住居の機能を知らせていく。初めに，住居は地域の特性や生活を反映していることを知った上で，基本的な機能を理解させていきたい。基本的な機能としては、雨風，寒暑などの自然から保護する働きと子供が育つ基盤としての働きがあげられる。

また，家族が健康で快適に住まうためには，室内を安全で衛生的な状態にすることが大切であり，室内環境を整えることの必要性に気づかせていきたい。具体的には室内の空気調節，通風，換気，騒音防止，室内の事故防止や室内の整備があげられる。これらのより良い方法を理解，工夫し実践できるようにしていこうと考えている。

本時では，毎日使用する場所にどのような汚れがつき，どの程度汚れているのかを知らせ，汚れに応じた清掃と手入れの方法を理解し，用具や用剤を安全で適切に取り扱いながら実践できるようにしていく。また普段から汚れが簡単に落ちるためにはどんな工夫ができるのか考えさせ，実際の生活に生かしていきたいと考えている。

（２）生徒の実態

家庭の中で行われる様々な仕事に対し，多くの生徒は経験が乏しいと感じられる。日常的な仕事としては，風呂掃除，食器の片付けがあげられる。少数ではあるが，忙しい生活の中でも，お手伝いではなく「自分の仕事」として位置付けられており，自分がやらなければ家族が困ってしまうという生徒もいる。多くの家庭の仕事の中でも料理を作ることは大変興味を持ち積極的に行うことができる。しかし調理後の片付けや清掃については，なかなかはかどらない。また次に使う人，次に使う時のことを考えて片付け掃除をすることが少ないため，しつこい汚れの原因となってしまうことがある。また日常の清掃活動の様子から基本的な手入れや清掃の仕方を知らないことが多く，適切な方法や適切な道具を使うことを理解すれば実践できる生徒達であると思われる。

バズ学習に関わっては，調理実習時は，生活班のリーダーが中心になるとともに，生活経験の多い生徒が自然に中心になることが多い。特に調理経験の多い生徒は、理屈抜きで経験から自然に身についているため，自然に作業の中心になり，リーダーとして位置づいていた。課題解決の場面での話し合いのバズでは，指名により意見を言うことはできるが，仲間の意見につなげたり，質問や反対意見など，関わった発言をすることには弱さが見られる。

（３）研究主題との関わり

単元(ユニット)には，貫く課題を設定することでどの授業場面を取り上げても，「快適な住まいをつくりあげていくためにはどうしたらよいか」という課題を追求できるように指導計画を作成していった。その中で班を仮の家族と想定し，それぞれ父や母などの立場で物を考えるようにしたり，実際の家庭ではどのような工夫がされているのかを交流したりできるようにバズ学習を設定することで，課題解決への手がかりになると考えた。

本時では，特に身近な掃除というところに焦点を当て，より生活に密着した学習内容を取り上げた。家族のアドバイスを参考にしながら，各自が工夫した様々な方法を実践交流することで，自分になかったものを仲間から学び，良いと思ったものは自分のものとして取り入れたり，もう一度考え直したりしながら、最善と思う方法を自己決定し実践してみる。実践を通して生活に生きる力として身につけさせていきたい。

バズ学習を成立させていくためには，生活班のリーダーを中心にするとともに生活経験の豊富な生徒をリーダーとして位置付けたい。話し合いを深めるため，リーダーには話し合いの視点を与えたり，出てきた意見を分類できるように指導していく。

本時の学習後，学習したことを生活に生かすためには，調理実習や家庭の台所で具体的にどんなことをしたら良いのかはっきりしていることが必要である。

3　単元の目標　家族が住まう住居の機能を知り、安全で快適な室内環境の整え方を理解し、よりよい住まい方の工夫ができる。

4　単元(ユニット)指導計画

〈ユニットのねらい〉

○住まいの基本的な機能がわかり、生活する人たちが過ごす大切な場であることを理解する。
○健康で快適に住まうために、室内を安全で衛生的な状態にする必要性を理解する。
○快適な住空間にするために、空気調節・衛生的な設備・事故防止の具体的な方法が実感できる。
○仲間と学習に向かう中で共に学ぶ意味を理解し、互いの伸びを認め合うことができる。

＜貫＜課題＞

健康で安全な室内環境はどのように整えたらいいだろうか。

＜共通バズテーマ＞

よりよい生活空間を作れる方法を話し合おう。

⑦⑧室内の安全
家庭内でおきる事故の種類と原因を知り、安全な住まい方の工夫ができる。

⑥衛生的な室内の整美　(本時)
毎日使用する場所の汚れを適切な用具や用剤を安全に取り扱い、きれいにすることができる。

⑤　衛生的な室内の整美
汚れに応じた清掃と手入れの方法が理解できる。

④　室内の空気調節
室内の効率のよい換気の仕方を考え出し、気候に合った快適さを工夫することができる。

②　快適な住まい
快適に生活するために工夫できることや設備の利用方法がわかる。

①　いろいろな住まいと住まいの働き
風土に合わせた住まいの様子を知り、住空間に関心を持つことができる。

③　室内の空気調節
人が生活する空間は時間がたつと空気が汚れ、不快になることがわかる。

ものとのかかわりを大切にする授業	情報とのかかわりを大切にする授業	人とのかかわりを大切にする授業	環境とのかかわりを大切にする授業

5　本時の目標

コンロまわりの汚れの種類がわかり、用具や用剤を適切に取り扱いながら汚れに応じた手入れができる。

6　本時の展開

過程	学習活動	教師の指導・援助
課題をつかむ	○台所のコンロまわりの掃除で困っている家族の人の声を聞いてみよう。 **学習課題　　コンロまわりの汚れをより良い方法で取り除こう。**	◇台所を預かる家族の人の声 ※課題意識が持てるように助言する。
体をとおして解決する	○自分で考えてきた方法で１枚のステンレス板の汚れを取り除いてみよう。 ○気が付いたことや感想を班の中で話してみよう。 バズテーマ　　仲間の方法を見て，気が付いたことを発表しよう。 問題点 ・焦げはなかなか落ちない ・ステンレスに傷が残る ・洗剤の使いすぎはいいだろうか ・油が落ちきらない 仲間からの発見 ・焦げは特殊洗剤も有効 ・ひどい汚れは洗剤シップやつけおきが有効 ・始めに汚れを拭き取ることが必要 ・お湯につけておけば簡単に落ちるようだ ・傷をつけないようにスポンジのようなやわらかい道具が必要 ・洗剤以外のものにもいいものがある ○気が付いたことや感想を発表しよう。 ○バズでの話し合いをもとに、もう１枚のステンレス板の汚れを落とす方法を決めよう。 ＜道具＞　スポンジ・雑巾・歯ブラシ・キッチンペーパー ＜洗剤＞　粉末洗剤・液体洗剤・研磨剤入り洗剤・その他(塩・米ぬか・小麦粉・砂) ＜方法＞　例：ぼろ布で拭き取り、お湯につけて少量の洗剤を使い、スポンジのようなやわらかいもので磨く ○自分で決めた方法で２枚目のステンレス板の汚れを落としてみよう。	※各自が決めた道具や材料、方法はあらかじめ確認しておく。 バズでのリーダー指導 ▲根拠をもって話ができるようにする。 ・　テレビからの情報 ・　人（家族）からの助言 ・　物へのこだわり ・　環境への配慮 ▲仲間の意見を聞ける姿勢作りをする。 ▲全員の意見を必ず聞く。 ▲意見を問題点と良さに分けるようにする。 ◇ブラシ、たわし、洗剤など手入れに役立つ道具や材料を余分に準備しておく。 ※洗剤は表示を見て、取り扱いを確かめてから使用するように掲示物を参考にするよう助言する。
伸びを確かめる	○２枚のステンレス板の汚れを落としてみて、思ったことやこれからの生活で生かしたいことをまとめよう。 ・　汚れに合った洗剤を使うとより簡単に落ちる。 ・　洗剤シップは傷がつかないし、余分な力もいらない。 ・　アルミの受け皿も有効だがゴミが出るので問題かもしれない。 ・　できるだけ簡単に落とすためには使用後すぐにふき取るようにしたい。 ・　傷をつけないように使用する道具をよく考えよう。	※身近な生活に関わってのまとめや感想が持てるように助言する。 ※実際のコンロの凸凹した様子をイメージできるように助言する。 ※環境汚染についての意見が出てくれば取り上げ、全体に広げる。

泉中保健体育科研究構想

＜学校の教育目標＞

創造・自主・協同

＜研究内容＞

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案

◇運動がうまくなり，自分に見合った運動の実践ができる生徒の育成を目指し，単元指導計画や１時間の流れの中で効果的なバズの方法・場の設定を工夫する。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明

◇運動の上達を目指し，運動習熟の過程でのつまずきやグループの高まりでのトラブルを生徒自身が意欲的に解決していくためにバズ学習を通して生徒を変容させるための手立てを究明する。

・課題達成に向けて，今の姿や評価を客観的に受け止め，これまでの経験や既習事項をもとに解決できるようなバズ学習の工夫をする。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着

◇学び方を身に付けさせていくための指導・援助の工夫する。

・グループの組織を明確にし，機能的に活動できるようにする。

＜研究仮説＞

互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全校研究主題＞

個と集団を鍛えるバズ学習の究明

―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜保健体育科学習で願う姿＞

◎運動がうまくなりたいという願いに向けて，自分のよさを発揮して意欲的に取り組む姿

◎仲間での運動技能の上達をめざし，互いに援助し合い高まっていく姿

＜生徒の実態＞

○運動に興味を持ち，活発に運動する生徒が多い。

○学習課題が明確で解決の見通しが持てれば，技能の上達に向けて意欲的に取り組むことができる。

△こんな姿になりたいという願いは持てても，それに立ち向かう過程での追究の仕方が十分に身についておらず，進んで課題を達成することに弱さを感じる生徒が多い。

△自ら進んで仲間に援助を求めたり，仲間とのかかわりの中で高まっていこうとする姿勢に弱さが見られる。

特別公開Ⅰ（9：35～10：25）

泉中３年Ａ組　保健体育科学習指導案

場　所　　体育館
授業者　　奥村　彰浩

1　単元・題材名　　武道「剣道」

2　指導の立場

（1）単元について

剣道は，竹刀を使って「面，小手，胴」の約束部位に相手より早く打ち込む競技である。剣道で最も喜びを感じるのは，相手のすきをとらえて打ち込み，有効打突が決まった時である。したがって，剣道で身に付けるべき技術は，相手のすきをつくらせたり，とらえたりして打つこと，相手の打ちをかわして打つことである。

また，剣道は，わが国古来の固有の武技の一つとしての剣術から発展してきたものであり，技術を磨くだけでなく，人間形成を目的として行われるという特性がある。即ち，対戦相手は人間としての生き方，在り方を共に学び合う仲間同志であるという気持ちをもって，互いに，相手の人格を尊重しながら稽古（試合）をすることが必要である。この相手の人格を尊重する心のもち方を形の上にあらわすのが礼儀作法であり，興奮を抑えたり（自己制御）するためにも，特に正しい形でていねいな礼が必要である。古来より「礼に始まり礼に終わる」といわれるように，礼儀作法を習得するところに伝統的意義があり，現在でも教育的価値が高いものである。

剣道は，本来は日本刀を使用して，真剣勝負に勝つための訓練であった。スポーツとしてとらえられ親しまれるようになっても，この精神は忘れてはならない。すなわち充実した気力で真剣に行い，効果的な強い打突を目指して攻め合い，打ち合うのが剣道である。真剣勝負で相手を倒すためには，精神的に相手を圧倒し，一瞬のすきをついたするどい打ち込みが必要である。そのため，「気剣体一致」の打ち込みでなければならない。

「気剣体」の「気」とは，打ち勝とうとする気力のことである。また，「剣」とは，理にかなった竹刀さばき（操作）のことであり，「体」とは，それぞれの動きに応じた体さばき・体勢のことである。この三つがタイミングよく一致し，うまく調和した時に，剣道らしい打ち方が成立するのである。

（2）生徒の実態

３年生男子は，１年生から剣道を学習している。１年生では，正面・右小手・右胴の基本打ちを中心に毎時間の約束稽古・かかり稽古で技を理解し，互角稽古で成果を確かめてきた。その結果，班対抗試合では，試合の様相が「その場でのたたき合い」から「踏み込んで打てる」へと発展してきた。２年生では，しかけ技として，二段技や，連続打ちを行ってきた。試合の様相としては，「踏み込んで打てる」から「しかけて打てる」へと発展してきたと考える。現３年生では，応じ技を学習する。出ばな小手・面抜き面・面すり上げ胴を精選し，技を身に付けるようにする。試合の様相としては，「応じて打てる」ようにしていく。応じ技では，多くの生徒が相手の動きに応じて，タイミングよく打つ姿になっているが，互角稽古になるとなかなか打突部位にうまく決まらず，一本取れないでいる姿が目立つ。

集団の側面から見ると，教え合い，励まし合いができる仲間であるが，グループの中での関わりがまだ弱く「みんなで強くなろう」と厳しく要求し合う活動まで高まっていない。そこで，毎時間の計画会を通して，互いが厳しく上達し合うことを強調してきた。その結果，まだ不十分な面を残しつつ，リーダーを中心とした，グループ内での相互援助活動ができるグループが見られるようになってきた。

（3）研究主題との関わり

体育の学習は，生徒の運動欲求を充足することはいうまでもないが，「運動を身に付け，好きにする」ことと「集団を発達させ，協力的，自主的な態度を身に付ける」ことを目的としている。言い換えると，運動を習熟するための学習（運動の側面）と運動によって集団を高めるための学習（集団の側面）であり，この両側面が相互に関連し合い一体的になされるものである。体育の学習は，運動の特性から小集団（グループ）を組織し，その指導を中心に学習が進められる。生徒は，小集団の一員として位置付き，ここでの活動を通して，技能や態度を身に付け高まっていくものである。つまり，体育科が行っている「体育授業」の多くは「バズ学習」を取り入れ展開している。「バズ」＝「話し合い」という考えにとらわれず，「集団を通して一人一人が育つ」ことを目標に授業を進めていきたい。

剣道が上達していく姿は，打ち方がどのように上達していくか，いわゆる「打ち合う姿」でとらえることができる。それは，剣道そのものが真剣な打ち合いであり，相手のすきをいかに打つかが，意識の中心となるからである。剣道が上達する姿は，基本的には「その場でのたたき打ち→ふみ込み打ち・さがり打ち→しかけ打ち→応じ打ち」ととらえることができる。３年生男子は，応じ打ちの段階であると考える。

本時は，技の習得「面すり上げ胴」の２時間目である。前時の「面すり上げ胴」の１時間目では，まずペアの「約束稽古」で，技術ポイントを意識しながら，繰り返し，ゆっくりと相手の動きに応じる感覚を確認した。そして班内でローテーションしながら教え合い，指摘し合って気を付けることを確認し合った。確認し合ったことをもとにペアでアドバイスしながらの「かかり稽古」で繰り返し有効打突の追究をした。さらに，班外のペア２人と互角稽古をする中で，習った技の習得の成果を確認した。その結果，「約束稽古」や「かかり稽古」では，タイミングの取り方がうまく取れるようになってきた。しかし問題点として，「互格稽古」では，相手の竹刀をすり上げられない生徒，相手との距離がつかめない生徒，頭から前に出て腰が引けてしまう生徒が目立った。互格稽古では，いろんな技を組み立て，いかに相手の動きに応じていくかが本時の課題である。

また，本時では，次のようなバズ学習を仕組んでいく。

○計画会
全体会をうけて，グループ課題・個人課題を話し合う。１時間でどこまで伸ばそうとするのか明確にする。

○かかり稽古
班内でローテーションしながら，「どこが，どうなっているのか」「どこをどのように直したらいいのか」を動作の伴ったバズ学習で指摘し合うようにさせる。さらに，班の仲間や教師から指摘されたことをペアで繰り返し練習させる。

○中間研究会
前半練習での問題点をつかみ，後半練習への課題を持たせるようにする。各ペアで，各個人の問題点をはっきりさせる。

○互格稽古
まず班内での「互格稽古」で，アドバイスしながら一本取る練習をすることによって，技のバリエーションと相手の動きに応じる面すり上げ胴を磨かせる。さらに，班外ペアとの「互格稽古」でさらに技を磨き合い，本時の課題達成度を確かめ合わせる。

○反省会
課題がどこまで達成できたのかを確かめ，次時の課題の足がかりをつくる。

3　単元目標　＜運動＞攻め合いから相手の動きに応じて打つことができる。
＜集団＞意欲的に取り組み，厳しく要求し合える仲間になる。

4　単元指導計画

条件 過程		学習内容 運動の側面	学習内容 集団の側面	学習活動 運動の側面　集団の側面	教師の指導・援助 運動の側面	教師の指導・援助 集団の側面
計画	1	【計画会】 ・学習目標を知り，グループ・個人目標を持つことができる。 ねらい 攻め合いから，相手の動きに応じて打つことができる。	・目指す仲間の姿を知り，グループの決まりを決めることができる。 ねがい 意欲的に取り組み，厳しく要求し合える仲間になる。	・運動技能のねらい・目指す仲間の姿を把握し，イメージする。 ・グループ編成と役割分担をする。 ・毎時間の授業の流れ・学習ノートの使い方を把握する。 ・目指す仲間の姿から，具体的なきまりをつくる。	・学習課題を明確にするために，図やVTRをさ示し，イメージ化させる。 ・具体的な姿，技術を説明し，到達のめどを明確にしておく。	・前単元で取り組みのみと切のさ班確認する。 ・各仲間をる。 実から係すま指導す 信をの認「り」 頼関識きさ 認識させ
展開	2 3	【復習稽古】 ・相手の構えのすきを見て，まっすぐに打つことができる。 ・二段の技を使い，相手の構えをくずして，打つことができる。	・立礼・座礼など礼儀正しくできる。 ・進んで互いの相手となって練習できる。	理解バズ 班計画会 グループ課題・個人課題を話し合う 探究バズ 礼儀作法（立礼・座礼・立ち方・座り方） L…練習内容の指示 PO…技能の点検 MO…きまりの点検 約束稽古（ペア）・技術ポイントを意識して，繰り返し練習する。 かかり稽古（ペア）・アドバイスし合いながら繰り返し有効打突を追求する。 （グループ全体）・班内ローテーションで教え合い，指摘し合って確認する。 互格稽古（ペア）・他グループの互角の相手とペアをつくり繰り返し練習する。 確認バズ 反省会 課題が達成できたか確かめる。 班対抗試合 ・互角の立場同士で試合する。 （先鋒・次鋒・中堅・副将・大将） ・作戦を立てる PO…メンバーの動きの観察	・気合い，間合い，足さばき，竹刀さばき，残心，タイミングを確認させ，練習の中で常に気を付けさせる。 ・ゆっくり大きな動作にから始めて，しだいにいくように速しする。 ・手腰の打ちでなくしたを気にイメージして，充実するよたうに指示する。 ・タイミングが合わなくなるい動作を教師が模範をしよう。 ・正確に打てない生徒には技のポイントを確認させ，ゆっくり打つように取る。 ・試合で一本取れるように，得意技を中心に練習させる。 ・試合の作法・審判法の指導。	・規律ある行動への具体的な指示を行う ・体力に劣る生徒には，積極的にかわらず，班の中で努力を認めさせる。 ・援助活動を役割を発揮させ，活動をめくるみ，活動のっ活ア個人々ささせる。 ・反省会で必ず援助活動させる。 ・活動場所の安全に整備にに常に気を付け，用させる。
	4 5	【出ばな小手】 ・相手が手元をあげた瞬間をとらえ，タイミングよく右小手を打つことできる。	・ペア活動を中心に，教え合ったり励まし合ったりできる仲間になる。			
	6 7	【面抜き面】 ・相手が面を打とうとする瞬間をとらえ，タイミングよくすれちがいざま面を打つことができる。				
	8	【面すり上げ胴】 ・正面に打ってくる相手の竹刀を斜めにすり上げ，胴を打つことができる。				
	9	（本時）	・互いの技が進歩しおするように，厳しく指摘し高まりすくうことができる。			
	10 11 12	【稽古・簡易試合】 ・得意技を中心に，しかけたり応じたりして，相手のすきをつき一本取ること ができる。				
	13 14	【リーグ戦】 ・習得した技能・得意技を使い試合をすることができる。	・リーグ戦の優勝を目指して，お互い合いの成果を要求しうことができる。			
評価	15	【反省会】 ・リーグ戦成績（グループ・個人） ・課題達成度 （技能の習得ぶりを振り返り，反省・評価することができる。）	・目指す仲間になれたか振り返り，反省・評価する。	・グループの活動全体を相互評価する ・リーグ戦結果まとめ ・課題達成度 ・役割の果たしぶり　（L）会の進行 ・きまりの守りぶり　（PO）資料の提示 （MO）資料の提示	・課題の達成度と伸びを認める。 ・リーグ戦の結果だけでなく，過程と原因を探り，事実をもに振り返る。	・学習活動の中で，確なた助言や，要求された姿こと紹体的な単元介次のる。

5　本時の目標　＜運動＞正面に打ってくる相手の竹刀を斜めにすり上げ，胴を打つことができる。
＜集団＞お互いの技が進歩するように，厳しく指摘し高まり合うことができる。

6　本時の展開　（１５時間中　９時間目）

条件過程		学習内容 運動の側面	学習内容 集団の側面	学習活動 運動の側面	学習活動 集団の側面	教師の援助・指導 運動の側面	教師の援助・指導 集団の側面
計画	計画会	・技能のねらいをつかむことができる。 ねらい 正面に打ってくる相手の竹刀を斜めにすり上げ，胴を打つことができる。	・めざす仲間の姿を理解できる。 ねがい お互いの技が進歩するように，厳しく指摘し高まりあうことができる。	＜全体会＞ 本時の課題，目指す姿を把握する （L）　準備，集合整列の指示 （MO）きまりの点検 理解バズ ＜班計画会＞活動計画を確認 （個人課題・グループ課題） 練習内容の決定 （L）　班会の指示 （PO）前時の結果からの提案		・前時のつまずきから本時の課題に結び付ける。 ・技術ポイントの説明をする。	・前時までの援助活動において展望した姿を体現し，本時の目標に応じて活動の仕方を提示する。 ・各班の必要に応じて指導する。
展開	前半練習	・班内のかかり稽古で，お互いに技術を確認しポイントを確認しながら，正面合なすり上げ胴ができる。 ・前半練習の問題点のはっきりさせ，後半のめあてを確認する。	・リーダーの指示にしたがって，そろって活動できる。 ・お互いの意見を交流し合うことができる。	探究バズ L…練習内容の指示 PO…技能の点検 MO…きまりの点検 かかり稽古 （グループ全体）・班内ローテーションで教え合い，指摘し合って確認する。 （ペア）・アドバイスし合いながら繰り返し有効打突の追求をする。		・相手の竹刀がすり上がらない生徒への指導 すり上げは大きな円を描くようにすると効果的であることを認識させる。 ・相手との距離がつかめない生徒への指導 相手の打ち込む動作にタイミングを合わせて，むしろ前進しながらすり上げることが効果的であることを認識させる。 ・頭から前に出て腰が引けてしまう生徒への指導 相手となるべく離れさせないようにさせ，腰からはやく入るように，ゆっくりとした動作で示範する。 ・乱雑な打ち方をしている生徒への指導 その場で練習を止めさせ，自分の状態がどうなっているかを考えさせる。	・援助・励ましの活動（教えあい，合いの指導） ・グループ・よびかけ，生徒がどのなかなかつまずき気付いてる。 ・アドバイスの仕方，時間，時合，言葉切り，厳しくはっきりと指摘する。 ・仲間からのアドバイスをポイントを確認する。 ・ペアが互角の相手となっているか確認する。
	研究会	・班内のかかり稽古で，互いに技術を確認し正面に打ちのり上げ，胴を取ることができる。	・厳しく指摘し合うことができる 厳しく指摘し合う姿 ・繰り返し練習できる。 ・できていないところは遠慮せずに言える。 ・ねらいとズレが生じたときにすかさずアドバイスできる。	探究バズ （バズテーマ） 互角稽古に向けて，一人一人の問題点をはっきりさせよう。			
	後半練習	・班外ペアとの互角稽古で，正面にのり上げ，胴を打つことができる。 ・班内の互角稽古で，正面にのり上げ，胴を取ることができる。		探究バズ 互格稽古（ペア） アドバイスをしながらすり上げ胴の練習をする。 （班外ペア）・他グループの互角のペアから一本取る練習をする。			
評価	反省会	・ねらいの達成ぶり，反省・評価を目指し，次時のことができる。	・めざす仲間になれたか反省，評価し次時のねがいを持つことができる。	確認バズ ＜班反省会＞個人の課題が達成できたかどうか振り返る。仲間の頑張った事実を具体的に確認し合う。 （L）班会の指示　（PO）技能点検　（MO）態度点検 ＜全体会＞全体で本時の学習成果を確認する。		・精一杯の活動や，わずかな伸びの事実を全体の場で認める。 ・成果と課題を次時のねらいにつなげる。	・具体的な姿をあげながら，めざす仲間づくりが進んだ班を認める。

泉中音楽科研究構想

＜学校の教育目標＞

創造・自主・協同

研究内容１　バズ学習を位置付けた指導計画の立案

◇表現活動において，意欲的に追究する生徒の育成を目指し，効果的なバズ学習の方法・場の設定の工夫をする。

研究内容２　必然性のあるバズ学習のあり方の究明

◇表現に対して，生徒の「願い」「憧れ」を生かし，学び合いの中で表現しようとする意識を連続させるために，バズ学習を通して生徒を変容せるための手立てを究明する。

・表現に対する一人一人の「願い」「憧れ」を生かし，大切にしながら追求できる共通の足場づくりを工夫する。

・学習後の生徒の評価や次時への願いを受け，必然性のある学習課題やバズテーマ設定の工夫をする。

研究内容３　バズ学習を支える学び方の定着

◇より美しい表現を目指し工夫・追究するために，バズ学習の進め方・基本的な学習姿勢のあり方を指導する。

＜研究仮説＞

互いの考えや力を発揮し合い，高め合えるようなバズ学習を効果的に取り入れ，教師の適切な指導・援助を行えば，生徒に教科の基礎・基本が確実に定着する。

＜全　校　研　究　主　題＞

個と集団を鍛えるバズ学習の究明

―― 基礎・基本の確実な定着を目指して ――

＜音楽科で願う姿＞

◎曲想を感じ取り味わい，「願い」や「憧れ」を抱いて自ら表現しようとする姿

◎より美しい表現に迫るため，仲間と共に，学び合いの中で追究し合う姿

＜生徒の実態＞

○曲のイメージや美しさを感じ取り，表現への「願い」「憧れ」を抱くことができる。

○課題や練習方法がはっきりすれば，精一杯表現活動することができる。

△曲想や特徴づけている要素などを生かして，表現を高める工夫をする姿勢がやや弱い。

△パート別学習において，意見交流・表現・追究の姿勢にやや欠けている。

特別公開Ⅰ（９：３５～１０：２５）

泉中１年Ｅ組　音楽科学習指導案

場　所　第１音楽室　（南舎１階）
授業者　小木曽尚子

１　題材名　　「混声３部合唱（導入期として）の響きを味わおう」
混声３部合唱　「夢は大空を駈ける」

２　指導の立場

（１）題材について

本教材「夢は大空を駈ける」は，美しい自然や夢や希望にあふれる歌詞と，はなやかで生き生きとした旋律を持ち，音域面からみても変声期中の男子にとっても親しみやすい曲であると考える。

また，全パートに主旋律を受け持つ部分があり，自パートが中心となって表現する喜びや，主旋律を支えることの重要性を指導することができる。

本時では，「曲の盛り上がり」の表現を通して自分や仲間の表現力の高まりを認め，さらにクラス合唱から学年合唱へと合唱の輪を広げながら，混声合唱としての醍醐味を味わわせ，感動体験へと導きたい。

（２）生徒の実態

本校では，例年１１月に学校行事「文化祭」を行っている。今年度は，生徒の活動の柱の一つに「合唱」が掲げられていることもあり，「合唱でクラスの和を」という意識が１年生の中にもある。

学級での取り組みは朝の会と帰りの会に位置付けられ，合唱リーダーの活躍の場を設けて生徒の力で高められる合唱づくりを図っている。リーダーの「まだ声が小さい。もっと歌える。」というような前向きな活動に対して応えようとする生徒がほとんどである。

１学期に学習した混声２部合唱「赤い川の谷間」では，出しやすい音域で楽に声が出しやすく，女子も男子も気持ちよく歌うことができた。２部のハーモニーの美しさも実感することができた。しかし曲が単調に流れてしまい，歌った後の「満足感」を味わうところまで至らなかった。

そこで今回この題材を通して声部の大切さを学ぶことで，主旋律を堂々と歌い上げたり，他パートを大切にして引き立てるように歌う表現の方法を学ばせたい。そしてパートや学級全体で一丸となってつくり上げる合唱を目指したい。

歌唱力に関わる実態として，男子は変声期前の生徒が６名ほどいるが，抵抗なくオクターブ上で歌っている。女子は高音も抵抗なく発声しようとする生徒がほとんどだが，力んでしまって地声になりやすいので，響き合う声を追究していくことが課題である。

バズ学習に関わる実態としては次のような姿が見受けられる。

○自分の思いを気軽に発表できる雰囲気がある。

●意見が単発的なことが多く，関わったり深め合ったりすることに弱さがある。

本題材では、こうしたバズ学習の実態をふまえ、事前や活動中におけるリーダー指導に力を入れていきたいと考えている。

（３）研究主題との関わり

本教材の表現指導にあたり，教科として次のような姿を願っている。

> ・曲想を感じ取り，味わい，「願い」や「憧れ」を抱いて意欲的に表現する。
> ・より美しい表現に迫るため，仲間との学び合いの中で追究し合う。

生徒は，本教材との出会い，第１時間目のＣＤ鑑賞で，いろいろな角度から強く感動を受け，一人一人が自分たちの表現への「願い」や「憧れ」を抱いている。

このように受けた「感動」や抱いた「願い」「憧れ」を上記のような姿で，自分たちの表現として実現させることが，音楽科の授業のねらうところである。

しかし，曲づくりの活動における「正しい音程で歌う」こと一つ取りあげても，それを一人一人が克服する過程はとても単調であり困難な練習が予想される。そこで，パートを中心とした小集団でのバズ学習を取り入れることによって，仲間との支え合い・学び合いの中で，学習意欲を高めたい。例えば，パートでの音取りのバズ学習では，苦手な生徒も，素早く正しい音程で歌える仲間の支え合いがあったり，怠けそうになりがちな繰り返し練習でも，励ましによって乗り越えられる事が期待できる。また，少人数のため、お互いの姿を確かめやすく、緊張感の中で練習が進められると考える。

本時は，５時間目に位置し，「曲の盛り上がり」の表現追究を学習の課題としている表現の工夫をしながら追究をする場面で，パート混合のバズ学習を設定している。一斉学習の半分の人数で合唱することにより，各パートで追究した「正しく歌う」ことへの自信を深めさせたい。また，表現について自分の考えを述べたり表現し合う中で仲間と学習することの値打ちに気づき，パートの係として,表現に関わり積極的にアドバイスすることで,主体的な活動となることを期待したい。さらに本時でも，第一時間目に受けた感動や表現への「願い」を共通な足場として持たせ，常に立ち返らせたいと考える。

曲の表現を練り上げていく＝「曲づくり」ととらえ，学習活動の過程に連続性・発展性を持たせたいと考え，学習プリントでの毎時の振り返りと評価,次時への願いを大切にし,それらを受けて，必然性のある学習課題やバズテーマ設定の工夫をしたい。

本時のバズ学習では，自パートが「曲の頂点づくり」のために“どこを”“どのように歌う”のかを探り，その表現に近付けるために追求し合う活動を願い，指導計画に位置付けている。

パートへの所属感を感じ,仲間と積極的に関わり,主体的に活動に参加させるために,一人一役の係を設け，係指導を行ってきた。係としての自覚のもと，各自の呼び掛けや働きによってバズ学習を円滑で充実したものにさせたい。

バズ学習では，範唱ＣＤや各自のイメージに向かって，繰り返し，方法を工夫し合いながら追究させたい。表現として実現させるために，教師は，バズ学習の進行状況を見ながら，リーダーに進め方のアドバイスをしたり，一人一役の役割を果たすことができるよう援助し，見届けたい。また，聴き役にもなり，音程の修正，発声法，息継ぎのタイミングなど技能面のアドバイスをしてバズ学習の充実を図りたい。

これらの活動を通して，バズ学習終了後の全体合唱の場面では，一人一人がパートで高めた表現力を発揮し，全員で表現し終えた一体感，成就感を味わわせたいと願っている。

3　題材の目標　　声部の働きを感じ取り，全体の響きを味わいながらが伸び伸びと合唱することができる。

4　題材の指導計画

教材	夢は大空を駆ける						
時	1	2	3	4	5（本時）	6	7
ねらい	曲に対する願いと憧れを持つことができる。	パートで練習の工夫をしながら音取りができる。	パート交流をする持ることで自信とがこてる。歌うことがき。	主旋律を生かし表現の工夫をすることができる。	曲の盛り上がりの表現を工夫することができる。	作り上げた表現を大切にして歌うことができる。	3部合唱の響きの美しさを味わうことができる。
主な学習活動	「歌詞を読んだり曲を聴いてみて思ったことを発表しよう」 学習プリントに自分の思いを記入する。 <探究バズ> 「曲を聴いて思ったことを班で交流しよう」 班で一人ずつ思った間の意見を発表しこの意見に対する思い仲間の曲を深めるを。	「パート練習の工夫をしてよい正音程を覚えよう」 <探究バズ> 「パートでよる音がに早く覚わる仕方を工夫練習のよう」 リーダーを中心にバズ学習で練習の仕方を決める。 自分の役割を果たしながらパート練習をする。 →オルガンを囲んで →少人数で →ペアで 全体で合唱し本時の成果を確認する。	「他パートと交流しながらよりよい確かな音にしよう」 <探究バズ> 「パートよい交流でやお互いのよい所を教え合い改善点を教えよう」 リーダーを中心に他のパートと歌い合わせる。 →全てのパートと交流 パートで成果や課題を発表し合う。	「主旋律を生かして歌えるようにしよう」 <発見バズ> 「自分のパートの主旋律の部分に印を付けよう」 <探究バズ> 「主旋律を生かすためにどのようにすれば良いかパートで考えよう。 パートに分かれて意見を出し合い歌い方を工夫して歌う。 全体で意見を交流し，合唱する。	「中間部の曲の盛り上がりを味わおう」 <探究バズ> 「曲の盛り上がりにふさわしい表現を工夫しよう」 どこをどのようにパ歌えばよいかパートで意見交流する。 仲間からの意見を意識して歌う。（聴き役をおいて） 全体で合唱し録音する。 録音を聴いて感想を発表する。	「作り上げた表現を大切にして歌い上げよう」 前時の録音を聴く <探究バズ> 「今までの学習内容をを思い出し，どういくこまるかがどの表現されようか発表しよう」 発表の内容を人でしっかり歌えるようにする。 <理解バズ> 「ペアで聴き合って、表現がているか教え合おう。」	「グループ発表会をして互いの合唱の響きを聴きおう」 <探究バズ> 「相手の合唱の響きを意識して聴きし，よい所を発表しよう」 出てきた意見を意識して全員で歌う。 全員でア・カペラで歌い録音をする。 録音を聴いて感想を発表する。
評価の観点	感じたことを積極的に発言できたか。	自分の考えを積極的に発言できたか。	リーダーの指示に応えられたか。	積極的に自分の意見を発表できたか。	自分の考えを積極的に発言できたか。	自分の思いを積極的に発言できたか。	相手の合唱をしっかり聴いて感想を持てたか。
	曲に対する自分のなりの願いを持つことができたか。	音程を正確にとることができたか。	他パートを聴きながら歌えたか。	主旋律について理解し意識して歌えたか。	曲想に合った表現で歌えたか。	ペア練習で表現に関するアドバイスができたか。	ア・カペラで堂々と歌うことができたか。

5　本時の目標　・中間部の曲の歌い方（かけ合い，音の重なり）に対する自分達の願い（音を最後までのばす，クレッシェンドをつける，声を響かせるなど）を生かして仲間と練習しながら，曲の盛り上がりを味わうことができる。

6　本時の展開

過程	学習活動	教師の指導・援助
つかむ／ふかめる／まとめる	○発声練習をする。 ・姿勢や響きを意識して歌う。 ・係の指示に協力する。 ○「夢は大空を駈ける」を合唱し，録音する。 ・指揮者に注目する。・出だしに注意する。 ○学習課題を把握する。 **中間部の曲の盛り上がり（旋律のかけ合いと音の重なり）を味わおう** ○曲の盛り上がりの部分を確認し，自分達の合唱と範唱ＣＤとを聴き比べ，範唱ＣＤから取り入れたいところを発表する。 ◎中間部　“夢が希望が～　きらめいて大空に－” ・高い声がとても響いている。・声がしっかり伸びている。 ・強く迫力のある声が出ている。・だんだん盛り上がっている。 ○グループに分かれて練習する。 ＜探究バズ＞ バズテーマ 曲が盛り上がったように表現するには，どのように歌えば良いか考えを出し合い，その表現に近づけるように繰り返し歌おう ・のばす音をしっかり伸ばす。 ・出だしはｍｐで歌う。 ・“夢が希望が”クレッシェンドしてだんだん盛り上げる。 ・“きらめいて大空に－”ｆで強く，高く響く声で歌う。 ・かけ合いをタイミング良く出る。 ⇩ ○バズで表現を追究する。 ・聴き役をおいてアドバイスし合う。 ○パートリーダーが練習で工夫したところや成果をまとめて発表する。 ・出だしを意識し一気に歌ったら迫力が出てきた。 ・声を響かせることに集中したら響きも声のボリュームもアップした。 ○全体で曲の盛り上がりを味わいながら合唱する。 ・意欲的に参加する。・盛り上がりを意識して歌う。 ○録音を聴き，感想を発表する。 ・大空のように広がる曲の頂点が表現できた。 ・良い響きを意識して歌うことができた。	○係による始業活動を見届ける。 ○教師も一緒に歌うことで明るい雰囲気づくりをする。 ○指揮者，聴き役の活動を価値付ける。 ◇生徒が書いた曲に対する感想，表現への願い・憧れ・前時の評価・次時への課題などをまとめたペープサートを用意する ○本時は中間部の盛り上がりの部分の表現に重点を置く。 ◇表現が分かりやすい範唱ＣＤを用意する ※イメージが具体的な音になるヒントを歌いながら与える。 ○バズで自分の役割を果たすよう援助し，見届ける。 ※進行状況を見てリーダーに進め方をアドバイスする。 ※聴き役になり，技能面でのアドバイスをする。 ・音程の修正・発声の仕方・リズム ・息継ぎのタイミング ・掛け合い部分の出だし ○バズでのリーダー，フォロアーのよい姿を価値付ける。 ○高まった表現を評価し次の課題を意識することで，さらに曲づくりに対する意欲を持たせる。

ー泉小学校・指導案ー

生活科指導構想

【学校教育目標】

考えやりぬく子・思いやりのある子・じょうぶな子

子供の実態

育ってきている姿
◎自分の興味・関心がある活動に意欲的に取り組む姿

育ちきれていない姿
・友達とうまくかかわりをもてない姿
（コミュニケーション能力の弱さ）
・「次は何するの？」と指示を待つ姿
（自分で考える力・判断力・表現力の弱さ）

めざす子供像

自ら求め、仲間と共に学び続ける子

【研究主題】

自ら学び、学ぶ楽しさを味わう子供の育成

願う子供の姿

・自然や人・ものなどの対象へと自ら働きかける子
〈まず、自分の周りの人やものに関心をもち、積極的に働きかけて、活動へと熱中していく子〉
・活動に熱中する中で、主体的に考える子
〈繰り返しかかわる中で、自分なりに体感し、考える子〉
・対象とのかかわりを通して、人やもの・場所のよさ、自分自身の良さに気づく姿
〈人・場所・ものへの愛着を感じたり、自分に自信をもったりする子〉

土岐市の教育

・基礎的・基本的な内容の明確化と指導計画の改善・充実
・子供たちが熱中し学習過程や可能性を多様な学習形態の子供たちが学習を発展させる工夫
・子ども中心の組織的な取り組みの評価と指導

【研究テーマ】

活動に熱中し、気づきを深める生活科指導

研究の仮説

(1)子どもたちの興味・関心が高まるような単元・学習活動を仕組むことで、子どもたちは意欲的・主体的に対象へと働きかけ、熱中して活動することができる。
(2)個の願いを把握し、よさを広げていく働きかけや方向性を導き出すような援助をすることによって、より活動に熱中でき、よさにも気づくことができる。

研究内容1 子供理解の工夫

学びのよさをとらえる子供理解の工夫

①ポートフォリオによる個の願いの把握
・個の願い
・個のつまずき
・気づきのよさ
・思考・表現のよさ
・かかわりのよさ

研究内容2 単元構想・学習活動の工夫

意欲や主体性が高まる学習活動づくり

①体験的・実感的な学習活動づくり

②仲間とかかわりあう学習形態づくり
・バズ学習
・考える場面・話し合う活動の設定

研究内容3 評価と指導・援助の工夫

教師による指導・援助の工夫

①ポートフォリオによる指導・援助の工夫

②環境構成や資料・材料提示の工夫

③よさを広げていく指導・援助の工夫

特別公開Ⅰ（９：３５～１０：２０）

１年４組　生活科学習指導案

場　所　　泉小学校附属幼稚園　遊戯室
授業者　　吉　田　　雪　絵

１．単元名　「いっしょにあそぼう」～幼稚園児との交流～

２．指導の立場

（１）単元について

○本単元は、併設されている幼稚園の園児とかかわる活動である。附属幼稚園との交流は昨年度から継続している活動であるが、人とのかかわりを学ぶには、連続性をもたせることが必要不可欠であると考え、本年度は年間を通じての交流を大切にしている。

自分より低年齢の幼稚園児との交流活動を通して、自分の思いを表現したり、相手を受容したりして楽しく、仲よく活動できるようになることをねらいとしている。このような活動を繰り返すことによって、相手に対しての思いやりや人とかかわる楽しさなど、人とのかかわり方が育つと考える。

また、バズ学習が人間関係を基盤とする協同学習と定義されるならば、このような**人とのかかわりこそが小学校第１学年におけるバズ学習の第１歩**となると考えるのである。

○単元設定の理由

・社会的要請と教育の今日的課題より

近年、過疎化の進む町が多く、自分のふるさとに愛着がもてなかったり、ふるさとを離れ、都心へと向かったりする若者が増加してきている。それは、人とのかかわりが希薄化してきているという社会的背景が深く関連していると思われる。それゆえに、生活科や総合的学習で地域素材を扱う大切さが、今こそ求められているのだと考える。

さらに、新しく改訂された学習指導要領解説の生活科の目標や内容には、次のように記されている。

『新学習指導要領生活科解説』－２．学年の目標の趣旨

> 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとのかかわりに関心をもち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。

『新学習指導要領生活科解説』　第２節内容（３）

> 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

このような社会的背景や今日的課題からも、人とのかかわりを体感できる本単元を仕組む必要性を強く感じる。

・幼小の願いの一致

附属幼稚園は単一年齢の集団であることから、幼稚園側としてもやはり同じように異年齢とのかかわりを求めている。さらに、幼稚園には自由遊びの時間が確保されており、その場での遊びの広がりも求めている。小学校においても、遊びの固定化が見られ、新しい遊びに目が向かなくなってきている。そこで、小学校一年生の担任として、子ども達が幼稚園の子と一緒に、この自由遊びの時間を過ごすことを通して、無理なくかかわり、自分たちの遊びも新たに生み出し、広げていくことを強く願っている。このような双方の願いの一致により、本単元を設定した。

（２）児童の実態

○異年齢とのかかわり

小単元「学校大好き」では、二年生の児童とペアをつくって学校探検をしたり、同学年の仲間や小学校の先生に名刺を渡して握手をしたりと、人とのかかわり方を学習する活動を中心に行ってきた。二年生の児童に「あそこに行きたい。」と自分の願いを話したり、「～先生と仲良くなりたい。」と自ら人にかかわっていくことができる子がいた。その一方で、なかなか自分から人にかかわっていけない子も多かった。

また、休み時間などを通して、交流学級である六年四組のお兄さんお姉さんとのかかわりも深めてきた。初めは、交流会を設定し、六年生に遊んでもらう形であったが、徐々に休み時間になると自ら六年生の教室へ行き、「一緒に遊ぼう。」と一年生の方から誘う姿が増えてきた。一学期の終わりには、学級花壇で収穫したジャガイモを六年生に調理してもらえるように、お願いに行き、一年生からの働きかけで「おいもパーティー」を開いた。この実践により、高学年の子とのかかわりは深まってきていると捉えた。

○１学期の交流より（小単元「つくってあそぼう」）

６月に交流学級である「うさぎ組」へ行き、対面式を行った。グループ対グループの交流で、名刺を渡して握手をし、幼稚園児の名前を聞いた後、折り紙を使って一緒に作って遊んだ。年長者として幼稚園児に折り紙の折り方を丁寧に説明する姿や自分の作った物をプレゼントする姿も見られ、懸命に低年齢の子とかかわろうという意欲を感じた。

「つくってあそぼう」では、輪投げやピン倒し・くじ引きなどの遊びを生活グループで一つ決め、廃材を使ってグループの仲間と一緒に作った。幼稚園児でも作れるかどうか、グループで話し合い、もう一度遊びを考えてから、幼稚園児と一緒にその遊びを作って遊んだ。

自分で説明して作ることは難しかったが、幼稚園児のために一生懸命作る姿をその横で幼稚園児が熱心に見つめたり、作った物を「こうやってあそぶんだよ。」と説明する姿があった。昨年度から交流を続けていることもあり、幼稚園児に無関心の子は少なく、一年生なりの方法でコミュニケーションを図ろうとしている子が多いが、その能力はまだ育ちきれていないように思う。また、活動に熱中する中で、自分で考えたり、判断したり、表現したりする力にも弱さを感じる。

（３）研究主題とのかかわり

○研究内容２　仲間とかかわり合う学習形態づくり（バズ学習）

・本単元は、幼稚園児と積極的にかかわるために、まず学級の子ども達が知恵を出し合い、喜びをもって学習できる形態を押し進めたい。そのために、単元を通して、バズで活動したり、相談したりする活動を多く取り入れ、活動の充実や向上を図りたいと考える。特に、幼稚園児が喜ぶと思われる遊びを、まず学級全体で試し、個々が遊びを工夫し、体得する活動の場を大切にしたい。

・本時は、１年生と幼稚園児のペアで、幼稚園児が選んだ作品を、一緒に触れ合いながら作り上げる活動で、この活動自体がバズであると考える。幼稚園児と共に活動する中で、相手のことを考えて工夫したり、遊んだりする自分に気づかせたいと考える。また、ペアで一緒に作る活動を、あえてバズで行うことで仲間同士で助け合ったり、仲間のよいところをまねしたりできるように、１年生の児童相互のかかわりの場ももてるようにしたい。

3　単元の目標

○幼稚園児との触れ合い（交流）を通して、異年齢の子とかかわる楽しさを味わい、自分と人とのかかわりに関心をもつことができる。**（人とのかかわり）**

・仲間や幼稚園児と進んでかかわり、一緒に活動しようとする姿
・人との適切なかかわり方を考え、相手を受容したり、時には我慢をしたりする姿
・異年齢の子との触れ合いを通して、人とかかわる楽しさや難しさ、喜びを感じる姿

○落ち葉やどんぐりなどの自然物を使ったり、異年齢の子と一緒に遊んだりすることを通して、自分たちの遊びを広げていくことができる。**（遊びを生み出す力）**

・もっといろんな遊びをやってみたいと、意欲的に取り組む姿
・幼稚園児が興味・関心を抱き、意欲をもって取り組めるような遊びを考え、遊び方を工夫する姿
・相手を意識して遊びを工夫することを通して、自分たちの遊びも広がっていくことに気づく姿

○年少の子と一緒に遊び、よりよい接し方を考えることを通して、自分自身の育ちを感じることができる。**（知的な気づき）**

・自分の思いや願いを相手に伝えたり、遊び方を教えたりする姿。
・年少の子に対する自分の優しさや成長を感じたり、仲間と適切にかかわれる自分に気づいたりして自信をもつ姿
・人とのかかわりや遊びの広がりで感じたことを日常生活に生かそうとする姿

4　単元指導計画

子どもの意識	指導の内容
①②　秋の公園へ行こう 見つけたことを出し合おう 落ち葉やどんぐりたくさんあるよ。／虫がいるよ。赤トンボだ。／遊具で遊んだよ。／どんぐりで何か作りたいな。 ③④個の体験　秋の自然をつかって、つくって遊ぼう。 どんぐりごまを作りたい。／葉っぱでパズルが作れそう。／どんぐりころがしを作って遊びたい／葉っぱで絵を描きたい。 楽しいね。１学期のように幼稚園の子と一緒に遊ぼう。 ⑤作戦会議　幼稚園の子が喜ぶ遊びを考えよう。 今までの経験から　生活科・幼稚園・児童会祭り等での遊び／調べる　家の人に聞く・本で調べる　教師から新しい遊びの紹介 ⑥⑦まず、なかまでやってみよう。 ⑧全体での体験　幼稚園の子と一緒に材料を集めに行こう。 <本時> ☆⑨交流　幼稚園の子と一緒に、つくってあそぼう。 ⑩　また、一緒にあそべたよ。１学期の時よりもなかよくなれたよ。幼稚園の子が喜んでくれて嬉しいな。また一緒にあそびたいな。	①②公園にある遊具や自然物を使って、仲間とともに楽しく遊ぶことができる。（関心・意欲・態度） 落ち葉や木の実遊び、虫探しなどの遊びを通して、自然に親しむことができる。（気づき）　１・２／１０ ③④公園で拾ってきた材料を使って、工夫したり、仲間とかかわったりしながら作って遊ぶことができる。（思考・表現） 自然物で遊ぶものが作れることや、仲間と協力したりすると楽しく遊べることに気づく。（気づき）３・４／１０ ⑤幼稚園児が喜ぶ遊びを考えることを通して、自分たちの遊びを広げることができる。（思考・意欲）　５／１０ ⑥⑦幼稚園児との遊びを実際にやってみることを通して、遊びを体得したり、工夫したりすることができる。（思考・態度）６・７／１０ ⑧幼稚園児と進んでかかわり、遊びに必要な材料を集めることができる。（意欲・態度）　８／１０ <本時> ☆⑨幼稚園児との触れ合いを通して人とかかわる楽しさに気づく。（気づき）　９／１０ ⑩幼稚園児との交流を振り返り、気づいたことを表現することができる（表現）１０／１０

5　本時の目標

幼稚園児が楽しめるように遊びを教えたり、工夫したりして一緒に楽しく遊ぶことができる。

6　本時の展開

学習課程	学習活動	指導上の留意点
願いをもつ／活動する／振り返る	いよいよ今日は幼稚園の子と遊ぶね。幼稚園の子も楽しみにしているよ。仲よく遊べるといいね。 いっしょに拾ってきたものをつかって、ようちえんの子といっしょにつくってあそぼう。 仲間で考えた遊びの中から幼稚園の子が選んだ遊びをペアで一緒に作ったり、教えたりする。**(バズ学習)** (例：どんぐりころがし・落ち葉の絵・木ののれん等	※本時に先立ち、児童の意欲化と幼稚園児の期待感を膨らませるために、事前に幼稚園児と児童のペアで一緒に材料集めに行く時間を設定する。 ※自分の願いは、事前にポートフォリオに記すことで子ども達自身が確かめられるようにし、教師も把握しておく。 ※幼稚園の先生との連携を図り、幼稚園児への事前指導をお願いしておく。 (自然物を使った遊びへの意欲化・遊びへの参加を促す等)
	幼稚園児に自分から進んでかかわることがでる子	評価1 幼稚園児に作りたい物を聞くことができたか。
	・幼稚園の子が作りたい物を聞く。 ・幼稚園の子に作り方を教えながら一緒に作る。 ・工夫し合いながら相談して作っていく。	◇活動しやすいように環境構成に配慮する。 ・生活グループの体形で活動する。 ・すぐに見られるようにポートフォリオは手元に置かせる。 ・道具コーナーを用意しておく。 ・救急コーナーを作っておく。(安全配慮)
	※意欲的な活動や人とのかかわりのよさを認め、ほめる。グループの子にも教えるように助言する。	※仲間や幼稚園児のことを意識して活動できるように言葉をかけたり、認め励ましたりしていく。 評価2 ①活動に熱中しているか。 ②仲間や幼稚園児のことを意識しながら活動しているか。
	生活グループの仲間とかかわって活動できる子	
	・事前に作った作品を真似て作ろうとする。 ・作り方をグループの仲間に聞く。 ・自分の作った作品を友達に見せる。	
	※仲間とのかかわりのよさを認め、幼稚園児ともかかわれるように励ます。	※仲間の発表を聞き、拍手したり、称え合ったりして、どの子も成就感をもてるようにする。 評価3 自分の頑張り、仲間のよさに気づいたり、認めたりしようとしているか。
	自分一人で活動を進める子 活動に入れない子	
	・作品作りにとまどいを見せる。 ・自分の作りたいものを自分一人で作る。 ・周りができていくのを見てヒントにする。	
	※作る姿を認め励まし、幼稚園児とのかかわりへとつなげる。作り方を仲間に聞くように促す。	※活動やかかわりのよさを教師も語り、価値付けて広める。
	本時の活動を振り返ろう。 幼稚園の子が喜んでくれて嬉しかったよ。 ○○さんが幼稚園の子に優しく教えていたよ。 幼稚園の子とあんまり遊べなかったよ。 遊びグループで協力したり、幼稚園の子に教えたりして、一緒に遊ぶことができたね。 後かたづけもしっかりとやろう。 幼稚園の子も一緒に片づけよう。	

本時は、幼稚園児と一緒に活動するバズ学習であり、本時の活動すべてが、自分以外の人とのかかわりに気づき、かかわり方を学ぶ小学校１年生におけるバズの精神を貫くものであると考える。

―泉小学校・指導案―

国語科指導構想

【学校教育目標】

考えやりぬく子・思いやりのある子・じょうぶな子

子供の実態

育っている姿
◎言語活動に熱中する姿
◎単元の見通しを持ち、着目言語を核として読む姿

育ちきれていない姿
・言語を用い、活発に伝・えあう姿（話し合い・プレゼンテーション）
・獲得した言語を生活の場に生かす姿

めざす子供像

自ら求め、仲間と共に学び続ける子

【研究主題】

自ら学び、学ぶ楽しさを味わう子供の育成

願うん子供の姿

・進言語活動に励む子
・言語に着目して、見通しを持ち、追究する子
・仲間と言語を核として学び合える子
・学び方を身につけ、基礎的な言語能力を身につけた子
・獲得した言語を生活の場で生かす子

土岐市の教育

・基礎的・基本的な内容の明確化と指導計画の組の改善充実中学習過程の評価子供たちの学習を通して発展形態の工夫
・子ども一人一人の多様な学習の形態の工夫

【研究テーマ】

進んで言語活動に取り組み、一人一人が基礎的な言語能力を育む国語科学習

研究の仮説

①教科の本質に立った子供理解の実現
②一人一人の個性が伸びる指導計画の充実
③一人一人の願いや多様なる考え方を足場とし、互いに学び合い言語能力を高める指導と援助の在り方

左記の三点を究明し、実践することは、子供一人一人の基礎的な言語能力を伸ばすことを具現できる。

研究内容1 子供理解の工夫

教科の本質に立った学習姿勢の確立

①多様な言語活動の提示と繰り返し学習
②基礎的な言語能力の規準に照らした児童理解

研究内容2 単元構想・学習活動の工夫

一人一人の個性が伸びる指導計画の充実

①児童の願いを核とした、学ぶ意識が連続する指導計画づくり（総合単元的な指導計画づくり）
②付けた い力を明示した指導計画づくり
③学習計画表（**ポートフォリオ**）を活用した主体的な学習の成立
④学習形態の工夫
＜バズ学習の多様化＞

研究内容3 評価と指導・援助の工夫

言語能力を高める指導と援助の在り方

・明確な評価規準
・着目言語を核とした指導・援助の工夫
・形成的評価の充実
＜ポートフォリオ評価＞
・自己決定や自己選択の場の多用

特別公開Ⅰ　（９：３５－１０：２０）

２年３組　国語科学習指導案

場　所　　２年３組教室（中舎２階）
授業者　　加藤　直子

１．単元名　　気持ちを考えて読もう　「お手紙」

２．指導の立場

（１）単元について

この作品は、一通の手紙を通して、かえるくんとがまくんの心が触れ合い、友情の絆がさらに深まっていく様子を描いている。来るあてのない手紙を待つがまくんの淋しさと、その心を思いやりそっと手紙を書くかえるくんの優しさは、周りの人との温かな触れ合いや親しい交わりを望む人間誰もが持つ欲求と行動の表れである。２年生の子ども達にとっても身近な問題として意識できる内容であり、共感を得やすい題材であると思う。

また、物語の場面が、がまくんの家、かえるくんの家、そしてまたがまくんの家へとはっきりしていること、登場人物の表情も豊かに表現された親しみやすい挿絵が描かれていることからも、登場人物の心情の移り変わりをとらえていくことを子ども達に意識させやすい作品である。自分が読みとったことを友だちのそれと比べさせたり、友だちの考えや表現と関わらせるなかで、子ども達の見方・考え方をさらに深めさせられるようにしたいと願っている。

「お手紙」以外にも、ローベルの作品には、思いやりのすばらしさを表したほのぼのとした作品がいくつもある。登場人物の言動と、派手さはないが明るく落ち着いた感じの挿絵は、子ども達を引きつけることであろう。ローベルの世界に子ども達を楽しく遊ばせ、場面の様子や登場人物の気持ちを想像させ、言語感覚を養い、読書への興味・関心を高めさせたい。

（２）児童の実態

子ども達は、本を読んでもらうことが大好きである。月に一度のお母さん方による読み聞かせの時間や教師の読み聞かせでは、挿絵を見ながら、物語の世界にじっくり浸って聞き入っている。

がまくんとかえるくんのお話も子ども達に人気がある。無邪気に自分の気持ちを表現できるがまくん。明るく行動的なかえるくん。それぞれの個性を尊重し合い、ほのぼのと触れ合う二人の姿に子ども達は共感を覚えるからであろう。「アイスクリーム」、「そりすべり」では、どの子も声を上げて話に聞き入っていた。

挿絵や読んでもらうことを手がかりにして理解していくことはできるが、分かったことや感じたことを自分なりの言葉で表現することに引っ込み思案な子が多い。感想を聞いても、「面白かった」、「楽しかった」などの単発的な返答で済ませようとすることも目立ったので、「どんなことが、どう面白かったのか」、「自分はどこが気に入ったのか」など、息の長い発言をするように機会をとらえては働きかけてきた。音読でも、着目した言語から登場人物のどんな気持ちが伝わってきたのかをはっきりさせてから、間の取り方や語調、速さなどを工夫するように指導してきた。

学期が進むにつれて、音読練習に繰り返し取り組もうとする子が増えたこと、暗唱できるまでになった子が出てきたことも嬉しい。

しかし、全体の場での発言を臆する子もまだまだ見られるので、主体的に自己表現できる子を育てられるようにしていく必要があることを痛感している。

本単元では、会話文が多く、誰の言葉かすぐ分からない子も数人見られたので、がまくん、かえるくんそれぞれの会話に色別のシールを用意して貼らせることにした。音読の際には、登場人物の表情や心情、行動などについて考えさせ、人物のイメージがより詳しくなるように動作化なども取り入れたいと考えている。グループ毎に地の文、登場人物で役割読みの発表会を行うことも考えている。子ども達それぞれの個性あふれる読みを教師も子ども達同士でも評価し、認め合えるようにしたいと願っている。

（３）研究主題とのかかわり

子ども達は、がまくんとかえるくんのお話のいくつかを知っているが、「お手紙」は、本単元で初めて読む子がほとんどである。初発の感想では、「かえるくんって優しいな。」「かたつむりくんが『まかせてくれよ。』『すぐやるぜ。』って言ったのに、４日もかかって届けたところが面白かった。」という意見が多く出された。

個々の願いをポートフォリオや発言から探っていくと、疑問としては、「かえるくんはどうして『ぼくがお手紙を書いたよ。』って教えてあげなかったんだろう。」「かえるくんは他の人にたのめばよかったのに、どうしてかたつむりくんに頼んだのかな。」「４日も待って大変じゃなかったのかな。」という人物の心情を探っていくための手がかりになる意見が出された。『登場人物の気持ちを考えて、音読できるようにしよう』を本単元の学習課題として取り組むことに決めた。

また、人前で気軽に話せるようになることを願って、バズを多く仕組むことにした。自分では考えつかなかったことやものの見方を友だちから教わり、読み深めたり、話題の順序を考えて計画的に話すことのできる友だちの話し方から知らず知らずのうちによい影響を受け、さらに向上してもらいたいと願ったからである。

一人ひとりの願い、学び、成就感、よさをポートフォリオからつかみ、全体の場へと広げていきたいと考えている。本時は、「かえるくんからお手紙を書いてもらったことを知り、不機嫌な気分から幸せな気持ちになっていくがまくんの姿」「喜ぶがまくんを見て、自分も楽しく手紙を心待ちにするようになったかえるくん」の気持ちの変化をグループでの話し合いから一斉学習へと広げ、クラス全体が二人の気持ちに共感できるようにしたいと考えている。

3　単元の目標

○場面の様子をとらえながら音読し、がまくんとかえるくんの気持ちの移り変わりや心の触れ合いに関心をもつことができる。
○登場人物の気持ちになって音読したり、手紙を書いたりして、発表することができる。
○ローベルの他の作品を読み合い、読書の楽しさを味わうことができる。
○かぎの使い方を理解し、主述、修飾・被修飾の関係に注意すると同時に、いろいろな言葉に興味をもつことができる。

4　単元指導計画　（全１５時間）

過程	学　習　活　動	指　導・援　助	着　目　言　語
つかむ	○学習についての見通しをもつ ・全文を読み、意味のよく分からない言葉について考え合うとともに新出漢字の練習をする。 ・場面の移り変わりに気をつけて話の大体の内容を理解し、感想を書く。 ・初めの感想を出し合い学習課題をつくるとともに、学習の方法について考える。	教師の読み聞かせを行う。 会話文の頭にがまくん、かえるくんで色別のシールを貼らせる。 個々のポートフォリオからも願いをつかむ。	「お手紙」 「会話文」 「地の文」
ふかめる	○学習課題をもとに、場面ごとに読み深める ・手紙を待っているがまくんの悲しい気持ちを読みとる。 ・手紙を書いてかたつむりくんに渡すまでのかえるくんの気持ちを読みとる。 ・手紙を心待ちにしているかえるくんと、あきらめと悲しみを強くしていくがまくんの気持ちを読みとる。 ・手紙を書いたことを打ち明けるかえるくんの気持ちと、それを知ったときのがまくんの気持ちを読みとる。（本時） ・手紙を待っている時の二人の幸せな気持ちを読みとる。 ・手紙を受け取り喜ぶがまくんとそれを見て満ち足りたがまくんの気持ちを読みとる。 ・学習して分かったことを中心にして、登場人物に手紙を書く。	ワークシートを用意し、吹き出しに登場人物の気持ちを書かせたり、個々に読みとったことを書き込ませる。 個々の実態を把握し、賞賛や個別指導をする。 挿絵の表情などもじっくり観察させ、登場人物の心情に迫れるように助言する。 来るあてのない手紙を待っていたがまくんの表情とかたつむりくんの来るのを待ちわびるがまくんの表情の違いに着目させる。	「ああ。」 「かなしい気分で」 「大いそぎで」 「がまがえるくんへ」 「お昼ね」「あきあきしたよ」 「まだやって来ません。」 繰り返し 「だって、ぼくが・・・。」 「親愛なる」「親友」 「ああ。」 「長いことまって」 「四日たって」 「とてもよろこびました。」
つなげる	○グループ毎に役割読みの練習をして、音読発表会をする。 ○ローベルの他の作品を読み合い、互いに紹介し合う。	音読のめあてをはっきりさせて取り組ませる。	

5　本時の目標　（本時　８／１５時間）

○ かえるくんが自分にお手紙を書いてくれたことを知ったときのがまくんの幸せな気持ちを「ああ。」に着目して思いうかべることができる。

6　本時の展開

過程	学　習　活　動	教　師　の　指　導・援　助
つかむ	○初めから前時までの場面を思い出す。 ○本時のめあてを確認する。 お手紙のことを聞いたがまくんの気持ちを考えよう ○本時の学習場面をペアで役割読みする。	＊手紙のことは黙っていてびっくりさせようと思っていたけれど、来ないことをすねて投げやりな態度をとるがまくんの姿を見かねて自分が書いたことを打ち明けてしまったかえるくんの気持ちを想起させる。 ＊役割を交代して読むようにする。
ふかめる	○がまくんの気持ちを吹き出しに書く。 ○読みとったことをバズで交流する。 「ああ」、「親友」などの言葉に立ちどまって、がまくんの気持ちを考えよう。 ・がまくんは不幸せな気分だったけど、「幸せだなあ。」という気持ちでいっぱいになったよ。 ・「かえるくんが書いてくれたんだね。よかったなあ。」 ・「かえるくんがいて、とってもうれしかった。」と思っているよ。 ○バズで話し合ったことをクラスに広げる。 ○本時の学習場面をかえるくん、がまくんになったつもりで音読する。	＊「親愛なる」「親友」の意味を理解させ、本時の課題に迫れるようにする。 ＊吹き出しにとまどっているいる子に個別指導する。 ＊バズをする中で気づいていったこと、友だちのよさについても発表させる。 ＊既出の「ああ」とのニュアンスの違い、読み方の違いに着目させる。 ＊見つけたグループや個のよさを評価し褒める。
つなげる	○本時の学習活動についてふり返る。 ○次時のめあてについて確認する。	＊次時の予告をする。

―泉小学校・指導案―

算数科学習指導構想

【学校教育目標】

考えやりぬく子・思いやりのある子・じょうぶな子

子供の実態

育ってきている姿
- 仲間と交流することのよさを感じとるようになってきた。
- いろいろな方法で、追究しようとする子が増えてきた。
- 考え方の根拠を見つけながら、発表する子が増えてきた。

伸ばしたい姿
- 自分の考えを仲間に筋道立てて説明する力を付けていきたい。

めざす子ども像

自ら求め、仲間と共に学び続ける子

研究主題

自ら学び、学ぶ楽しさを味わう子どもの育成

願う子どもの姿
- **交流することによって、学び合えるよさを感じとる子**
- **既習事項を用いて、問題を解決する子**

土岐市の教育
- **基礎的・基本的な内容の明確化と指導計画の改善充実**
- **子供が熱中して取り組むための学習過程の究明とよさや可能性の評価と指導**
- **子供が学習を発展させる多様な学習形態の工夫**

研究テーマ

算数的活動を通して学ぶ楽しさを実感する算数科指導

研究の仮説

操作と概念がつながる算数的活動を効果的に仕組めば、子どもが興味関心を持って、算数を楽しく学習することができる。

研究内容１
子ども理解の工夫
1　既習事項の確認
2　ポートフォリオで学びの確認

研究内容２
単元構想・学習活動の工夫
1　効果的な算数的活動を位置付けた単元指導計画
2　学習形態の工夫(バズ学習を中心に)

研究内容３
評価と指導援助の工夫
1　ポートフォリオの活用
2　子ども理解を生かした指導援助の工夫

３年３組　算数科学習指導案

場　所　　３年３組（南舎２階）
授業者　Ｔ１後藤祐輔　Ｔ２岩崎秀子

１・単元名　**「わり算の筆算」**

２・指導の立場

（１）単元について

本単元は、２位数÷１位数、３位数÷１位数の２つの小単元で構成されているが、学習指導要領との関連を要約すると次のようになる。

＜Ａ（４）＞
除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
ウ　除数が１位数の場合筆算形式について知り、用いること

この単元では、

①計算の原理や方法の理解をはかり、計算できるようにする。
②計算の仕方の習熟をはかる。
③習熟した演算を他の場面に活用できるようにする。

この３つを中心に、指導することになっている。

かけ算の筆算では、○図、式から計算原理や方法を学習し、筆算の習熟を図った。かけ算は、かける数がふえていけば、積も増えていくことから、頭の中で容易にイメージでき、筆算も抵抗少なく受け入れることができた。また、○図や式を単元の中で繰り返し使うことで、計算原理の習熟も十分図ることができた。

しかし、わり算は、割られる数が商より数が小さくなる。これだけでも、抵抗が予想されるが、その上、筆算では、たてる→かける→ひく→おろすといった４段階を行う。児童には、とても複雑な計算になる。ましてや、繰り下がりのあるわり算を頭の中でイメージすることは、強い抵抗があると考えられる。

そこで、わり算の計算原理を深める指導として、タイル図、ブロック図などの半具体物の操作の指導が重要であると考える。半具体物の操作を単元の中で繰り返し行うことで、わり算をイメージ化させながら、計算原理の理解と筆算の理解を深めていくことにつながると考えるからである。

また、この単元の流れを、前時に学習したことが、新たな課題の足場作りとなるように、工夫した。かけ算の筆算同様、計算の適用範囲が拡張していく単元なので、既習事項に触れながら、単元の流れを児童に意識させて進めていきたい。そして、わり算の筆算の便利さや美しさを味わわせていきたい。

（２）児童の実態

本学級の児童は「算数」が好きである。その要因を考えてみた。１つには、毎時間１題の問題解決学習であること。「～について考えてみよう」という課題に向かって自分なり解決していけばよい、解決したとき「できた」「分かった」という喜びが持てることにある。２つには、自分が行った具体的操作が概念形成に結びつくことが分かることにある。３つには、既習したことを用いれば解決できそうであると実感できることにある。１学期に「わり算」の等分除、包含除を学習した。問題場面を身の回りに置き換えたり、絵図で提示するとわり算の持つ意味を理解する手助けとなった。また、「はやい・かんたん・せいかく」のキーワードを提示するといろいろな考え方の中から最適なものを判断する手助けとなった。課題解決に向かうとき「絵図」「式」「筆算」等のアイテムを提示すると、解決の糸口になった。

自分なりの考えが持て、ノートに書き表すことができるようになり、研究主題にある「算数的活動を通して学ぶ楽しさを実感し始めている」児童が増えてきた。

さて、１時間の学習過程の中の「深める」段階でバズ学習を取り入れてきた。単元のまとめの時間にグループで「作問」に取り組んできたり、自分の考えを発表し合ったりした。全体の場では、なかなか発表できない児童が話すことができるよさが見られるようになった。だから、より多くの児童が取り組めたり、喜びを持てたりできるように今後さらにバズ学習を充実したものにしていきたいと考えた。

（３）研究主題とのかかわり

算数的活動を通して、学ぶ楽しさを実感する算数科指導

①遊びの中に算数的活動として、「ひまわりの種をグループの子に同じ数ずつ分けるといくつずつ分けられ、いくつあまるだろう。」という遊びの中から、実際に子ども一人一人が分ける体験をゆとりの時間に行った。これは、わり算を半具体物の操作からわり算の概念や筆算にせまるだけではなく、体感することからも、わり算の概念や筆算の便利さに触れることができると考えたからである。
②単元の既習事項を掲示に残し、考えの足場作りとなるようにすることや、単元を「わり算大王」というキャラクターを登場させながら、子どもたちが楽しみながら、追究できるように工夫した。
③ポートフォリオを使い、子供たちの考えやつまずきを把握して、個別指導へと生かした。
④バズを授業の中に位置づけることによって、従来の一斉授業以上に、仲間とかかわりを多く持つことができる工夫をした。これは、自分の考えを自分の言葉で、仲間に表現することや仲間の考えに多く触れる機会を増やすことがねらいである。このことが、算数の表現力を伸ばし、仲間と自分の考えを深めるという学習効果を上げると考えたからである。

本時では、各位の商が割り切れる３桁のわり算を扱うが、既習した各位の商が割り切れる２桁のわり算と関連しているので、筆算、式、ブロック図、タイル図を使い、追究していき、バズを通して、考えを深めさせていきたい。

3・単元の目標

（1）桁数が増えても、計算原理や手順は同じであると考え、２，３，４位数を１位数でわる計算を生かそうとする。（2）被除数を数の仕組みに基づき、加法的構造に分けてみることができる。

（3）２，３，４位数を１位数で割る除法の計算原理や手順、方法がわかり、筆算を用いて正しく計算することができる。

4・単元指導計画

時	1	2	3	4	5（本時）	6	7	8	9	10
ねらい	２位数÷１位数で、各位数ごとに割り切れる場合の計算原理と計算の仕方が分かる。	２位数÷１位数で、十の位は割り切れないが一の位まで計算すれば、割り切れる場合の計算の原理と筆算の仕方が分かる	２位数÷１位数で商が２位数のあまりのある場合や商の一の位の０場合の筆算の仕方を理解し、計算することができる。	２位数÷１位数の問題を解き、立式や筆算の計算の習熟を図る。	既習内容を生かして、３位数÷１位数で各位が割り切れる場合の筆算の方法を理解し、計算することができる。	３位数÷１位数で商が、３位数で続けて、繰り下がり、あまりのある場合の筆算の仕方を理解し、計算することができる	３位数÷１位数で商が空位のある場合の筆算の仕方を理解し、計算することができる。	３位数÷１位数で商が２位数になる場合の筆算の仕方を理解し、計算することができる	４位数÷１位数の筆算の仕方を理解し、計算することができる。	単元の学習を通して、身につけた力を発揮し、習熟を図る。
主な習活動	素材　朝顔包含除問題 ６８÷２ ひまわりの種で導入 問題把握 ６８÷２の計算の仕方を考えよう 自力追究 ・筆算で ・絵図で ・式で ・タイル図で ・ブロック図で ６８÷２の計算の仕方を説明しよう。 全体交流 まとめる 筆算は、十の位のわり算と一の位のわり算を計算する 式６８÷２＝３４ ３４こ 練習問題で確かめる	素材 折り紙包含除問題 ７２÷３ 問題把握 ７２÷３の計算の仕方を考えよう。 自力追究 ・ブロック図で ・タイル図で ・式で ・筆算で ７２÷３の計算の仕方を説明しよう。 全体交流 ・まとめる 十の位にあまりが出る場合、一の位に繰り下げて計算する 式７２÷３＝２４ ２４まい 練習問題で確かめる	素材 テープ等分除問題 ６７÷４，７４÷７ 問題把握 あまりのでるわり算の計算の仕方を考えよう。 自力追究 ・筆算で ・ブロック図 ・タイル図で あまりのでる計算の仕方を説明しよう。 全体交流 まとめる あまりのあるわり算の筆算は、一の位の割った数があまりになる。 式６７÷４＝16あまり３ １６本とれて３mあまる 練習問題で確かめる。	素材 ｐ１５練習問題 問題把握 ２桁のわり算名人になろう。 自力追究 分からない問題を教え合う。	素材 えんぴつ等分除 ６３９÷３ 問題把握 ６３９÷３の筆算の仕方を考えよう。 自力追究 ・式で ・筆算で ・ブロック図 ・タイル図 ６３９÷３の筆算の仕方を説明しよう 全体交流 まとめる ３けたのわり算は、それぞれの位で、わり算の計算をする。 式６３９÷３＝２１３ ２１３ケース 練習問題で確かめる。	素材 折り紙包含除問題 ８２５÷６ 問題把握 ８２５÷６の筆算の仕方を考えよう 自力追究 ・筆算で・タイル図 ・ブロック図 ８２５÷６の筆算の仕方を説明しよう。 全体交流 まとめる 十の位と一の位に繰り下げて計算する 式 ８２５÷６＝１３７ あまり３ 一人分１３７まい、 ３まいあまる 練習問題で確かめる	素材 ９１７÷３ 問題把握 ９１７÷３の筆算の仕方を考えよう 自力追究 ・筆算で・タイル図 ・ブロック図 ９１７÷３の筆算の仕方を説明しよう 全体交流 まとめる 十の位に割る数がない場合は、０をたてる 練習問題で確かめる	素材 折り紙等分除 ３４７÷５ 問題把握 ３４７÷５の筆算の仕方を筆算しよう 自力追究 ・筆算で・タイル図 ・ブロック図 ３４７÷５の筆算の仕方を説明しよう 全体交流 まとめる 百の位を十の位に繰り下げ、計算する 式 ３４７÷５＝６９ あまり２ １人分６９枚２枚あまる 練習問題で確かめる	素材 ４５８０÷６ 問題把握 ４５８０÷６の筆算の仕方を考えよう。 自力追究 ・筆算で・タイル図 ・ブロック図 ４５８０÷６の筆算の仕方を説明しよう 全体交流 まとめる ２桁、３桁と同じように筆算を行えば４桁も計算できる。 練習問題で確かめる	素材 練習問題 ひまわり問題 わり算名人になろう。 選択コース ひまわり問題 わからないわり算の問題を教え合おう
興・意	いろいろな計算の仕方で答えを意欲的に追究できる	前時との共通点をはっきりさせ考えていこうとする	既習した内容を生かし、意欲的に追究できる。	既習した内容を生かし、問題を意欲的に解く。	既習した内容を生かし、計算の仕方を欲的に追究する。	第２時で既習した内容を生かし、問題を意欲的に解こうとする。	第３時で既習した内容を生かし、問題を意欲的に解こうとする。	既習内容を生かし、前時と違いをはっきりさせ、意欲的に追究する。	既習内容を生かし、問題を意欲的に解こうとする。	意欲的に問題を解こうとする。
考え方	筆算の仕組みが分かる（位わけ）	十の位の繰り下げの意味が分かる。	一の位が０の場合の筆算の意味がわかる。	式の意味を理解し、立式できる。	３位数のわり算の仕組みが分かる。	繰り下がりのある３位数のわり算の仕組みが分かる。	商に空位がある筆算の意味が分かる。	３位数÷１位数で商が２桁になるわり算の筆算の意味が分かる。	４位数のわり算の筆算の意味が分かる。	
表・処	筆算の書き方が分かる。	筆算の方法が説明できる	あまりの表現の仕方が適切にできる。	文章題、筆算が正しくできる。	３位数のわり算の仕方が説明できる。	繰り下がりのあるわり算が説明できる。	商に空位のあるわり算の説明ができる。	３位数÷１位数で商が２桁のわり算の説明の仕方が分かる。	４位数のわり算の説明の仕方がわかる。	
知・理	筆算の仕方がわかる	繰り下がりのあるわり算の計算ができる。	２位数のわり算を筆算でできる。	２位数のわり算の問題を解くことができる。	３位数のわり算の問題を解くことができる。	繰り下がりのある３位数のわり算の問題を解くことができる。	商が３位数のわり算の筆算の問題を解くことができる。	３位数÷１位数で商が２桁のわり算の筆算の問題を解くことができる。	４位数のわり算を筆算でとくことができる。	わり算の筆算を使った問題が出きる。

5、本時の目標

3位数÷1位数で各位が割り切れる場合の筆算の方法を理解し、計算することができる。

6，本時の展開

過程	T1（後藤）の動き	学習活動	T2（岩崎）の動き
つかむ 見通す	※進行 ◇教材提示 （図）えんぴつの図を提示 ・問題をつかむ支援（包含除） ・前時使った式との違い着目させる ※課題提示をする 評価1 課題を把握できたか ※ 主に1～4G机間指導 個人追究が進まない児童 →第1時の掲示に着目し、振り返らせる。 →ヒントカードを渡す。 個人追究が終わった児童 →説明の仕方を考えさせる。 →お互いのペアができた場合、バズを行い発表準備をさせる。 評価2 計算の仕方で筆算を追究できたか	素材 えんぴつが639本あります。3本ずつケースに入れると何ケースできるでしょう。 1・問題場面について考える ・639本を3本ずつ分けるから、わり算だな。 ・聞いていることは、何ケースできるかだな。 ・式は、639÷3だ。　・今日は、3けたのわり算だ。 639÷3の計算の仕方を考えよう 2・自分の方法で解く A（筆算で） 2 3）6　3　9 6 2　1 3）6　3　9 6 3 3 2　1 3）6　3　9 6 3 3 9 2　1　3 3）6　3　9 6 3 3 9 9 0 B①（式で） 639÷3 ┬ 600÷3＝200 30÷3＝10 9÷3＝3 ┴ 213→（筆算へ） ②（タイル図で） 3　6　3　9 →（筆算へ） ③（ブロック図で） 3 →（筆算へ） 639÷3＝213　213ケース 自分の計算の仕方を説明しよう。 3・全体で交流する 4・まとめる。 3桁÷1桁の筆算は、繰り下がりのない2桁÷1桁の筆算と同じように計算できる。 5・練習問題を解く 3つの選択コースに取り組む。	◇教具準備 ・ミニ黒板（発表用） ・ふりかえり掲示の作成 ・ヒントカード用紙 （ブロック図用紙） （タイル図用紙） ・選択問題コース作り ◇問題把握が遅い子に対し、一緒にイメージを膨らませる支援。 評価1 問題把握できたか ◇追究時　主に5～8Gの机間指導 ・T1と同じ支援、励まし 評価2 計算の仕方で筆算を追究できたか
追究する			
深める まとめる	※全体交流の進行 まとめ ※授業の価値づけ ・既習したことを生かした児童に対し価値づける 評価3 筆算を習熟できたか		※価値づけ　態度面 ・追究時、つまずきを乗り越えた児童への価値づけ ・仲間とのかかわりの価値づけ 評価3 筆算を習熟できたか

一泉小学校・指導案一

―泉小学校・指導案―

社会科学習指導構想

【学校教育目標】 考えやりぬく子・思いやりのある子・じょうぶな子

子どもの実態
育ってきている姿
◎課題に対し自分の思いを持って追求できる

育ちきれていない姿
- 資料や事実から内容を正確に読み取る力がやや弱い。
- 自分の考えを広げ、自分の行き方にかかわって考察する力がやや弱い。
- 仲間とともに考えを練り上げることになれていない。

めざす子供像
自ら求め、仲間と共に学び続ける子

研究主題
自ら学び、学ぶ楽しさを味わう子供の育成

願う子どもの姿
- 自ら問題を見つけ解決できる子
- 資料や事象から事実を見つけたり、つなげたりして活用できる子
- 社会的事象について、多面的にとらえ考察できる子
- 仲間と練りあって考えを深めることのできる子

土岐市の教育
- 基礎的･基本的な内容の明確化と指導計画の改善充実
- 子供が熱中して取り組むための学習過程の究明とよさや可能性の評価と指導
- 子供が学習を発展させる多様な学習形態の工夫

研究テーマ
資料を通して社会的なものの見方・考え方を深めながら自分なりの考えを持ち追究できる社会科指導

研究の仮説
- 子供が興味を持って追究し続ける単元構成や学習活動の工夫
- 資料の開発・提示の工夫・資料を読み取る力をつける指導
- 個の願いを把握し、学びのよさを広げる指導援助と評価の工夫　を追究すれば願う子供の姿を具現することができる。

研究内容１
子供理解の工夫

1　学びの良さをとらえる子供理解の工夫
- ポートフォリオでの学びの確認

研究内容２
単元構想・学習活動の工夫
1　自ら学び、学びあうことのできる学習活動の工夫
- 主体的に調べることのできる単元構想の工夫
- ワークシートの活用

2　学習形態の工夫（バズ学習を中心に）
3　資料の開発　・提示の工夫

研究内容３
評価と指導援助の工夫
1　一人一人が学ぶ喜びを味わう評価・援助の工夫
- ポートフォリオ評価

2　学びに質を高める指導援助の工夫

特別公開Ⅰ（9：35～10：20）

4年4組　　社会科学習指導案

場所　　4年4組教室（南舎2階）
授業者　　小栗敏子

1 単元名　各地のくらしとわたしたちの国土　「低地の人々のくらし」

2 指導の立場

（1）　単元について

本単元のねらいは「国内には地形や気候の条件から見て、様々な特色のある地域があり、そこでは、人々がその土地の環境に適応しながら生活していることを理解させる」ことである。

本単元では、低地として代表的な輪中地帯である海津町を取り上げた。本校と10年前から交流している南濃町の近くにあり、子供たちも意識しやすい土地である。海津町は県内の南西部に位置し、木曽川、長良川、揖斐川の三川はさまれた低湿地であるための昔から洪水による被害が絶えなかった。そのため「宝暦治水」、「三川分流工事」などの治水工事が行われ、そこに住む人々も、輪中堤、水屋、堀田などを作り、水や洪水から生命や財産を守るために努力してきた。現在では、治水事業の進展により水害が減少し、排水施設の充実にともない、昔ながらの堀田や掘割りは姿を消し大規模な機械化農業や野菜などの近郊農業も盛んに行われるようになった。このように、低地に住む人々は、自然条件の中で洪水に悩まされながらも様々な工夫や努力をしてくらしや生産の向上を図ってきた姿をわからせていきたい。

また、海津町は遠隔地であり、子供たちに直接目にふれた経験は少ない。学習にあたっては、抽象的にならないよう実感として理解させるために、既習学習地域や自分たちの地域と比べたり、体験的活動で補っていく学習を仕組んだりすることで、より実感的に、低地に住む人々のくらしや特色をつかませていきたい。洪水の被害については、先月の愛知県新川の決壊のニュースが記憶に新しいところだが子ども達は、洪水が起こった様子についてニュースの映像を見たりしており、そのVTRなども資料として活用し、視覚的にとらえさせていきたい。

本時は、見学をして調べてきたことを基にして考えを深める授業である。本時取り上げるのは主に「水屋」であるが、水屋とは、洪水時の個人的な避難場所であると同時に、米や味噌しょうゆなどを日ごろから収納しておくための屋敷内に盛り土し、石積みされた建物である。しかし、洪水への対応として作り出された水屋は、地主階級に人しか持つことができず、大半の農民たちは洪水時は屋根裏で、蛇やねずみと一緒に、飢えを忍んでじっと水を引くのを待つような生活を強いられた。また、共同での避難場所として、「助命壇」もある。しかし、水屋のようにトイレまでもつ豪華なものとは対照で、たくさんの人がひざを突き合わせ、雨にぬれ、水が引くのを待った。多くの寺や神社もこのような助命壇としての機能を持った。本時では、輪中のこうした事実から、輪中の人々の生活の知恵や、洪水の時の人々の苦しい思いにも気つかせたい。また、洪水から生命やくらしを守ることの困難さを少しでも乗り越えようとする姿にもふれさせたい。

（2）児童の実態

1学期の「ごみ」、「水」の単元では自分の生活の中から疑問を見つけ、実際に市内の浄化センター・環境センターの見学や家の人への取材・自分の実体験などを通して問題を解決する活動を中心に行ってきた。見学に際して熱心にメモを取ったり、疑問を聞くなど意欲的に調べ、見学新聞としてまとめることができた。調べることは好きだが、調べたことを発表して終わることが多い。また、資料を見て、わかることはたくさん出すことができるが、資料の事実と事実とを関連させて考えれる子は少ない。バス学習では、誰とでも積極的に話し合える雰囲気がありパターン化された話し合いの中では、問題解決に立ち向かう姿が見られるようになった。違う考え方についてはなかなか考えを取り入れられない子が多いが、バズで資料をつなげて発言している子を認め、広めさせていきたい。

（3）研究主題とのかかわり

本単元では、学習の対象地域が遠いために、資料や教科書をもとにした学習が中心になってくるが、子供の理解や思考を広げるために、社会見学という体験的な学習を単元の中に、組み込み込んだ。、見学したり調べたりするなどの体験的な社会見学で木曽三川公園を見学し川の様子や水屋などを見学させる。そして課題に対する考えの足場を確かなものにさせる。また、輪中の地形が低地であることを、既習学習の高鷲村と比較したり、自分たちの住んでいる土岐市と比べたり、また模型を作ることで視覚的に、地形的に、特徴をつかませたい。

授業のつかむ段階では、ポートフォリオを用いてバズで本時のめあてを確認する。また、深める段階では、ゆさぶりの発問や、深める課題を提示し、バズで考え方の良さを交流したり、授業内容を深めるようにした。さらに授業の終末では、バズでお互いの考え方のよさを評価しあう活動を位置つけた。本時での学習はは6／12時である。社会見学で木曽三川公園を訪れ調べてきたことを基にしたり、準備してある資料を使ったりして課題について発表する場である。「昔の人は洪水に備えてどんな工夫をしていただろう。」という課題に対し、石垣を組んだ家を建てた。上げ船、水屋などの洪水に備えての工夫や宝暦治水・三川分流工事などの洪水をなくす努力や苦労についての考え方がある。本時は特に「水屋」に焦点を当てて「水屋のよさを見つけよう」という課題でバズを行う。水屋の中には、水や食料が貯蔵されているなどの特徴やそれを立てた人の考えもつかませたい。しかし、資料から水屋はすべての人が持っていたわけではないことをつかませる。洪水が起きた場合の当時の人々の状況をさらに深く気付くことができると思う。バズでは、互いの意見を出すだけに終わらず、リーダーは一人一人の意見のよさを見つけ広めるようにする。また、話し合った内容は、ボードにメモし、意見をまとめやすいように配慮する。

―泉小学校・指導案―

3　単元の目標

低地に住む人々が水との戦いの中で、様々な工夫や努力を重ねて自然環境に適応して生活してきたことを、住居や農業水防の様子を調べることによりつかむことができる

4　単元指導計画

時	1　輪中の地形	2・3　社会見学と見学のまとめ	4　輪中の地形	5　輪中の生活	6輪中の生活(本時)	7　治水工事	8　輪中の米つくり	9　農業の変化	10　現在の輪中	11　まとめ
ねらい	海津町の土地の様子を資料からつかみ、単元の学習課題を作ることができる	輪中にすむ人が洪水の多い土地で暮らすためにしてきた工夫や努力について見学を通して調べることができる	高須輪中の模型を作ることを通して・土地が低く堤防に囲まれた地域であることに気づく	高須輪中の模型から洪水が起こりやすいことを理解し、洪水の恐ろしさが分かる	輪中に住む人々は、洪水に備え、水屋を建てたり洪水のときには、助命壇や堤防に避難した事がわかる	洪水を防ぐために、江戸時代に宝暦治水が明治時代には三川分流工事が行われ、以後被害が少なくなったことが分かる	堀田での米作りの特徴をとらえ、低地の水はけの悪さを克服し、少しでも生産を高めようと工夫していることが分かる	海図町では、気候や水はけのよくなった土地を生かしてや野菜作りが盛んになったことがわかる	輪中の人はいつ襲ってくるかわからない水害に対し常に備えをしていることがわかる	今までの学習をもとに輪中についての新聞を書くことができる
学習活動	1　海津町の位置を地図で確認する 海津町はどんな土地だろう 2　航空写真を見て地形の様子について話し合う ・3つの大きな川に囲まれている ・田やビニールハウスが多い ・家は堤防近くに多い 3　土地の断面図から調べる ・輪中の大部分が海面より低い ・北に行くほど土地が高い 低地のくらしの学習計画を立てよう ・どんな被害があったか。 ・生活ではどんな工夫をしているか。 ・農業ではどんな工夫をしているか。	輪中のくらし 大水に備えてどんな工夫や努力があったのかを調べよう しおりにまとめよう ・輪中の様子 ・水屋と家の作り ・宝暦治水のついて ・堀田での農作業	高須輪中の地形を模型で作ろう 1　地形図をもとに輪中の模型を作る 2　模型地図に地名を入れる ・三川の名前 ・大江川 ・高須 ・外浜 ・千本松原 ・今尾 3　じょうろで水を流して輪中の様子を調べる 堤防に囲まれているんだな	1　輪中地帯で困ることについて話し合う ・洪水になりやすい ・水がたまりやすい 洪水がきた時、どんなことに困るのだろう 2　洪水の写真を見て被害について話し合う ・家が壊され、水に使って使えなくなる ・命を落としたり、病気が流行ったりする ・水、食料に困る ・学校もいけない 洪水が多い土地なんだな	低地に住む人々は、洪水を防いだり、備えたりするためにどんな工夫をしていたのだろう ・上げ仏壇 ・家の周りの雑木林 ・石垣で高くした家 ・船 ・水屋を建てた ・宝暦治水 ・三川分流工事。 ・堤防を作った 水屋のよさを見つけよう ・高い石垣 ・食料や水 ・座敷 ・トイレ ・米俵 2水屋の分布図を提示 3水屋を持たない人の話を聞く	洪水を防ぐためにどんな工事をしたのだろう 1　薩摩藩の治水工事についてプリント資料をもとに調べる ・苦労が多かったけれど完全ではなかった 2　デレーケの三川分流工事について、プリント資料をもとに調べる ・川の流れをまっすぐにした ・三川をきちんと分けた 3　洪水回数と被害の資料を提示 ・デレーケの工事以後、洪水が減った たくさんの歳月、人々の苦労により洪水を無くす工事があったんだな	1　堀田の写真を見て話し合う ・田の形が細長く、他の中に池がある ・水路がたくさんある ・船で行くから農作業が大変だろう ・ 堀田のような形で米作りをしたのはなぜだろう ・水はけがよくなるように少しでも田を高くしたんだな ・米を少しでもたくさん取れるようにしたんだな 輪中では、少しでも生産をあげるために堀田を作って米作りをしたんだな	1　農業の生産額の変化のグラフを見て話し合う ・米がたくさん取れるよ ・トマトもメロンもハウスで作っているよ なぜこんなに米や野菜作りが盛んになったのだろう ・堀田を埋め立てて、土地が広くなった ・8つの排水機場が設けられて水がたまる心配がなくなった。 現在は排水施設が整い、県下でも有数の生産をしているんだな	1長良川決壊場所を確認する 今は大水に供えてどんな工夫をしているのだろう 資料から調べる ・広報搭で早く知らせる ・水防団を作り訓練している。 ・今でも堤防がある。 3輪之内町が洪水にならなかったわけを考える ・昔からの十連坊堤が守ったんだな。	輪中の学習で心に残っていることを新聞にしよう ・図やグラフを使ってみよう。 ・感想を入れてみよう でき上がった新聞は掲示してクラスで交流していく、
資料	岐阜県地図 高須輪中の航空写真 土地の断面図	社会見学のしおり	高須輪中の地形図 高須輪中の白地図 粘土 じょうろ	洪水の写真 洪水の回数グラフ 輪中の模型 輪中に住む人の話	洪水の写真 洪水の回数グラフ 社会見学のしおり 上げ船・水屋の写真 水屋の分布図	治水の歴史 １００年程前の川の流れ 洪水の回数グラフ 三川分流工事年表	堀田の写真 堀田の作業の様子 農作業の道具の絵や写真	農業生産額と土地利用 排水機上の分布図 排水機の仕組み	安八町水害の写真 十連坊堤の写真	社会見学新聞 学習プリント

5　本時の目標　輪中に住む人々は洪水から暮らしを守るために水屋を建てて備えたり、洪水が起こった時には堤防や助命壇に避難したりしたことが分かる。

過程	学習活動	教師の指導・援助
課題把握／	○ ポートフォリオを用い、今日のめあてを確認する。 ○ 洪水の写真を提示 低地に住む海津町の人々は、洪水を防いだり、備えたりするためにどんな工夫をしていたのだろう。	◇資料１　洪水の写真 ◇資料２　洪水の回数グラフ ※前時に使った資料を用い、洪水の被害について想起させる。 ※社会見学のしおりを準備させておく。
課題追究	○ 個人追究 ・ 石垣の上に家を建てて、水につかないようにした。 ・ 船を用意して、洪水になった時に、避難するために、使った。 ・ 何日も生活できるように、水屋を建てて、普段から、水や食料を蓄えておいた。 ・ 上げ仏壇で大事な仏壇を守った。 ・ 家の周りに雑木林を作り、洪水のときの流木を防いだ。 ・ 宝暦治水や、三川分流工事をして、洪水を減らそうとした。 ・ 堤防を作って水の害を防いだ。 ○ 全体交流	※　ワークシートに考えをまとめさせる。 ※　～のために・・・したという根拠のある考え方を大切にする。 ◇資料３　石垣の写真 ◇資料４　上げ船の写真 ◇資料５　水屋の写真 ※考えがまとまらない子には、しおりを参考にして書くよう援助する。
	○水屋のよさについて話し合う バズ：水屋のよさを見つけよう ・ 水がつかないように高い石垣の上に建てられている。 ・ 水が引くまでに何日もかかるので食料や、水が貯蔵してある。 ・ 座敷があるので休憩できる。 ・ 洪水になると田がつかえなくなるので、米俵をおいて備えてある。 ・ トイレがあるので用便に困らない。	※生活グループでバズを行う。 ◇水屋の写真を見てバズをする。 ※自分の家や普通の家と比較させて考えさせる。 ※、ボードを準備して意見をメモできるようにしておく。 ※バズの様子を机間指導しながら確認する。
／	○水屋の分布図を提示し、水屋を持てる人がすごくわずかであったことを知る。 ○ 水屋を持たない人は、洪水のときどうしたのかVTRで話を聞く。	※水屋のよさを十分に出して理解させる。 ◇ 資料６水屋の分布図 ◇ 資料７水屋を持たない人の話 ◇ 助命壇の写真
学習の整理	○ プリントに、まとめる。 「昔、低地に住む人々は、洪水から身を守るために、水屋を建てた。しかし、水屋を持たない人は、助命壇などに避難した。	※水屋・助命壇の２つの言葉を入れてまとめさせる。

ー泉小学校・指導案ー

理科学習指導構想

子どもの実態

◎育ってきている姿

①一人一人の子どもは自分なりの見方や考え方を生むところまで育ってきている。

②仲間と交流して学習する態度が育ってきている。

△育てたい姿

・仲間の見方や考え方にかかわり、より科学的に考える姿

学校教育目標

考えやりぬく子・思いやりのある子・じょうぶな子

研究主題

自ら学び、学ぶ楽しさを味わう子どもの育成

願う子どもの姿

主体的に自然にかかわり、自分なりの見方や考え方、感じ方を自覚する子ども

仲間の見方や考え方とかかわり、考察し、科学的な見方や考え方を身につける子

土岐市の教育

◆基礎的・基本的な内容の明確化と指導計画の改善・充実

◆子どもが熱中して取り組むための学習過程の究明とよさや可能性の評価と指導

◆子どもが学習を発展させる多様な学習形態の工夫

研究テーマ

自然や仲間とかかわり、科学的な見方や考え方を養う理科学習

研究の仮説　自然とかかわり、実感を伴う体験や活動をもとに、仲間の見方や考え方と比較、関連づける考察を繰り返すことにより、科学的な見方や考え方が養われるのではないか。

研究内容１
子ども理解の工夫

（１）児童の感じ方、見方や考え方の変容をポートフォリオによって把握し、考察に生かす。

（２）ポートフォリオをもとにした児童の感じ方を問題や課題に生かす。

研究内容２
単元構成・学習活動の工夫

（１）体験や活動からの感じ方を出発点とし、調べることを明確にした学習活動の工夫

（２）調べ、話し合い、再度調べる学習過程の工夫

（３）仲間の感じ方や見方や考え方とかかわり、科学的に考察する学習形態の工夫（バズの活用）

研究内容３
評価と指導・援助の工夫

（１）自らの感じ方や見方や考え方を自覚するポートフォリオ評価の工夫

（２）仲間と科学的に考察するための教師の指導・援助の工夫

特別公開Ⅰ（9:35～10:20）

5年2組　理科学習指導案

場　所　第1理科室(北舎1階)
授業者　西戸義正

1　単元名　　「おもりのはたらき」

2　指導の立場

(1) 単元について

本単元での基礎基本となる内容は、次のとおりである。

(2) おもりを使い、おもりの重さや動く速さなどを変えて物の動く様子を調べ、物の動きの規則性についての考えをもつようにする。
ア　糸につるしたおもりが1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、糸の長さによって変わること。
イ　おもりが他の物を動かす動きは、おもりの重さや動く速さによって変わること。

本単元では、ふりこにつけるおもりの重さや糸の長さを変えて、おもりが1往復する時間のきまりをとらえること、おもりを他の物に衝突させ、おもりの重さや速さを変えると当てられたものの動き方が変わることをとらえることがねらいである。

これらの量的変化に目を向けて調べる活動を通して、物の運動やそれに伴う変化の規則性についての見方や考え方を養うとともに、物の運動に興味・関心をもって意欲的に追求する態度を養うことが重要である。

あわせて、規則的に変化することをとらえるために数回測定を繰り返し、測定結果を表またはグラフに表して客観的な事実から結論を導き出していこうとする態度を養っていきたい。

(2) 児童の実態

◎　自然や仲間とのかかわり

1学期、メダカの飼育をした。水草に産卵し始めると、毎日水槽に集まって、卵の成長の様子を観察していた。観察している時は、必ず複数で見ていて、「目ができた」とか、「中が動いている」とか話をしながら観察していた。また、キュウリの世話をしているときも、仲間で誘い合って、草をとったり、水をやったりして世話をしていた。このように、仲間同士で、自然事象について、かかわり支点を明らかにすることができるようになってきた。しかし、だれもが考えを出し合い、深め合う姿には弱さがある。

そこで、2学期のグループ編成の時に、どのグループも話し合いが深まることを考慮した。理科では、観察、実験の流れの中にバズを位置付けて、グループのメンバー各自の意見を、反映させて実験、観察を行うことを繰り返す体験を持たせたい。

◎科学的な見方や考え方

メダカを観察する場面では、メダカの周りに数名の子供が集い、雌雄の違いやえさの種類、産卵の仕方について互いの考えを出す姿が見られた。課題について、仲間同士で考えを出すことにより、視点が明確になることがあった。視点が明確になると再び観察する活動へとつながり見方や考え方もいっそう科学的になる姿があった。このことを本単元にも生かしたい。

(3) 研究主題とのかかわり

理科部研究主題

自然や仲間とかかわり、科学的な見方や考え方を養う理科学習

研究内容2　仲間の感じ方や見方や考え方とかかわり、科学的に考察する学習形態の工夫

自分の考えと、仲間の考えを比べながら、計画を立てたり実験を行ったりして、学習を深めていけるような、学習形態を工夫していく。

本単元では、課題、予想、実験方法、実験、実験結果、考察のパターンで、実験を行う。そこで、その流れを確実に進めていくために、ペア、グループで実験をしたり、ワークシートを活用して、自分の考えと仲間の考えを交流したりする学習を重視する。一人一人の見出した事実を比べたり、関連付けたりすることにより、事実から考慮する力が育ち、科学的な見方や考え方が養われると考える。この時、ペア、グループの仲間と交流したり考えを交流したりすることに価値がある。

本単元では、実験装置として、糸におもりをつるした振り子と、カーテンレールを使って、おもりを転がして衝突させる装置の2種類を使用する。

特に、本時はおもりの重さを変えずに、ふりこの長さを変えたら1往復する時間が変わるかどうかを確かめる。ふりこの長さをいろいろ変えて、その長さによってどのような変化があるかを仲間と協力しながら何回も調べさせる。前時の実験のおもりの重さを変えたときのことと比べながら、ふりこの1往復の変化に必要なことは何なのかを、本時の実験で明らかにしていきたい。

その学習形態として、バズを取り入れる。まず、グループで前時に計画した実験の確認をし、本時の学習内容をつかむ。次に実験を行い、グループ間で実験結果を交流して、糸につるしたおもりが、1往復する時間は、おもりの重さによっては変わらないが、糸の長さによって変わることに気づかせていきたい。

3　単元の目標

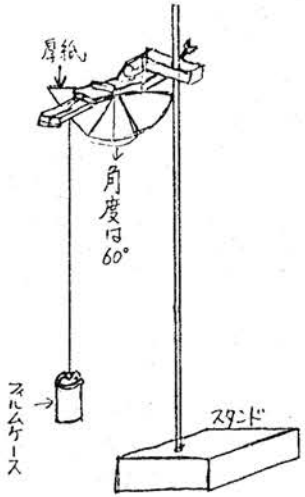
①　1往復する時間の違うふりこに興味をもち、おもりの重さや糸の長さを変えて調べ、ふりこは糸の長さによって1往復する時間が変わることをとらえることができるようにする。

②　おもりどうしを衝突させ、当てるおもりの重さや速さによって当てられたものの動き方が変わることをとらえ、これらのはたらきを利用して、動くおもちゃを作って遊ぶことができるようにする。

4　単元指導計画　(全12時間)

次	時数	ねらい	主な学習活動	留意点
①ふりこのふれる時間のひみつをさぐろう	1	2つのふりこのおもちゃの1往復する時間が違うのは、おもりのつけ方の違いであることに気づくことができる。	・身の回りにどんな「ふりこ」があるかを話し合う。 ・2つのふりこのおもちゃのふれを見て、どうして1往復する時間が違うのか、おもりのつき方について話し合う。	・前もって、おもりの位置を変えて、その部分が見えないような提示用ふりこを作って、演示する。
	2	ふりこのおもりの重さの条件を変えて、ふりこの1往復する時間が変わるわけを調べて、結果をまとめることができる。	・ふりこの実験装置を組み立て、条件を変えて、ふりこの1往復する時間が変わるわけを調べる。 (ア)　おもりの重さを変える	(ア) 変化させるものは、おもりの重さのみ。振れ幅、ふりこの長さの条件設定を意識させる。
	2 (本時2/2)	ふりこのふりこの長さの条件を変えて、ふりこの1往復する時間が変わるわけを調べて、結果をまとめることができる。	・ふりこの実験装置を組み立て、条件を変えて、ふりこの1往復する時間が変わるわけを調べる。 **(イ)　ふりこの長さを変える**	(イ) 変化させるものは、ふりこの長さのみ。振れ幅、おもりの重さの条件設定を意識させる。
	1	ふりこが1往復する時間は、ふりこの長さによって決まることがわかる。	・ふりこが1往復する時間は、ふりこの長さによって変わることをまとめる。 ・資料を読んで、ふりこを利用したものについて、その原理を話し合う。	・2種類の実験結果をもとに、ふりこの1往復する時間の違うのは、ふりこの長さが関係していることを、再実験して、確かめる。
②ものにおもりを当てるとどうなるか	1	ものにおもりを衝突させるときの、当てるおもりの重さや速さと当てられるおもりの動きとの関係について着目し、当てるおもりの条件を変えたときのはたらきについて実験の見通しをもつことができる。	・2つのおもりどうしを衝突させると、当てられたおもりはどうなるか考える。	・それぞれのおもりがどのような動きをするか、話し合わせる。 ・身の回りの事象もあわせて考えさせる。
	2	おもりが他のものに衝突する時の重さ(速さ)と働きとの関係に問題ももち、斜面を使って、当てるおもりの重さ（速さ）を変えて衝突させ、当てるおもりを重く(速く)すると当てられたものは遠くまで動くことがわかる。	・斜面で、当てるおもりの重さを変えて衝突させ、当てられたものの動いた距離を調べる。 ・斜面で、当てるおもりの速さを変えて衝突させ、当てられたものの動いた距離を調べる。	・初速が変化しないように、おもりの放し方を練習させて、誤差のないようにする。 ・斜面の角度を変えて、おもりの速さを変える。 ・斜面の傾きが大きいと、レールの下のほうで、バウンドしやすいので、そのような時は、角度を調節するよう助言する。 ・同一条件の実験では、役割を固定して、誤差のないように工夫する。
③おもりを当てて動かすものをつくろう	1	おもりの重さや速さと他のものを動かすはたらきとの関係についてまとめることができる。	・当てるおもりの重さや速さを変えたときの、当てられたものの動きをまとめる。	
	2	おもりのはたらきでものを動かすことに興味をもち、おもりを当てて動かすおもちゃやゲームを工夫して作り、みんなで遊ぶことができる。	・オモリを当てて動かすおもちゃを工夫して作り、みんなで遊ぶ。	・いろいろなおもりのはたらきを生かしたおもちゃを例としてあげる。 ・みんなで楽しむことができるような、おもちゃやゲームをグループで計画して製作する。 ・おもりの働きのわかるものを計画させる。

5　本時の目標　　ふりこが１往復する時間は、ふりこの長さが短いほど速くふれることを調べることができる。
6　本時の展開　　（本時の位置　５／１２）

過程	学　習　活　動	※教師の指導・援助　◇留意点
つかむ	<単元の課題> ふりこがふれる時間のひみつをさぐろう 1　課題を確認する <子供の課題> 同じ重さのおもりで、ふりこの長さがちがうと１往復する時間はどうなるか調べよう。	◇　単元計画表を提示して前時までの内容を想起させる。 ◇　実験道具をそろえる ◇　実験するにあたって、そろえること、変えること、実験の回数、役割分担を確認しておく。 ◇　各グループの条件統一ができているか、見届ける。
追究する	2　実験方法の確認をする(バズにより、自分たちで確かめる) ・　そろえること：おもりの重さ(２０ｇ)、見る位置（正面・横)、角度(６０度)、カウントの場所(放したところ) ・　変えること：ふりこの長さ(４５cm、３０cm、１５cm) ・　実験の回数：５回 ・　役割分担：おもりを放す人、時計を計る人、カウントする人、ふりこの向きを見る人 3　実験する ４５cm 回数 1 2 3 4 5 平均 時間 12.6 13.7 12.8 13.3 12.9 13.0 (秒) ３０cm 回数 1 2 3 4 5 平均 時間 10.7 10.6 10.6 10.8 10.7 10.7 (秒) １５cm 回数 1 2 3 4 5 平均 時間 7.5 7.6 7.7 7.5 7.5 7.5 (秒)  	◇　ワークシートを用意する。 ※　正確に実験を行うために、司会者に実験の方法を読み上げさせて、グループ全員が内容を確かにするよう援助する。 ◇　数値の計算は、電卓を使わせる。 ※　数値を比べる時は、平均した数値で比べることをおさえておく。 ◇　数値が一定になるように、実験方法を把握させておく。 ※　データがうまく出せない時は、再実験するよう促す。 ※　具体的な数値を比べているところを認めよさを広める。
まとめる	4　実験結果の交流をする(バズによって) ・　長さが４５cmより３０cmの方が２～３秒くらい速い。 ・　３０cmより１５cmの方が３秒くらい速いことが分かった。 ・　前の時間の実験で、おもりの重さが違っても、ふりこの長さが同じなら１往復の時間は変わらない。 ・　このことから、ふりこが１往復する時間は、ふりこの長さによって変わる。 5　まとめる（終末事象の提示) ・サルの模型（２つ）をふってみせる。	※　ふりこの長さが同じで、重さのちがう実験をしているところを取り上げて、前時の実験と関連付けて考えさせる。 ◇　ふりこのふれる時間は、ふりこの長さに関係していることをおさえる。

―泉小学校・指導案―

総合的な学習指導構想

【学校教育目標】

考えやりぬく子・思いやりのある子・じょうぶな子

めざす子供像
自ら求め、仲間と共に学び続ける子

【研究主題】

自ら学び、学ぶ楽しさを味わう子供の育成

【研究テーマ】

見通しをもって追究し、仲間と共に考えを深め合う子供の育成

◎ 考え方をもつ姿
◎ 自ら学習を進める姿
・ 考えを深め、広げる姿
・ 自ら学び続ける姿
・ 仲間と共に考え合う姿
・ 学習を通して、自己を伸ばす姿

土岐市の教育
・ 基礎的・基本的な内容の確実な習得と指導計画の改善
・ 子供がのめり込む学習過程の評価と組織的な取り組み
・ 多様な学習形態の工夫
・ 子供が学習を発展させる

研究の仮説
・ 体験から学習活動を考えさせる。
・ 仲間と共に学習を深め、学習の構成を考える。
・ 子供のよさを自覚させる評価と指導・援助を追究すれば、願う子供の姿を具現することができる。

研究内容1
子供理解の工夫

1. 学びの工夫
・ 気づかせる工夫
・ 考えを深める工夫
・ 思いを表現する工夫
・ 行動を生かす

研究内容2
単元構想・学習活動の工夫

1. 単元を生む工夫
2. 学習活動を深める工夫
3. 学習活動の構成

研究内容3
評価と指導・援助の工夫

1. 一人一人の見方や考え方のよさを伸ばす評価と指導・援助
2. 学びに着目した評価（ポートフォリオ評価）

特別公開（9:35 ～ 10:20）

６年１組　はなのき学習 学習指導案

場　所　６年１組教室（中舎３階）
授業者　藤原　誠

１　単元名　「広がれ！私たちの土炎歌！」
～私たちにできるまちづくり～

２　指導の立場

（１）単元について

○単元の価値

本単元は、将来の土岐市を担う子どもたちが駅前地区再開発計画案の立案を通して、自分たちの住むまちを見直す学習である。総合学習に於いて、駅前地区再開発のような地域素材を扱うことには、以下のようなよさがある。

・校区内にあり、見学・観察・探検が容易にできる。
・身近な事物や事象に直接触れることにより、具体的な思考が容易になる。
・素材を身近なものとして捉えることにより、学習に対する興味・関心が高まり、主体的に学習に取り組むことができる。
・地域の人の生きざまにふれることができる。

地域素材を扱い学習を進めていくとき、課題を追究することにより社会認識の広がりや深まりが期待できる。また、学習を通して地域について考え、地域や地域の人々への愛着を育むことができると考える。これらが、本単元における総合的な学習の教材としての価値である。

○単元設定の理由（社会的要請より）

近年、大都市部への人口流出により、過疎の問題を抱える市町村は少なくない。過疎をくい止めるための再開発を考えるとき大切にしなくてはならないことは、「その土地の人がその土地に暮らすことに喜びを感じ、土地ならではのもの・ことを誇りに思うこと」であると考える。その考えのもとに市の玄関口ともいえる駅前地区を例にみると、興味あるデータが存在する。平成１１年に一般市民、地区住民を対象に市が実施したアンケートによると、住民の実に７割が将来に対する希望に消極的な観測を持ち、一般市民の８割が市全体の発展や個性創出の観点から駅前地区を最優先で活性化する必要があると答えている。現在、市は「市民本位の行政参加のまちづくり」を進めている。将来の土岐市を担う子どもたちは、それぞれの夢を抱き、斬新なアイデアを持つ。そんな子どもたちに寄せる行政側の期待は大きく、採用できるものに関しては積極的に受け入れる意向を示している。これらを、地域について考え、地域や地域の人々への愛着を育む一つの機会と捉え、これまで「活気あるまちづくり」をめざして取り組んできた子どもの実態と合わせて本単元を設定した。

（２）児童の実態

昨年度、活気あるまちづくりをめざし、土岐市のシンボルとも言える陶器を題材にして踊りづくりを進めた。その過程において、伝統工芸師を訪ね、伝統を受け継ぐ人の生き方にふれたり、地場産業についての理解を深めたりした。また、できあがった踊りを学年に披露し、アドバイスを受けるなど、人とかかわり、相手を意識しながら、「見る人の心に残る踊り」の完成をめざした。学習の形態としては、課題解決へ向け、同内容の活動をする者でグループを編成し、活動に備えるためのバズを多くもった。その際、事前に指導したリーダーが司会を務め、各時間の課題解決に向けたバズが行われるようにした。また、自分の考えを言葉に表すよう働きかけた。これら昨年度の取り組みを通じ、子どもたちは自分たちの取り組みの成果を、披露する対象となる仲間の言葉や表情から感じ取り、人とのかかわりを通じて自分を見つめるようになった。また、自分の考えを発表したり、仲間の意見を引き出そうとしたりする姿がバズのなかで見られるようになった。

今年は、手作りの踊りを８月の土岐市ふるさと祭りで市民に披露した。自分たちで作り上げた踊りを披露することで祭りを盛り上げることに一役買った子どもたちは、有用感を抱き、行動を起こすことに自信をつけ、自分たちでもまちのためにできることがあることを感じた。そして、祭りの時のように活気に満ちたまちと普段の静かなまちとのギャップから、「活気あるまちづくり」を進める意欲が高まった。

（３）研究主題とのかかわり

子どもは、誰もが思いや願いを持ち、よりよいものや、よりよい自分の姿を求める意欲を持っている。しかし、自分の考えに自信が持てなかったり、文字や言葉にしてうまく考えを表すことができなかったりすることにより、課題を解決する方法を見つけにくく、活動への意欲が低減してしまう場合がある。そこで本時までに、研究内容１（子ども理解の工夫）と研究内容２（単元構想・学習活動の工夫）にかかわり、仲間の考えに共感したり、自分の考えに気付いたり、仲間の考えと結びつけて新たな考えを生み出したりするバズを、学習の導入と終末には意図的に設定してきた。そして、単元目標や毎時の目標を意識させながら、意図的にバズへ加わり、子どもの気づきや学びをつなげ、補足をしながら子どもの考えをより確かなものにする指導をしてきた。また、加わる際の足がかりとなる子どもつかみを、授業中の言動だけではなく、毎時使用するポートフォリオによって行い、授業中の発言やポートフォリオへの記述の中から、全体へと広めていきたいものを意図的に抽出し、取り上げ、価値づけていく指導をしてきた。

本時では、バズ学習を成立させるため、リーダーの役割を重視する。そのため、リーダーには事前にグループの主張を明らかにして話すことや、どんな観点での意見を仲間に求めるのかを明確にしておくように指導を行う。また、全体に対しては、リーダーの指示を聞き、発表者にしっかりと耳を傾けることや、発表するときには語尾をはっきりさせ、自分の発表に自信と責任を持たせる指導をする。そして本時が終了した時点では、全員がどのグループの主張内容も理解し、バズを経て次時への課題を立てていることが必要である。

一泉小学校・指導案一

3．単元の目標
駅前地区再開発計画案を立案する活動を通して、ふるさと土岐市に、より愛着を持つことができる。

4．単元指導計画

単元の流れ	活動の展開（時数）	子どもの学び
①課題化	○駅前地区再開発計画立案の依頼状を受け取り、依頼状が来た理由を知ろう。 ・依頼状を受け取る。 ・市が採ったアンケートを見る。 ・写真やビデオから、駅前通の現状を知る。 ○「元気なまちつくり隊」を結成する。 ○家での一週間の買い物の内容と行き先を調べてこよう。（家庭学習） ○駅前通の昔を調べ、今との違いを見つけだしてこよう。（家庭学習） ・駅前の役割や使用頻度等を、家族の体験や想い出を交えて調べる。 ○調べてきたことを発表しあい、分類しながら「よさ」や「問題点」を見つけだそう。 ○目的を持って取材に出かけ、駅前通についてもっと知ろう。（よさ・問題点） ・人の動きを調べよう。 ・店の種類を分類し、地図や模型に表そう。 ・イベントについて調べよう。 ・土岐市の特徴が分かるものを調べよう。 （5）	・アンケートや写真、ビデオから駅前通の現状を知り、依頼状の主旨を理解する。 ・市外在住の方のアンケートへの回答内容から、外部から見たふるさと土岐市の印象を知る。 ・土岐市活性化への意欲を持つ。 ・各家庭の買い物調査を行い、駅前通の現状を身近なものとして捉える。 ・家族の話などから、駅前通の昔を知り、今の様子と比べる。 ・バズを通して調査内容を分類し、自分たちの力で課題を構成する。 ・視点を持って取材に出かけ、駅前通の現状を把握する。 ・取材結果を予想し、自分の考えを記す。 ・予想と事実とを比べることで、取材内容による気づきをより確かなものにする。
②計画・見通し	○調べてきたことを基に、駅前通を活性化するために改善していく必要のあることについて話し合おう。 本時 ○活性化するためにやってみたいことをグループ（生活）ごとに話し合おう。 ○各グループの発表を聞き、自分が取り組めそうなことや取り組んでみたい開発案を決めよう。（グループ再編成） ○新しいグループごとに、再開発案完成までの計画を立てよう。 ・計画表に表そう。 （2）	・活気ある町づくりへの願いと事実とを比べることで、取り組むべき課題を構成する。 ・これまでの経験を活かし、活性化するための大まかな案を立てる。 ・バズを通して自分の気づきや考え、願いなどを明らかにし、自分で課題を選択する。 ・計画を立て、活動への見通しを持つ。
③情報収集 情報吟味 情報操作	○まちの人の願いを知るための取材をしよう。 ・インタビュー　・手紙を書く　・新聞で調べる　・アンケート ・ビデオを撮る　・電話をかける　・本で調べる　・写真を撮る ○取材を通して考えたことや気付いたことを話し合い、開発案に取り入れたいことについて考え合おう。 ○グループの意見をまとめ、開発案を発表する準備をしよう。 （7）	・情報を収集する手段を知る。 ・人との出会いを通して、多様な考えに気づく。 ・礼儀正しい接し方を身につける。 ・自分たちの願いを中心におき、取材を通して気づいたことなどを参考にして開発案を作り上げていく。
⑤発表	○主張点を明らかにして、学級内で自分たちの駅前再開発案を発表しよう。 ・写真やビデオなどの資料を使い、わかりやすく再開発案を説明する。 ・発表を聞き、自分の気づきや考えとつなげて意見を言う。 （1）	・事実をもとに、主張点を明らかにして発表する。 ・自信を持って発表する。 ・気づきや疑問を伝える。
⑥まとめ	○学年発表会で各クラスの考えを聞き、さらに改善できるところを改善する。 ○まとめた再開発案市役所へ提案しに行く。 ○学習を通して気づいたことなどをまとめる。 （2）	・バズを通して生まれた課題や気づきをまとめ、よりよい開発案に仕上げる。 ・自分たちのまとめた情報を発信する。 ・学習を通しての自分の学びをまとめる。

5．本時の目標
互いの意見や考えを伝え合う学習活動を通して、駅前通りのよさや改善点に気づくことができる。

6．本時の展開

展開	子どもの活動と教師の働き	援助・評価
つかむ	**○課題の確認をする。** 仲間の発表を聞き、駅前通りのよさや改善点をまとめよう。 ◇グループ内で異なる内容の記述をしているポートフォリオを用意する。 ・自分のポートフォリオと比べてみる。	※駅前のよさや問題点を調べる活動のなかで、いくつもの問題や課題が出てきたことを伝える。 士で協力して取り組むことの有効性を話す。 **☆ 評価 1 ☆** 自分のポートフォリオと見比べるなどしながら、集中して課題を意識しようとしているか。
	○学習の進め方を確認し、見通しを持つ。 仲間の発表を聞き、考えの同じところや違うところ、疑問に思ったことなどを見つけだし、意見を交流しよう。	※前時におけるバズの様子やポートフォリオへの記述から、バズを通して異なる見方や考え方に気付き、深めようとした姿の紹介・価値付けをし、本時の活動の価値を捉えさせる。
活動する	**○グループ発表を行う。(1G→7G)** ◇グループごとにポストイットを用意する。 ・役割を分担して発表を行う。 （例：原稿を読む・パネルを指す・意見を記録する） ・写真や表を使って意見をわかりやすく伝える工夫をする。 ・語尾を明確にして話す。 ・「よさ」、「問題点」、「改善案」などの項目に分けて貼る。	※語尾が明確でないため、意見なのか質問なのか区別が付かない言葉を言い直させ、正しい話し方を意識させる。 ※発表の途中で質問が出た場合、発表の妨げになることを伝え、思ったことをポートフォリオに記録するなどして、後ほど改めて質問するようにさせる。 ※意見や質問はしっかりと挙手をして意思表示をするように促す。
	○発表を聞き、発表内容について討議する。(バズ) ・司会者は発表した順番に、意見や質問を受け付ける。 ・質問がある場合、発表者はそれに応じる。 ・発表者は他グループからの意見やアドバイスを記録する。 ・語尾を明確にして話す。	※新たに生じる気付きや疑問はすべてポートフォリオに記述しておくように促す。 ※同一内容の意見であっても気づかない場合は、観点を示し、分類しやすいように助言する。
	○発表内容を分類し、課題を見つけだす。(バズ) ◇ポストイットを貼り替えながら分類する。 ・美濃焼の盛んなまちであることを伝える工夫をしよう。 ・人に優しい（障害者やお年寄り等）駅前通りにしよう。 ・歩いてみたくなるような駅前通りの飾りを考えよう。	**☆ 評価 2 ☆** 積極的にバズに加わり、多様な考えを分類しながら駅前通りのよさや改善点をまとめようとしているか。
つなげる	**○振り返りをし、次時への課題を立てる。** ・ポートフォリオに活動内容、気付き、次時へ向けて必要なこと、次時の課題などを記入する。	**☆ 評価 3 ☆** バズを通して気付いたことなどから本時の課題について振り返り、次時への課題を立てているか。